

訓第五一號 (治三十四年三月)

第一條 警察署長警察分署長及警察署在勤警部並巡查部長外勤巡查巡回旅費ハ月額ヲ定メ之ヲ支給ス其等級及額左表ノ如シ

官名等級	一	二	三	等
警部五	圓	四圓五拾錢	四	圓
巡査參	圓	貳圓五拾錢	貳	圓

第二條 信夫警察署長ニハ一ヶ月六圓各署巡查部長ニハ參圓五拾錢支給ス

第三條 左ノ場合ニ於テハ日割ヲ以テ支給ス

- 一 給與ノ初月端日數ニ係ルトキ
 - 二 他官ニ轉任シタルトキ
 - 三 勤務ニ異動ヲ生シタルトキ
 - 四 詰所ノ交換
 - 五 免職又ハ死亡
 - 六 事故ニ依リ勤務ヲ欠キタルトキ (職務上ニ關シ證人參考人トナリ常務ヲ欠キタル等ノ場合共)
- 第四條 左ノ場合ニ於テハ日數七日迄ハ全額ヲ給シ八日以上及賜暇ハ其日數ヲ除キ日割ヲ以テ支給ス
- 一 病氣引(職務上負傷傳染病ニ係リタル場合共)

二 忌引

第五條 第三條ノ日割計算方ハ左ノ各項ニ依リ支給スヘシ

- 一 一項ハ勤務ニ服シタル當日ヨリ二項三項ハ受令ノ日迄
- 二 四項ハ到達ノ翌日ヨリ出發ノ前日迄
- 三 五項ハ其當日迄

第六條 警察署長警察分署長ハ本屬警察署及所屬分署部内ヲ以テ區内トス

第七條 日割計算方ハ其月ノ現日數ニ應シ之ヲ支給ス

第八條 巡查ハ議員選舉取締及傳染病豫防救治ノ爲メ又ハ非常事變ニ際シ出張シタルトキハ泊數ニ應シ一泊金五拾錢支給ス

但舟車馬ノ雇入ヲナシタルトキハ實費ヲ支給ス

第九條 警部ハ上司隨行又ハ非常事變ニ際シ出張シタルトキハ泊數ニ應シ一泊金七拾錢支給ス

但舟車馬ノ雇入ヲナシタルトキハ實費ヲ支給ス

第十條 警察署長警察分署長ニシテ本屬署長又ハ所屬分署長ヲ兼ネタル場合ハ日割ヲ以テ兩署ノ月額ヲ支給ス

第十一條 月額ノ給與ヲ受クル巡查ニシテ臨時補欠ノ爲メ他ノ駐在所ヲ兼ネタル場合ハ日割ヲ以テ兩所ノ月額ヲ支給ス

第十二條 管内外ニ出張シ日當支給シタルトキハ其日數ヲ除キ日割ヲ以テ支給ス

第十三條 月額ノ給與ヲ受クルモノニハ宿直賄料ヲ支給セス

第十四條 月額ハ第二條第二項第五項ノ場合ヲ除クノ外ハ警部ハ翌月五日巡查

ハ毎月末日ヲ以テ支給ノ定日トス 但シ當日休日ニ當ルトキハ繰上トス

○警察官吏區内旅費支給細則ノ件

訓第五二號 (明治三十四年三月)

第一條 警部月額ノ等級ハ左ノ如シ

一 警部月額ハ伊達、安達、北會津、耶麻、西白河、田村、石城、雙葉、相馬警察署長ニ之ヲ支給ス

一 貳等月額ハ安積、岩瀬、南會津、河沼、大沼、東白川、石川警察署長ニ之ヲ支給ス

一 參等月額ハ飯坂、保原、梁川、川俣、本宮、猪苗代、矢吹、新町、鮫川四ツ倉、浪江、原警察分署長ニ之ヲ支給ス

第二條 外勤巡查月額ノ等級ハ左ノ如シ

一 等月額ハ左ノ駐在所在勤巡查ニ之ヲ支給ス

署名	駐在所名
岩瀬警察署	湯本
南會津警察署	盛ノ原、古町、只見、和泉田、黒谷、小林
大沼警察署	川口、横田、下中津川、沼澤
安達警察署	二等月額ハ左ノ駐在所在勤巡查ニ之ヲ支給ス 杉澤、百目木、山木屋、北戸澤
安積警察署	福良、舟津、三代

岩瀬警察署	牧ノ内、隈戸
南會津警察署	山口
耶麻警察署	豐島、笹川
猪苗代分署	沼尻山
河沼警察署	野澤、群岡、尾野本
大沼警察署	砂子原、宮下、西方
東白川警察署	竹貫、松川
石川警察署	蓬田、楮田
田村警察署	古道
石城警察署	下市萱
四ツ倉分署	川前
雙葉警察署	久ノ濱、上川内、大久
浪江分署	下津島
相馬警察署	東玉野
原分署	草野、飯樋

第三條 前條以外ノ駐在所及市街受持ニハ三等月額ヲ支給ス

○人足備役ノ件

警乙第六六八號 (明治二十五年十一月)

警察官吏出張ノ節御用物運搬ノ爲メ人足ヲ備役スル場合ハ斤量ニ貫目以上ニ限
ルモノトス

○巡查轉署ノ節俸給支給方ノ件

訓示第二〇〇號 (明治二十六年十月)

巡查俸給定日以前ニ在テ轉署ノ辭令ヲ拜受シ事務引續キ其他ノ事故ニ依リ滯留
シ定日後ニ至リ赴任スル場合ハ其月ノ俸給及被服費トモ當日在所ノ警察署警察
分署ニ於テ支給スル義ト心得ヘシ

○巡查出張歸署日限經過ニハ証明書ヲ添付スルノ件

訓示第五七號 (明治二十九年三月)

自今巡查公用出張ニシテ雪支川止メ又ハ其他ノ障礙ニ依リ歸署日限ヲ經過シタ
ル場合ハ該旅費證書ニ別紙書式ノ證明書ヲ添付スヘシ

(別紙)

證明書 (用紙半紙)

巡查 何 某

右明治何年何月何日何々御用ニ付何處へ出張セシメ候處途中何々(除却ノ狀況等ヲ)
付何日間何處ニ滯留シ(又ハ歸署日限シ)何月何日午(前)何時歸署セリ右ハ實際止ムチ
得サレ義ニ有之候條旅費支給ノ件ヲ認可セリ

右證明書

何警察署又ハ分署長

年月日

官 氏 名 團

○營繕費支出報告書調製ノ件

警第一二四號 (明治三十年十月十三日)

營繕費支出報告書之儀ハ是迄建築及營繕費トシテ記入報告相成居リ候處整理上
差支ナ生シ候條自今ハ指定及廳舎柵塀ノ區別ヲ立テ報告相成度此段及照會候也

○派出所赴任旅費ノ件

甲第二三號 (明治二十年三月三十一日)

(警察 一般)

巡查派出所(警察署分署所
在地ヲ除ク)赴任旅費其他支給方ノ儀ニ付別紙ノ通訓令相成候其旨
心得ヘシ

右相違候事

(別紙)

(縣)訓令第二八五號 明治二十年三月三十一日

巡查派出所(警察署分署所
在地ヲ除ク)赴任旅費其他支給方左之通相定メ明治二十年四月一日

ヨリ施行ス

但本文ニ觸抵スルモノハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

一 警察署又ハ分署ヨリ派出所迄ハ一般ノ成規ニ依リ赴任旅費ノ額ヲ給ス

但歸署ノ節モ亦同シ

一 派出所所在勤中本屬所出張及部内巡回ハ總テ明治十九年(六月)內務省令第

十一號第四條ニ準シ其治數ニ應シ日當ヲ支給ス

一 派出所 在勤中へ明治二十年三月訓令乙第二八四號警部巡查辦當料支給規
則第一條ニ準シ一夜辦當料二度分チ支給ス

○在勤所赴任旅費ノ件

警甲第三六號 (明治二十年四月十四日)

(警察一般)

巡查在勤所赴任旅費其他支給方別紙之通訓令相成候條其旨心得へ
右相違候事

訓令乙第三六〇號 明治二十年四月十一日

(警察一般)

巡查在勤所赴任旅費其他支給方へ明治二十年三月訓令乙第二八五號巡查派出所
支給方ニ準シ明治二十年度ヨリ支給スヘシ

○特別科教習所へ入所者ニ對スル俸給其他支給方ノ

件

警第六五八號 (明治三十三年六月)

英語教習ノ爲メ巡查教習所へ入所下命ノ者ニ對スル俸給其他支給方後記ノ通ニ
候條此段及通牒候也

記

一 俸給へ任地出發ノ月ヨリ警察部ニ於テ支給ス

一月額及需用品代料ハ任地出發ノ前日マテ支給ノコト

一 入所旅費ハ任地出發ノ日ヨリ入所前日マテ支給ノコト

借入所前日マテトハ假令ハ七月一日ヨリ入所ヲ命セラレタルトキハ出發
ノ日ヨリ六月三十日夜マテノ分チ精算支給スルモノトス

○警部部内旅費請求ニ關スルノ件

警第一八二號 (明治三十二年七月)

調査上必要有之候條警部部内旅費請求ノ際ハ日誌正副ニ通添附有之度此段及通
牒候也

追テ目的地マテ直接旅行ノ場合ハ日誌ノ添附ヲ要セサルモ其發着町村大字名
及里數ヲ請求書面ニ記入相成度此段添申候也

○傳染病豫防救治ニ從事スル巡查旅費額ノ件

訓令丁第二六六號 (明治三十二年八月)

檢疫委員事務所々轄内ニ於テ傳染病豫防救治ニ從事スル巡查(巡查部長ヲ除ク)
ノ旅費額左ノ通相定メ明治三十二年八月十五日ヨリ施行ス

第一條 警察署及警察分署部内出張ハ日當及車馬賃氣車賃等ヲ給セス泊數ニ應
シ宿泊料一泊金七拾錢ヲ支給ス

第二條 他ノ警察署及警察分署ヨリ應援ノ爲メ出張セシ巡查ハ往復ニ限り成規
ノ旅費ヲ支給シ其他ハ前條ニ依リ支給ス

第三條 村落駐在所詰巡查ニシテ其授持管區内ト雖トモ大字ヲ異ニシ宿泊シタ
ル場合ハ第一條ニ依リ支給ス

○赤痢病豫防救治ノ爲メ應援セシメタル巡查ニハ往復ニ限リ成規ノ旅費ヲ支給ノ件

訓第一六九號 (明治三十三年八月)
赤痢病豫防救治ノ爲メ他ノ警察署及警察分署ヨリ應援セシメタル巡查ニハ往復ニ限リ成規ノ旅費ヲ支給シ其他ハ泊敷ニ應メ宿泊料一泊金七拾錢ヲ支給ス
本令ハ明治三十三年八月二十日ヨリ施行ス

○停車場名ト等シキ市町村トノ間ニ在ル陸路距離ニ對シテハ總テ旅費支給セサル件

警第一六〇五號 (明治三十二年十月)
各停車場所在地町村ト其停車場名ト等シキ市町村トノ間ニ在ル陸路距離ニ對シテハ總テ旅費支給セサル旨別紙之通り内務部長ヨリ通牒相成候條此段及通牒候也

(別紙)
内國第八〇二〇號 明治三十二年十月十八日 (内務部長)

本縣管内各停車場所在地町村ト其停車場名ト等シキ市町村トノ間ニ在ル陸路距離ニ對シテハ總テ旅費支給セサルコトニ決定相成候條依命此段及通牒候也

○檢査委託醫手當額ノ件

訓第六一號 (明治三十四年四月)
檢査委託醫手當額左ノ通相定メ明治三十四年四月二日ヨリ施行ス 但明治二十

六年四月訓令乙第十三號及明治二十五年四月達乙第二十一號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

乳牛檢査一ヶ所一回 (頭數ノ多寡ニ拘ハラス) 金參拾錢

乳汁檢査一ヶ所一回 (同) 金貳拾五錢

屠獸檢査一頭牛金貳拾五錢 馬羊豚各金拾五錢

○衛生技手其他旅費額ノ件

訓第六二號 (明治三十四年四月)

衛生技手其他旅費額左表ノ通相定メ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス 但支給方法ハ明治三十年勅令第三百三十三號内國旅費規則ニ據ル明治二十八年二月訓令下第三十八號及同三十三年二月訓第一〇號其他之レニ抵觸スル從前ノ達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

	買車	一哩	付車	馬一	里	宿泊	一日	日當	一日						
衛生技手	金	參	錢	金	拾	五	錢	金	八	拾	錢	金	五	拾	錢
監督獸醫	金	參	錢	金	拾	五	錢	金	八	拾	錢	金	五	拾	錢
檢査委託醫	○			金	拾	五	錢	○				金	參	拾	錢
檢査委託醫	金	參	錢	金	拾	五	錢	○				○			

○赴任旅費其他ノ旅行ニハ最少ノ旅費額ヲ支給スル

件

訓示第五六號 (明治三十二年六月)
自今赴任旅費其他旅行ノ際ハ其當着地マテ流車ノ便アルカ又ハ流車ノ陸路ト相
跨ルトキハ規定順路ニ比シ最少ノ旅費額ヲ支給スル義ト心得ヘシ

○端里數計算方ノ件

調第六四九號 (明治二十三年十二月二十三日)

(警察分署)

旅行中兩年度ニ跨ルトキハ端里數計算方ノ義別紙ノ通大藏省總務局長ヨリ通知
相成候ニ付此段及通知候也

(別紙)

藏丙第一八七號 明二十三年十二月十五日

旅行中兩年度ニ跨ルトキ端里數計算方ノ義ニ付別紙ノ通大藏省總務局長ヨリ通
知有之候間此段及御通知候也

(別紙) 明治二十三年十二月九日

旅行中兩會計年度ニ相跨ルトキ端里數ハ各切捨相成可然旨御問合ノ向ヘハ回答
ニ及置候次第モ有之候處自今ハ其端里數ヲ通算シ一里ニ滿ルモノハ旅費支給シ
之ヲ後年度ノ精算ニ立ツル方可然省議ヲ經テ此段及御通牒候也

○消耗品支給方ノ件

警第七七〇號 (明治三十四年七月)

(警察分署)

需用品代料支給規則ハ本年度ヨリ廢止相成候ニ付巡查駐在所ニ於ケル消耗品ハ
凡テ現品ニテ支給スヘキモノト誤解セラル、向有之候處右ハ一切支給スヘキモ
ノニ無之候得共左記事項ニ係ルモノハ經費内ヨリ支給相成度依命此段及通牒候也
記
一 摘要録 戸口異動簿 日誌 物件臺帳等ノ用紙ハ現品ニテ支給スルコト
一 其他ハ凡テ在勤者ノ自辦タルベキコト
以上

○警察費支辨文具ノ件

訓示丁第四七號 (明治二十七年四月四日)

(警察分署)

- 警察費支辨ニ屬スル特別用文具左ノ通相定ム
- 一 文鎮 製圖用特種ノモノ
 - 一 コンパス 同上
 - 一 烏口 同上
 - 一 定木 角定木丸定木等製圖及製本用
 - 一 尺度 製圖及製本用
 - 一 筆 製圖用特種ノモノ

- 一 墨 同上
- 一 ペンサキ 同上
- 一 インキ 同上及簿記又ハ復寫版用
- 一 硯箱(筆墨共) 應接所見張人民扣所並ニ巡查教習所生徒用
- 一 硯石 同上
- 一 鉛筆 演說筆記用及巡查教習所生徒用

○留置外國人食料ノ件

警乙第三五五號

(明治二十四年六月二十二日)

(警 察 署 警 察 分 署)

留置外國人食料ノ儀ニ付警保局長ヨリ別紙ノ通牒有之候條其旨心得可
右通達ス

(別紙)

警神第四三號 明治二十四年六月十八日

神奈川縣ヨリ留置外國人食料ノ件ニ付別紙ノ通り伺出ニ對シ指令相成候條爲念
此段及御通牒候也

(別紙)

內第二百八十五號 明治二十四年五月二十八日

留置外國人食料ノ義ニ付伺

本縣居留地警察署ニ留置スル外國人犯罪者食糧ノ義ハ明治八年第五百十三號公

達ニ依リ取附フヘキモノト思考候處其体格習慣或ハ宗教(或宗教ニテハ某日ニ限リ)上
ノ關係等ヨリ食料ノ種類ヲ異ニシ又ハ増糧ヲ要スル場合モ有之候間特別ノ取扱

ヲ以テ一食金拾錢マテナ程度トシ相當ノ食糧給與候様致度此段相伺候也

內務省指令甲第一百一號 明治二十四年六月十七日

本年五月二十八日內第二百八十五號伺留置外國人食料ノ件開届ク

但領事ヨリ依頼ニ由リ逮捕シ拘留スル者ノ費用ハ其領事ヘ償還方請求スヘシ

○留置場ニ拘禁スル者ノ費用支辨ノ件

警第一五七〇號

(明治二十九年十一月)

警察署留置場ニ拘禁スル者ノ費用支辨方ノ義ニ付今般警保局長ヨリ別紙ノ通り

通牒相成候ニ付此段及御通知候也

追テ從來各種ノ令狀ニ依リ拘禁セン者ノ費用ハ凡テ監獄費支辨ニ有之候處自

今拘留狀ヲ以テ拘禁スル者ノ費用ヲ除ク外ハ警察費ノ支辨ニ屬スヘキ義ニ付

右費用區分方ハ本文通知ノ日ヲ以テ分界トシ御取扱相成度爲念此段申添候也

(別紙)

警甲第九三號 明治二十九年十一月十一日

(警 保 局 長)

警察署留置場ニ拘禁スルモノ、費用支辨ノ件ニ付二十四年三月十八日付警第三

號ヲ以テ通牒及置候處第一項第二及追書中「令狀」トアルヲ「拘留狀」ト改メ候條

依命此段及通牒候也

○蒲團損料支辨方ノ件

警第一三七號

(明治三十年二月)

警察署分署留置場ニ於テ要スル蒲團ニシテ現品ノ備付無之ニヨリ損料ヲ以テ使
用セシ場合ハ換刑禁錮囚拘留囚及拘留狀ニ依リ留置スルモノ、爲ニ要シタルモ
ノニ限リ該損料償還方ナ所轄監獄署ヘ要求シ其他ハ凡テ警察費ヨリ支辨可致儀
ニ有之候條客年十一月警甲第九三號警保局長通牒ヲ分界トシ右様御取扱相成度
此段及通牒候也

○冬服夏服日覆冬服肌着ハ使用期限中ニ限リ支給ス

ルノ件

警第一三〇四號 (明治三十二年八月)

明治三十二年八月四日訓令丁第二五六號ヲ以テ巡查給與品材料及支給方被定候
處冬服夏服日覆冬服肌着夏肌着ハ各使用期限中ニ限リ毎月支給スル義ニ有之候條
爲念此段及通牒候也

○巡查給與品及貸與品規則ノ件

訓第五三號 (明治三十四年三月)

第一條 巡查給與品貸與品員數及保存期限等左ノ如ク

品目	員數	保存期限		品目	員數	保存期限
		本署	分署			
冬服	一組	十八ヶ月	十八ヶ月	肩章	一組	無期
夏服	一組	十二ヶ月	十二ヶ月	劍	一	振同
帽	一個	十二ヶ月	十二ヶ月	現品	一個	一ヶ月
品	一個	十二ヶ月	十二ヶ月	品目	員數	保存期限

種外	套	一着	廿四ヶ月	廿四ヶ月	同	劍緒	一	本	同
種外	套	一着	廿四ヶ月	廿四ヶ月	同	劍帶	一	本	同
日	覆	一個	十二ヶ月	十二ヶ月	同	外袋及 破損品	一	具	一ヶ月
夏	肌着	二組	四ヶ月		同	星卸	一	具	同
冬	肌着	二組	八ヶ月		同	外袋 革套	一	本	無期
下	襟	一個	四ヶ月		同	手帳	一	冊	同
手	套	一個	六ヶ月		同	捕繩	一	筋	同
長	靴	一足	十二ヶ月		同	警笛	一	個	同
短	靴	一足	十二ヶ月		同	巡查教習 生靴	一	個	同
靴	下	一足	一ヶ月		同				

給貸與品ハ總テ現品ヲ以テ下付ス

保存期限計算方本期限ハ給與ノ月ヨリ豫備期限ハ本限期滿了ノ翌月ヨリ起算ス

第二條 新任巡查ニハ夏服ニ限リ二着ヲ給與ス特別ノ勤務ニ服ニ常時制服ヲ着用セサル巡查ニハ給與品ニ限リ滿期ノ翌月ヨリ代料ヲ以テ支給ス 但當務給與ヲ受ケタル給與品及貸與品ハ期限ニ拘ラス在職中之ヲ保存スヘシ

第三條 代料ヲ以テ支給スヘキ金額左ノ如ク

- 一帽 壹個 一ヶ月金 八錢
- 一冬服 壹組 同 金 五拾錢

一夏服	壹組	同	金參拾貳錢
一甲種外套	壹着	同	金貳拾六錢
一乙種外套	壹着	同	金八錢
一日覆	壹個	同	金壹錢五厘
一夏肌着	貳組	同	金參拾貳錢五厘
一冬肌着	貳組	同	金貳拾參錢
一下襟	參個	同	金參錢
一手套	貳双	同	金參錢
一長靴	壹足	同	金貳拾七錢
一短靴	壹足	同	金拾七錢
一靴下	壹足	同	金八錢

代料ハ病氣其他ノ事故ニ依リ全月欠勤ノモノニハ之ヲ支給セズ

第四條 給與品及有期ノ貸與品ハ滿期ノ翌月之ヲ下付ス
一 代料ハ毎月盡日ヲ以テ支給ノ定日(休日ニ當ルトキハ繰上)トス
但退職休職轉職死亡等ノ際ハ此限リニアラス

二 甲乙轉署ノ場合ハ支給定日在勤ノ官署ニ於テ之レヲ支給ス

第五條 無期ノ貸與品ニシテ破損使用ニ堪ヘサルトキハ代品ノ換給ヲ爲スヘシ
但手帳ハ餘白ノ盡キタルトハ之ヲ下付ス

第六條 給與品中豫備期限内ノモノハ村落巡回夜警又ハ水火災警防等ノ事務ニ
從事スル場合ニ於テ可成之レヲ着用セムヘシ

第七條 豫備期限滿期ノ給與品ハ凡テ徽章ヲ除キ本人ニ下付スルモノトス

第八條 退職休職轉職死亡等ノ際ニハ給與品及貸與品共三日以内ニ返納セム
ヘシ 但給與品ニシテ豫備期限内ニ屬スルモノハ第七條ニヨリ本人ニ付與ス
ルモノトス

第九條 給與品及貸與品ノ返納アリタルトキハ課署長之レヲ点檢シ不都合ナキ
モノハ收納スヘシ

第十條 貸與品及本期限内ニ屬スル給與品ヲ毀損亡失シタルモノアルトキハ所
屬課署長ニ於テ手續書ヲ徵シ意見ヲ付シ上申スヘシ

第十一條 新任巡查ニ下付スル給與品ハ返納品中使用ニ堪ユヘキ物品ニ短期限
ヲ付シ給與スルコトヲ得事故ノ爲メ代品ヲ換給スル場合亦同

附 則

第十二條 本規則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第十三條 本規則ニ抵触スル從前ノ令達ハ本規則施行ノ年度ヨリ廢止ス

○巡查給與品及貸與品規則取扱手續ノ件

訓第五四號 (明治三十四年三月)

第一條 巡查給與品ニ關スル事務ハ本手續ニヨリ取扱ヘシ

第二條 警察部警務課及警察署警察分署ニ於テハ左ノ簿冊ヲ備ヘ置キ其出納及
現品ノ保管ヲナスヘシ

警務課
巡查給與品買上留簿 巡查手帖番號簿

巡查貸與品出納簿

巡查給與品出納簿

巡查給與品返納出納簿

巡查給與品修繕書留簿

巡查給與品期限表

警察署警察分署

巡查給與品出納簿

巡查給與品返納出納簿

巡查給與品期限表

第三條 新任巡查アリタルトキハ第一號書式ノ領收證ヲ徵シ給與品及貸與品ヲ下付スヘシ

第四條 給與品貸與品ヲ下付セントキハ第二號樣式ノ期限表ニ通テ調製シ一通ハ警務課ニ保存シ一通ハ其任署ニ送付スヘシ

第五條 給與品中帽、冬服、夏服、甲種外套、乙種外套ニハ給與ノ年月日及官氏名ヲ貸與品中手帖ニハ貸與ノ年月日番號及官氏名ヲ記入シ下付スヘシ

第六條 警察署警察分署ニ於テ給與品及貸與品ヲ請求スルトキハ第三號書式ノ請求書ヲ調製シ年三期(三月七月十一月)ニ區分シ其月五日迄ニ差出スヘシ但夏冬服及日履ハ五月五日迄ニ請求スヘシ

第七條 警務課ニ於テ給與品及貸與品ヲ警察署警察分署ニ送付スルトキハ第四號書式ノ送付切符ヲ調製シ之ヲ送付シ直ニ出納簿ニ登記スヘシ

第八條 警察署警察分署ニ於テ給與品貸與品ノ送付ヲ受ケタルトキハ出納簿ニ記入シ領收證ニ割印シ上警務課ニ返付スヘシ

第九條 警察署警察分署ニ於テ給與品貸與品ヲ下付セントキハ第五號書式ノ領收證ヲ徵シ直ニ出納簿及期限表ニ記入スヘシ

第十條 警察署警察分署ニ於テハ第六號書式ノ給與品及貸與品受拂表ヲ調製シ第九條ノ領收證ヲ添付シ年三回(四月八月十二月)ニ區分シ其月七日迄ニ警察部ニ差出スヘシ

第十一條 巡查轉署ヲ命セラレタルトキハ期限表ヲ前任署ヨリ後任署ヘ送付スヘシ

第十二條 巡查給與品貸與品ヲ返納セントキハ第七號書式ノ返納證ヲ徵シ返納品出納簿ニ記入スヘシ

第十三條 警察署警察分署ニ於テ第十二條ノ返納品ヲ送付スルトキハ第八號書式ノ給與品貸與品返納送付書ヲ調製シ前條ノ返納證ヲ添付シ現品ト共ニ年三回(四月八月十二月)毎回其月十五日迄ニ警察部ニ送付スヘシ

第一號書式 給與品領收證

一帽 壹個

一服 壹組

一甲種外套 壹着

一乙種外套 壹着

一日履 壹個

一夏肌着 壹組

一冬肌着 壹組

計

以下右ニ倣フ

右之通候也

年月日

署名印

自何月何日貸與品領收證

月	日	帽	章	手	帖	捕	繩	劍	緒	事	故	氏	名
		一		一			〇		〇	何引々換	何ノ	誰	誰
計		一		一		一		一					

以下右ニ倣フ

右之通候也

年月日

署名印

一金何程

内

金何程

但前期給與ハ何年何月ナルニヨリ前月マテ滿期ニ付本月給與ノ分

下標何個代但壹個金何程

金何程

手套何個代 但壹個金何程

但前期給與ハ何年何月ナルニヨリ前月ニテ滿期ニ付本月給與ノ分

右正ニ受取候也

何警察署又ハ分署在勤

年月日

官氏名印

宛

備考 二名以上ノトキハ下襟手套ヲ各別ニ分割シ集合仕拂ヲ爲スコトヲ得

證

一金何程

被服費

内

金何程 肌着何組代一組金何程

但前期給與ハ何年何月ナルニヨリ前月マテ滿期ニ付本月給與ノ分

右正ニ受取候也

何警察署又ハ分署在勤

年月日

官氏名印

宛

第六號書式

明治 年 自何月何日給與品及貸與品受拂表

警察署

品	目	前月ヨリ越高	本月元受高	合	計	仕	拂	高	殘	高
帽										

冬服	夏服	甲種外套	乙種外套	日覆	雨覆	下襟	手套	冬肌着	夏肌着	長靴	短靴	靴下	帽章	肩章	劍緒	劍帶	卸

外套縮草	手帖	捕繩	警笛	星卸	鈎革	備	考

右報告候也

警察署長

明治 年 月 日
福島縣警部長殿

警部

第七號書式

明治何年 自何月 至何月 給與品返納證

帽	冬服	夏服	何々	返納月日	氏名
○	一	○	一	何月何日	元巡查何ノ誰○
○	一	○	一	何月何日	同 何ノ誰○

計	〇	一	一	一
	二	三	二	三

以下右ニ倣フ

右ノ通候也

年 月 日

署 名 印

備考 同人ニ於テ數回ニ返納セシ場合ハ其月日ノ異ナルニ從ヒ別欄ニ記入セシムルモノトス

明治何年 白何月 貨與品返納證

計	帽	章	劍	警	笛	何	々	返納月日	氏	名
一	〇	一	〇	一	一	一	一	何月何日	元	元
一	〇	一	〇	一	一	一	一	何月何日	巡	巡
二								何月何日	查	查
									何ノ誰	誰

右之通候也

年 月 日

署 名 印

第八號樣式

巡查返納品送付書

帽 冬 服 夏 服 甲種外套 乙種外套 日 覆

劍	一	劍	一	帶	一	肩	一	章	一	帽	一	章	一	手	一	帖	一	警	一	笛	一
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

右ハ何月何日差記何々便ヲ以テ及送付候也

年 月 日

署 名 印

警察部宛

明治何年何月

巡查手帖番號簿

福島縣警察部 警務課

番 號	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
第一號	何ノ誰			
第二號	何ノ誰	何ノ誰		
第三號	何ノ誰			
第四號	何ノ誰			
第五號	何ノ誰	何ノ誰		

以下右ニ做フ

明治何年度

巡查給與品出納簿

福島縣警察部
警務課

外套

月日	摘要	納人	物品番號	單價	員數	價額	員數	價額	員數	價額
一	前年度ヨリ繰越高			七〇〇〇	五	三五〇〇〇			五	三三〇〇〇
二	巡查給與ノ爲購入	何ノ誰		七〇〇〇	一〇	七〇〇〇〇			一五	一〇五〇〇〇
三	何署へ保管轉換トシテ送付			七〇〇〇	五	三五〇〇〇			一〇	七〇〇〇〇
四	巡查何誰へ渡			七〇〇〇	一	七〇〇〇			九	六三〇〇〇

明治何年度

巡查貸與品出納簿

○巡查備員辨當料支給規則ノ件

訓令已第二五號 (明治二十七年三月)

明治二十四年(四月)廳達第五八號巡查備員辨當料支給規則左ノ通り改正シ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

巡查備員辨當料支給規則

第一條 巡查及備員ノ宿直ハ辨當料一夜金五錢ヲ支給ス

第二條 事務多忙及水火災其他非常ノ事變ニ際シ徹夜勤務ニ服シタルトキハ辨當料一夜金八錢ヲ支給ス

第三條 辨當料ハ適宜代料又ハ現品定額以内ヲ支給スルコトヲ得

○小使辨當料ノ件

訓第一七號 (明治三十三年二月)

明治二十七年(三月)訓令已第二十六號小使辨當料額左ノ通り改正シ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

一 小使宿直辨當料

一夜金四錢

○囚人護送賄料ノ件

訓第一五號 (明治三十三年二月)

明治二十二年(三月)訓令第二百十三號囚人護送賄料額左ノ通り改正シ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

一 宿泊料一泊

金貳拾錢以內

一 晝賄料一度

金七錢以內

○留置人ニ係ル費用ノ件

警甲第九三號參照

警甲第三號 明治二十四年三月十八日 (内務書記官)

警察署留置場ニ拘禁スル者ノ費用支辨方往々疑義ヲ生シ本省へ伺出又ハ當該局長へ照會スル等ノ向有之候處右ハ左ノ區分ニ依ルヘキ義ニ付爲御心得此段及通牒候也

一 令狀ナキ一時ノ留置人ニ係ル費用 食費 衣服費 糞費 其他 一ハ警察署

一 換刑、禁錮囚、拘留囚及令狀ニヨリ留置スル者ノ費用 食費 衣服費 糞費 其他 一ハ監獄署

一 留置場建築修繕費ハ警察費

一 留置場常置ノ器具及臥具ハ監獄費

一本件ニ關スル事務費 筆紙 監置人 警察費 料 消耗品 等

追テ常置器具ノ内或ハ令狀ナキ一時留置人ニ用ユルモノナキニアラサルモ是等ハ主トシテ監獄則ニ依リ備付チナスモノニ付別段費途ノ區分ヲ要セス本分ノ如ク取扱差支ナキ義ト存候

○留置人賄料ノ件

訓示第一六號 (明治三十三年二月)

明治三十一年(四月)訓令丁第五百五十九號留置人賄料額左ノ通り改正シ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

一留置人賄料額
一賄金四錢五厘以內
但外國人ニ係ルトキハ一賄金拾錢以內

第十六類 警察

第二章 保安

○梓巫市子等ノ所業禁止ニ關スル心得方ノ件

縣甲第四一號 (明治十年五月)

梓巫市子並憑祈禱狐下ケ杯ト唱ヘ玉占口寄セ等ノ所業ハ人民ヲ眩惑セシメ候者モ有之哉ニ相聞ヘ不都合ニ候條心得違無之樣可致若シ右類似ノ所業致候者有之候ハ、見聞次第最寄警察署分署ヘ可訴出此旨布達候事

(警) 警第一〇四號 明治十年五月三十一日 (各警察署)

本年縣甲第四十一號ヲ以テ布達致候梓巫市子並憑祈禱狐下ケ等ト唱ヒ玉占口寄等ノ儀ハ人民ヲ眩惑シ古道ヲ害スルモノニ付キ此上トモ精精注意致シ右類似ノ業タリトモ篤ト取糺ノ上夫處分ニ及フヘク此旨相達候事

○富興行類似取締方ノ件

縣甲第一六號 (明治十一年二月)

富興行ノ儀ハ兼テ御制禁ニ有之候處頼母子講杯ト稱ヘ其實富興行致候者モ有之趣ニ相聞ヘ萬一心得違有之候テハ不相成候間此旨諭達候事

○外國人取扱巡查心得ノ件

警第四一八號 (明治十八年十一月)

外國人取扱巡査心得別紙ノ通達相成候ニ付右ニ憑準可取扱此段通達候事
(別紙)

(縣)第六〇號 明治十八年十一月十七日 警察本署)

外國人取扱巡査心得別紙之通達相成候ニ付右ニ憑準可取扱此旨相達候事
(別紙)

內務(秘)第一二六號 明治十八年十月二十日

(府縣) (別紙)

外國人取扱巡査心得別紙ノ通相定候條右ニ憑準シ取扱フヘン此旨相達候事
(別紙)

外國人取扱巡査心得(上卷所載略之)

○摺附木製造取締規則ノ件

縣令甲第五九號 (明治十九年十二月)

第一條 摺附木製造營業ヲ爲サントスル者ハ隣地主家作人及住居人連署ノ願書ニ製造所ノ圖面ヲ添ヘ住所氏名年齢ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ縣廳ヘ願出免許證ヲ受ケルシ

第二條 摺附木製造ニ黃燐ヲ用ユル者ハ特ニ左ノ各項ヲ遵守シ願書ニハ前條ニ定ムル要項ノ外尙ホ其製造ニ黃燐ヲ用ユル旨ヲ記載スヘシ (明治二十三年八月縣令第六十三號改正)

第一 黃燐製造摺附木製造所ハ石又ハ煉瓦ヲ以テ之ヲ築造スヘシ 但周圍ノ家屋六十間以上ノ距離アル場所ニ於テハ木造建家ヲ用ユルモ妨ケナシ
第二 調製室、製造貯藏室及ヒ原料室ハ各之ヲ區畫シ乾燥室ハ之ヲ別棟トシ瓦斯ヲシテ他室ニ飛散セシメサル様戶外ニ導クノ裝置ヲナスヘシ

第三 工場内ハ常ニ窓戸ヲ開放シ空氣ノ流通ヲ良クスヘシ

第四 製造所ノ主管ハ齒牙及齒齦ニ疾患アル者ヲシテ黃燐若クハ其合劑ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ何人ニ依ラス工場内ニ於テ飲食ヲナサシムヘカラス

第五 合劑中ニハ合劑ノ量百分ニ付黃燐十分以上ヲ含マシムヘカラス

第三條 摺附木製造所ハ警察官吏ヲシテ検査セムルコトアルヘシ

第四條 轉居改氏名遺失其他免許證ニ異動ヲ生シタルトキハ書換又ハ再渡ヲ受ケルシ

第五條 免許證ハ賣買讓與貸借ヲ許サス

第六條 廢業又ハ死亡シタルトキハ其旨届出免許證ヲ返納スヘシ

第七條 第一條第二條第五條ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第八條 第四條第六條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

○摺附木製造取締規則取扱手續ノ件

警甲第二號 (明治二十年一月)

第一條 規則第一條及第二條ニ依リ製造營業ヲ願出タルトキハ危險ノ有無及圖面ノ適否ヲ臨檢調査シ意見ヲ添付シ進達スヘシ

第二條 (明治二十三年八月警令第三〇號刪除)

第三條 規則第三條ニ記載アル製造所ハ毎月之ヲ検査シ尙其黃燐ヲ用フルモノハ危險ノ虞アルヲ以テ特ニ注意ヲ加ヒ時時點檢スヘシ

第四條 規則第四條ニ依リ書換又ハ再渡ヲ願出タルトキハ事實取調ノ上意見ヲ添申シ進達スヘシ

第五條 規則第六條ニヨリ免許證ヲ返納シタルトキハ速ニ之ヲ進達スヘシ

○街路取締規則ノ件

縣甲第一〇七號 (明治二十年八月)

第一章 通 則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水並ニ橋梁トス

第二條 本則ハ左ノ市街及其町村ニ連擔接續シタル土地ニ適用ス

岩代國信夫郡

福島町

岩代國伊達郡

桑折町

岩代國安達郡

保原町

岩代國安積郡

二本松町

岩代國岩瀬郡

郡山町

岩代國北會津郡

須賀川町

若松市

梁川町

本宮町

岩代國耶麻郡

喜多方町

岩代國河沼郡

坂下町

磐城國東白川郡

棚倉町

磐城國西白河郡

白河町

磐城國田村郡

三春町

磐城國磐前郡

平町

磐城國宇多郡

中村町

第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠ル時ハ官ニ於テ施行シ其費用

ヲ徴収スルコトアルヘシ

第二章 街路ノ安寧及保存

第四條 街路ニ建物軒檐旗柱招牌物等ヲ設ケ或ハ出スヘカラズ

第五條 左ニ掲グルモノハ街路ニ出スコトヲ得

一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内

- 二 軒擔ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内
 - 三 日除ハ支柱ヲ用ヒシ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ三尺以内
 - 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内
- 第六條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添へ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 一 街路ニ樹木ヲ植ユル事
 - 二 街路ニ華表又ハ碑表ヲ建設スル事
- 第七條 左ノ事項ハ願書ニ其場ノ圖面ヲ添へ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 一 街路ニ床見世又ハ簾簾張ヲ設クル事
 - 二 街路ニ街燈ヲ建設スル事
 - 三 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク事
 - 四 街道ニ火ノ見梯子又ハ指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事
 - 五 街路ニ目塗土置場ヲ設クル事
 - 六 工事ノ爲メ一時街路ニ竹木土石ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事
 - 七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事
 - 八 一時街路ニ舞臺(神佛祭典)小屋掛(慣例アル)及店飾ヲ設クル事
 - 九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺飾物等ヲ出ス事
 - 十 街路ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク事

- 十一 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事
 - 十二 車馬通行停止榜ノ示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事
 - 十三 一時道路ニ建札ヲ爲ス事
 - 十四 祭典祝事興行等ノ爲メ街路ニ幟ヲ建テ又ハ釣提燈ヲ設クル事
 - 十五 公供ノ爲メ便所ヲ設クル事
- 第八條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタルモノハ直チニ原形ニ復スヘシ
- 第九條 街路ニ出タル軒擔ニハ成ルヘク軒柱及壁柱ヲ設クヘシ
其壁柱ハ街路ノ地盤ニ設クル事ヲ得ス 但檐溜ノ下水ニ落ツルモノハ此限ニアラヌ
- 第十條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ道敷ノ境界ニ塙塙ヲ設クヘシ 但特ニ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス
- 街路ニ沿フタル墓地ハ其境界ニ塙塙ヲ設クヘシ
- 第十一條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強韌ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又ハ薪炭其他ノ物件堆積スル者ハ顛仆セサル様堅牢ナル裝置ヲ爲スヘシ
- 第十二條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞顛仆ノ虞アルモノハ速ニ修理撤去若クハ扶植伐採スヘシ
- 第十三條 街路ニ竹木土石類ヲ置クトキハ路傍ニ片寄セ標識ヲ設クヘシ
- 第十四條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ止メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標識ヲ掲クヘシ

第十五條 道路橋梁溝渠下水ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス

第十六條 制札指道標便所及墻壁等ヲ毀捨汚損シ又ハ樂書貼紙等ヲ爲スヘカラス

第十七條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十八條 街路ニ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス

第十九條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲スヘカラス

第二十條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス

第二十一條 街路ニ於テ濫リニ放歌シ若クハ喧噪シ高聲ヲ發シ又ハ假臥スヘカラス

第二十二條 行商ニ用ユル荷車ハ長八尺幅三尺屋臺店ハ長六尺幅三尺ヲ超過スヘカラス

第三章 街路清潔

第二十三條 街路掃除及下水ノ修繕等ハ左ノ區分ニ依リ負擔スヘシ

一 人家兩側ニ在ル街路ハ居住者其地先中央ヨリ折半シ片側ニ在ル街路ハ其全部 但車道ノ設テアル場所ハ地先人道ノミトス

二 住居セサル建物アル地及空地先ハ其所有者

三 官衙學校病院及集會所ノ類ハ其管理者

四 神社佛堂等ハ其祠官住職又ハ保管人

五 私設橋梁ハ其架設負擔ノ責アル者

六 街路ニ沿フタル下水ノ掃除及修繕ハ前各項ノ例ニ準ス

七 便所ハ其持主又ハ掃除人

八 街路ニ沿フタル邸内ノ便所ハ其居住者

第二十四條 街路ハ毎朝掃除ヲ爲シ雜草塵芥等ヲ存スヘカラス

第二十五條 下水及便所ハ常ニ掃除ヲ爲シ疏通清潔ナラシムヘシ 但便所ニハ掃除人ヲ定メ其住所氏名ヲ明記シタル木札ヲ釘付スヘシ

第二十六條 下水及用水路ハ毎年四月十月官署ノ指定スル期日內ニ浚渫シ淤泥塵芥等ハ一定ノ場所ニ投棄シ路上ニ布キ又ハ留置クヘカラス

第二十七條 積雪ハ可成往來ノ妨害トナラサル場所ニ撤去スヘシ

第二十八條 雨水ハ瀦溜セサル様下水ニ注導スヘシ

第二十九條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ 但凍氷ノ氣節ハ午前

十時前午後二時後ハ洒クヘカラス

第三十條 汚水又ハ汚穢物ヲ街路ニ洒キ又ハ投棄スヘカラス

第三十一條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十二條 蓋ナキ肥桶ヲ運搬スヘカラス

第三十三條 街路ニ於テ敷物塵屑類其他ノ塵埃ヲ拂フヘカラス

第三十四條 街路ヲ運搬スル物品ハ墮落瀦出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十五條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ危險若クハ監視其他見苦

敷物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

- 第三十六條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクテ疾驅スヘカラス
- 第三十七條 馭者臺及ヒ完全ノ御具ナキ荷馬車ニ口取リナクシテ乗ルヘカラス
- 第三十八條 馬車及牛車ハ幅員三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス 但其街路一沿フタル家屋ニ出入スルモノハ此限リニアラス
- 第三十九條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハス跡押ノミニテ運轉スヘカラス
- 第四十條 末口ノ尖リタル竹木ヲ運搬スルトキハ纏束スヘシ
- 第四十一條 牛馬諸車ハ街路ノ中央ヲ通行スヘシ
- 第四十二條 牛馬諸車ヲ並ヘ挽キ又ハ濫リニ疾驅セテ通行ノ妨害スヘカラス
- 第四十三條 車二輛以上ヲ連繋シテ索クヘカラス 但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連繋スルハ此限リニアラス
- 第四十四條 貨物ヲ付ケタル牛馬三頭以上ヲ連繋セテ牽クヘカラス
- 第四十五條 車馬及ヒ歩行者ニ行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ
- 第四十六條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
- 第四十七條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
- 第四十八條 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌水神輿渡御其他葬送等ニ行逢フト

キハ避讓スヘシ

- 第四十九條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ
 - 第五十條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻ヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ
 - 第五十一條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横ヘ若クハ妨害物ヲ軌道ニ置クヘカラス
 - 第五十二條 制止ヲ肯ンセスモテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス
 - 第五十三條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス
 - 第五十四條 空車ヲ輓テ彷徨シ又佇立シテ行通ノ妨害ヲ爲スヘカラス
 - 第五十五條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ吠シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フヘカラス
 - 第五十六條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムヘカラス
 - 第五十七條 街路ニ於テ紙鷲ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子手球ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲ爲スヘカラス
 - 第五十八條 街路ニ於テ軍談輕業其他ノ人寄ヲ爲スヘカラス
- 第六章 罰 例
- 第五十九條 第四條第六條第七條第八條第十五條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 第十三條第十四條第十九條第二十六條ニ違背シタルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第六十一條 第十六條第十七條第三十條第三十一條第三十二條第三十七條第三十八條第三十九條第四十九條第五十一條第五十四條第五十五條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第六十二條 第十一條第十二條第十八條第二十一條第二十四條第二十五條第二十七條第二十九條第三十三條第三十五條第四十條第四十三條第四十四條第五十三條第五十七條第五十八條ニ違背シテ制止ヲ肯シセス又ハ官署ノ督促ニ從ハサルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第六十三條 第二十條第三十六條第四十二條第五十二條ニ違背シタルモノハ刑法ノ刑ニ處セラレシム其他第十二條第十五條第十六條第三十二條第三十條第五十一條第五十五條ニ掲ケタル條項中ノ所爲ニシテ刑法ノ明文アルモノ亦同

附 則

一 本則第二條ニ掲クル土地ノ現住者若シクハ家屋ヲ所有スルモノニシテ第四條第五條第十條ニ觸ルルモノト雖トモ本則施行ノ日マテニ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ明治二十一年三月三十一日迄取毀又ハ新造改造ヲ猶豫ス

○街路取締規則適用區域ノ件

縣令甲第一一一號、(明治二十年八月)

明治二十年(八月二十三日)縣令甲第七號街路取締規則中適用スル區域左ノ通相定ム

第一項 街路取締規則第三條第四條第六條第七條第八條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十九條第四十條第四十二條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十八條ハ左ノ準市街ニ之ヲ適用ス

- 岩代國信夫郡 飯坂町 松川村 瀬ノ上村
- 岩代國伊豫郡 湯野村 掛田村 川俣町 藤田村
- 岩代國安達郡 針道村 小濱村
- 岩代國耶麻郡 猪苗代町 塩川村
- 磐城國田村郡 小野新町村
- 磐城國菊多郡

窪田村 鮫川村
 磐城國磐前郡 小名濱町 湯本村
 岩代國大沼郡 高田村 永井野村
 岩代國河沼郡 野澤村
 磐城國西白河郡 白坂村 矢吹村
 磐城國石川郡 石川町
 磐城國磐城郡 四ッ倉町
 磐城國楢葉郡 久ノ濱村 小濱村
 磐城國標葉郡 浪江村 新山村
 磐城國行方郡 鹿島村 原町村 小高村
 第二項 同則第三條第四條第六條第七條第八條第十一條第十二條第十三條第十

四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十五條第二十八條第三十條第三十四條第三十六條第三十七條第四十一條第四十二條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條ハ國縣道ニモ之ヲ適用ス
 第三項 同則第三條第四條第六條第七條第一項第二項第四項第八項第九項第十二項第十四項第十五項第十六項第十七項第十八項第十九項第二十項第二十一項第二十二項第二十三項第二十四項第二十五項第二十六項第二十七項第二十八項第二十九項第三十項第三十一項第三十二項第三十三項第三十四項第三十五項第三十六項第三十七項第三十八項第三十九項第四十項第四十一項第四十二項第四十三項第四十四項第四十五項第四十六項第四十七項第四十八項第四十九項第五十項第五十一項第五十二項第五十三項第五十四項第五十五項ハ里道ニモ之レヲ適用ス
 ○街路取締規則取扱手續ノ件
 警甲第二一一號 (明治二十年九月)
 街路取締規則取扱手續
 第一條 規則第三條ノ場合ニ於テハ惡罵ニ説諭ヲ加ヘ本八ヲシテ行ハシムルハ勿論ナリト雖モ尙ホ其命ニ從ハサルトキハ執行方ナリ長役場ニ照會スヘシ
 第二條 規則第四條中既設ノ建物軒擔ヲ撤去スル場合ニ於テハ其事由ヲ開申シテ本部長ノ指揮ヲ受クヘシ
 第三條 規則第六條ノ願出アルトキハ左ノ例ニ據リ實地検査ヲ遂ケ意見ヲ添付シテ本部ヘ進達スヘシ
 一 市街準市街ニ樹木ヲ植ユルハ幅員五間以上ノ道敷ニ限ル 但人家兩側ニ連擔セサル場所ノ片隅ヘ植ユルハ妨ケナシト雖モ其幅員四間オ下ルヘカラス

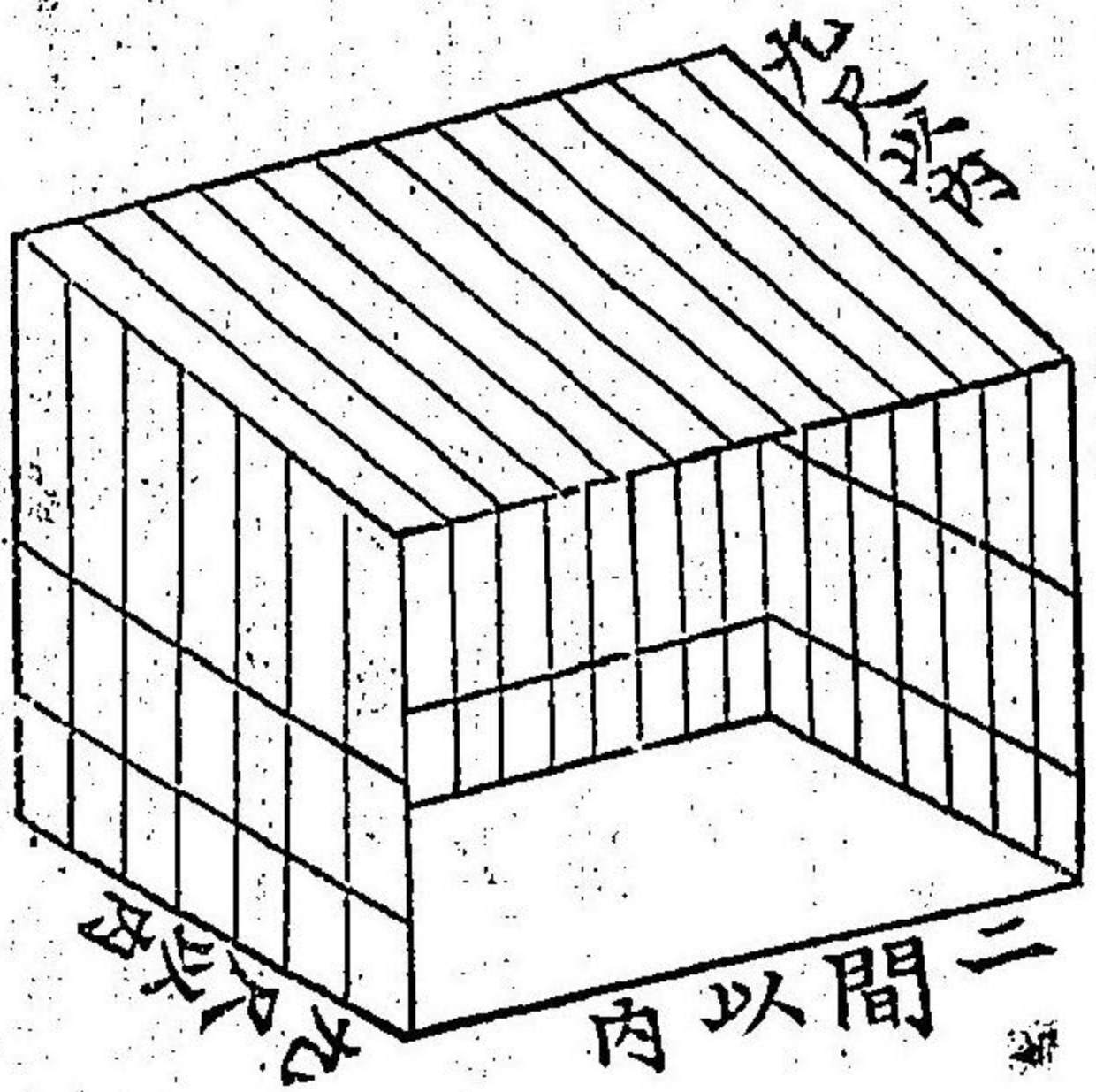
二 華表又ハ碑表ノ建設ハ街路ノ片隅ニシテ常ニ人馬通行ノ妨害トナラサル場所ニ限ル

第四條 規則第七條ノ願出アルハ道幅ノ廣狹通行ノ煩疎等ヲ考察スルハ勿論左ノ例ニ依リ實地検査ヲ遂ケ街路ノ體裁ヲ損セサル様注意シ之ヲ許可スヘシ

一 第一項裝置張ノ構造ハ左ノ離形ニ據ラシメ滿一ケ年ヲ限リ之ヲ許可シ營業セサル時間ハ其裝置ヲ取片付シメ且許可ノ限内ト雖トモ官省ヨリ取拂テ命ヲタルトキハ速ニ撤去スヘキ旨ヲ願書ニ記入セシメ置ヘシ

二 第二項第三項第四項第十項ノ場合ニ於テハ必要ノ有無及其場所ノ適否ヲ精査スヘシ

三 第五項ヲ許可シタル場合ニ於テハ地並ニ堅固ナル蓋ヲ設ケシムヘシ



二以間内

四 第六項ノ場合ニ於テハ日數ヲ限テ之ヲ許可シ使用中ハ規則第十三條ニ依リ書式ノ標識ヲ掲ケシムヘシ 但六尺街路使用ノ場所ハ三尺ヲ超ユヘカラス

何年何月何日ヨリ
何年何月何日マデ

警察署願濟
氏名

木質寸法適宜

五 第七項ヲ許可シタル場合ニ於テ若シ運搬ノ通路他署ノ所轄内ニ涉ルトキハ其旨ヲ該署ニ通知スヘシ 但運搬ノ物件ハ夜中街路ニ留置クトキハ規則第十四條ノ標燈ヲ掲ケシムヘシ

六 第八項第九項第十四項ノ場合ニ於テハ其事情ヲ精査スヘシ

七 第十一項ノ場合ニ於テハ圖面ニ依リ事實査定スヘシト雖トモ事宜ニ依リ現場實檢ノ上之ヲ許可シタルトキハ制規ノ榜示ヲ貸與シ工事落成ノ上ハ速ニ返納セシムヘシ 但榜示ヲ建設スト雖トモ成ルヘク柵又ハ繩張若クハ板圍ナシ且ツ市街準市街ニ於テハ標燈ヲ點セシムヘシ

八 第十二項ノ場合ニ於テハ通行停止區域内ノ居住者ニ限リ直チニ之ヲ許可スヘシ

九 第十三項ノ場合ニ於テハ道路ノ片隅ニ限リ日數ヲ定メ許可スヘシ 但公安ニ害アリト認めタルモノハ本項ニ據ルノ限ニアラス

十 第十五項ノ場合ニ於テハ必要ノ有無ヲ考察スルハ勿論左ノ例ニ依リ検査
 ナナスヘシ
 一 便所ノ位置ハ成ルヘク人家兩側ニ連擔セサル街路ニシテ稍々廣濶ナル場
 所ノ片隅ニ限ル
 二 便所ハ專ラ其漏泄ヲ防カン爲メ石敲キ陶器又ハ厚板ヲ以テ構造シ必ス尿
 尿器ヲ別置ニセシモノニ限ル
 三 便所ハ必ス屋根ヲ設ケ且入口ノ正面ニハ適宜ノ見隠ヲ設ケシモノニ限ル
 第五條 規則第十條但書ノ特許ヲ願出タルトキハ營業ノ種類ニ依リ其必要ト否
 トヲ精査シ事實不得止モノハ許可スヘシ
 第六條 規則第十二條第十五條第十六條ノ場合ニ於テハ崩壞顛仆又ハ墜塞毀棄
 アルトキハ速ニ修理撤却セシムヘシ 但道路ノ毀損凹所等危險ノ場所ハ標識
 ノ設置及其修理ヲ左ノ區別ニ從ヒ照會スヘシ
 一 國縣道ハ郡役所戸長役場又ハ道路看守人
 二 里道ハ戸長役場
 第七條 街路ニ屋臺見世若クハ露店ヲ出スヘキ場所ハ豫メ警察署又ハ分署ニ於
 テ區域ヲ定メ置キ其區域外へ出シタルモノハ懸篤ニ説諭ヲ加ヘ其場所ヲ轉セ
 シムヘシ 但祭典又ハ夜間等ニシテ往來ノ妨害トナラサル場所ニ於テ營業ス
 ルモノハ默許スヘシ
 第八條 郵便函ニ密接シテ屋臺店又ハ露店ヲ張リタルモノアルトキハ速カニ其
 場所ヲ立退カシムヘシ

第九條 規則第十九條ニ於テ荷造スルヲ許サスト雖トモ只一時些少ノ物件ヲ荷
 造スル如キ敢テ通行ノ妨碍トナラサル場合ハ其事情ニ依リ斟酌スヘシ
 第十條 規則第二十三條ニ掃除及修繕ハ其負擔者アリト雖トモ街路ニ於テ飼主
 ナキ禽獸ノ死屍アレナシ認メタルトキハ速ニ其撤去方ヲ戸長役場へ照會スヘシ
 但飼主ノ分明スルモノハ其飼主ニ撤去ヲ命スヘシ
 第十一條 前條ノ場合ニ於テハ飼主ノ有無ニ拘ハラズ一時掃除負擔者ヲシテ適
 宜ノ場所ニ取除カシムヘシ
 第十二條 規則第二十六條ノ場合ニ於テハ郡役所戸長役場ト協議ノ上浚渫ノ期
 日及投棄ノ場所ヲ定ムヘシ
 第十三條 規則中官署ノ負擔ニ屬スルモノニシテ其修理掃除方ヲ再三照會シ尙
 ホ應セサルトキハ事實ノ詳細ヲ本部長ニ具申スヘシ
 第十四條 警察署分署ニ於テ前數條ノ願届ヲ許可若クハ認可スルトキハ左ノ書
 式ニ依リ朱書ノ指令ヲ與フヘシ
 番號
 何年何月何日住所職業氏名何何ノ義ニ付願
 書面ノ趣聞届ク
 何警察署又ハ分署長
 警部又ハ警部補氏 名印
 明治年 月 日
 ○街路取締ニ關スル義務代執行候下水等浚渫期日等
 ノ件

縣訓令甲第二七三號 (明治二十年八月)

(郡役所 戸長役場)

街路取締規則ニ依リ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠リ督促ニ應セサルカ爲メ其執行方ヲ警察署又ハ分署ヨリ照會アルトキハ直ニ取計ヒ其費用ハ本人ヨリ徴收スヘシ

街路取締規則ニヨリ下水及用水路ヲ浚渫スル場合ニ於テハ警察署又ハ分署ヨリ協議ヲ受ケ期日ヲ定メタルトキハ其期日ヲ告示スヘシ

街路ニ飼主ナキ禽獸ノ死屍アルトキハ速ニ衛生上防害ナキ場所ニ撤去スヘシ

○道路修繕官業工事ノ際往來止制札建設取扱方ノ件

訓令乙第八六五號 (明治二十年九月二十八日)

(警察 部)

今般街路取締規則發布候ニ付テハ自今官署ノ工事ニ係ル國縣里道修繕ノ爲メ往來止又ハ片側往來止若クハ牛馬諸車ノ通行止ヲ必要トシタル時榜示建設方ノ義ニ付別紙之通第二部郡役所戸長役場へ訓令候條各警察署又ハ分署ニ於テ豫メ該榜示ヲ備置キ相當官署又ハ當該官吏ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ其通知ニ應セシム且ツ不都合無之様榜示ノ受授ヲ爲サシムヘシ

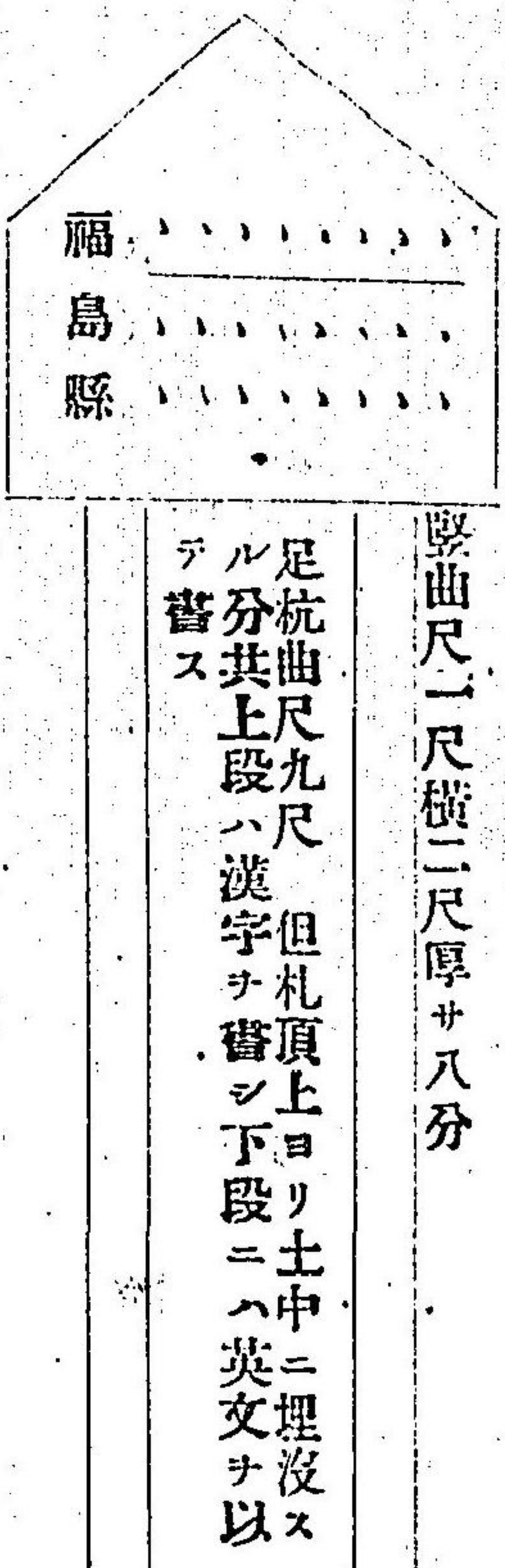
縣訓令乙第八六四號 (明治二十年九月二十八日)

(第 二 部)

今般街路取締規則發布候ニ付テハ自今官署ノ工事ニ係ル國縣里道修繕ノ爲メ往來止又ハ片側往來止若クハ牛馬諸車ノ通行止ヲ必要トスルトキハ豫メ日子ヲ限

リ其實質ヲ詳記シタル書面ニ略圖ヲ添付シ工事着手以前管轄警察署又ハ分署へ通知シ左ノ榜示ヲ受取リ之ヲ建設シ夜間ハ標燈ヲ點スヘシ其工事終リタルトキハ速ニ該榜示ヲ除去シ直ニ原警察署又ハ分署へ返付スルヲ要ス且ツ成ルヘク工事ノ都合ナ圖リ片側往來ニ爲シ全部ノ往來ヲ止メサル様取計ヘシ

榜示錐形並書式



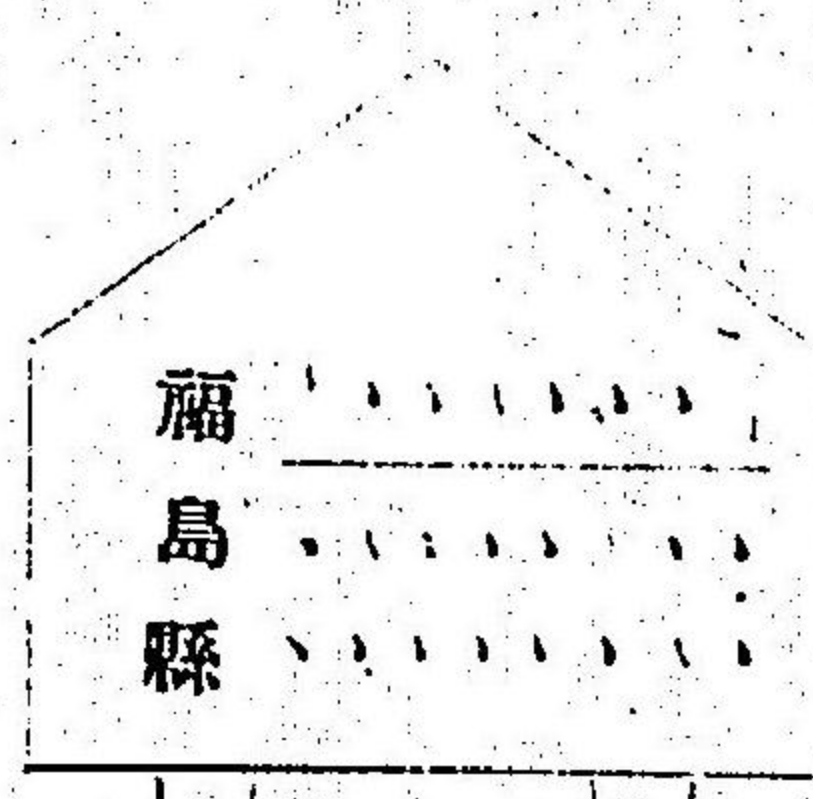
○國縣里道官署工事修繕ノトキ往來止ニ關スル件

訓令甲第二九五號 (明治二十年九月)

今般街路取締規則發布候ニ付テハ自今官署ノ工事ニ係ル國縣里道修繕ノ爲メ往來止又ハ片側往來止若クハ牛馬諸車ノ通行止ヲ必要トスルトキハ豫メ日子ヲ限リ其實質ヲ詳記シタル書面略圖ヲ添付シ工事着手以前管轄警察署又ハ分署ニ通知シ左ノ榜示ヲ受取リ之ヲ建設シ夜間ハ標燈ヲ點スヘシ其工事終リタルトキハ

速ニ該榜示ヲ除去シ直ニ原警察署又ハ分署ヘ返付スルヲ要ス且ツ成ルヘク工事ノ都合ヲ圖リ片側往來ニ爲シ全部ノ往來ヲ止メサル様取計フヘシ

榜示縦形並書式



竪曲尺一尺横二尺厚サ八分
足杭曲尺九尺 但札頂上ヨリ土中ニ埋没スル分共上段ハ漢字ヲ以テ書シ下段ニハ英文ヲ以テ書ス

此榜示ハ往來止片側往來止牛馬諸車通行止ノ三種トス

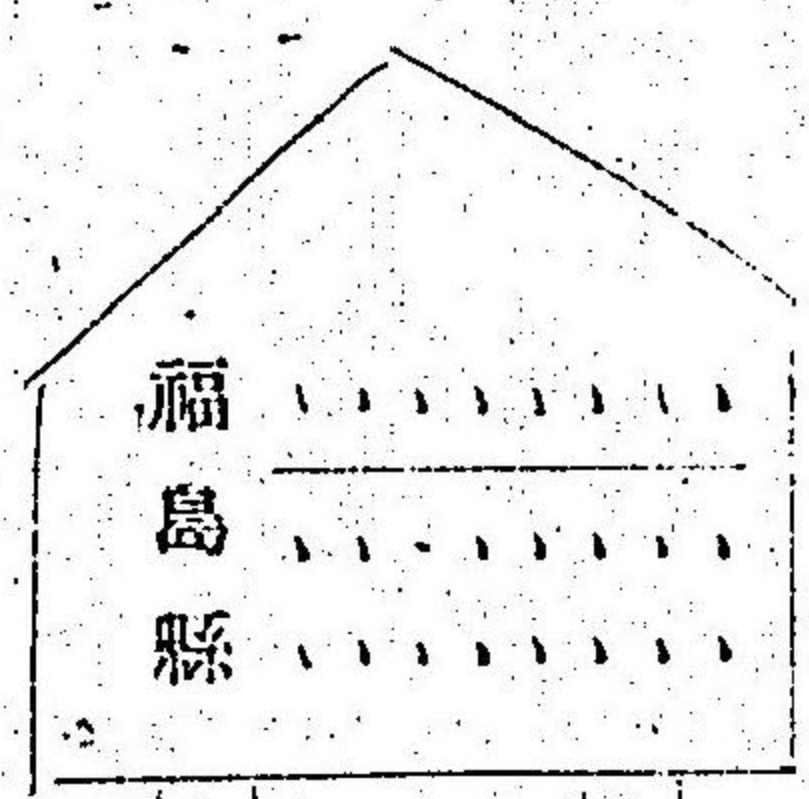
○往來止榜示受渡方ノ件

警乙第二一八號 (明治二十年九月)
官署ノ工事ニ係ル國縣里道等修繕ノ際通行止ノ義別紙之通訓令相成候ニ付テハ兼テ其署ヘ該榜示(第一種第二種第三種)ヲ備置キ土木官吏郡役所戸長役場其他ノ相當官吏ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ事實及場所ヲ審察シ時機ニ依リ巡查ナシテ臨檢セシメ成ルヘク通行ノ便宜ヲ圖リ榜示ノ受渡ヲ爲スヘシ
右相違候事

- 第一種 往來止
- 第二種 片側往來止
- 第三種 牛馬諸車通行止

○道路破損ノ箇所報告方ノ件

警乙第二〇七號 (明治二十二年九月)
國縣道路並ニ橋梁破壞ノ箇所見當候節ハ是迄町村役場又ハ郡役所等ヘ報告シ街路取締規則ノ周到ヲ量リ來リ候處今般土木區監督所設置相成候ニ付テハ右等ノ件ハ自今所轄監督所ヘ報告スヘシ 但信夫伊達ノ二郡ニ係ルモノハ第二部土木課ニ報告スヘシ



竪曲尺一尺横二尺厚サ八分
足杭曲尺九尺但札頂上ヨリ土中ニ埋没スル分共上段ハ漢字ヲ以テ書シ下段ニハ英文ヲ以テ書ス

○道路破損ノ箇所取締方ノ件

警乙第二一號 (明治二十三年一月)
警察官吏ニシテ道路ノ毀損箇所等其通行ノ危険ト認ムヘキ場所アルコトヲ發

見シタルトキハ直チニ其趣ヲ其向ヘ照會シ危害防禦ノ手續ヲ促スヘキハ勿論ノ義ニ有之候處此頃ニ至リ右取締方漸ク緩融ニ流レ道路ノ中央ニ或ハ一大洞穴ヲ現シ或ハ甚シキ缺凹ヲ生スルモ容易ニ修理ヲ加ヘス標識ヲモ設ケ又其儘敷日間ヲ經過スル等ノ場合モ往々有之要スルニ右ハ各署ニ於テ其向ニ對スル督促ノ通知ヲ怠タルモノト認メ候條以後ハ前述危險ノ場所ヲ發見スルト同時ニ左記ノ區別ニ依リ其修理方ヲ其向ヘ照會スヘキハ固ヨリ先ツ以テ標識ノ設置方ヲ夫夫通知シ再三督促スルモ尚ホ之レカ實行ヲ遲延スル場合ニ在テハ其旨ヲ本部長ヘ上申シ力メテ道路保全危險豫防ノ實効ヲ期セラシムル、樣取締方注意スヘキ

- 一 國縣里道ハ土木監督所但信夫、伊達二郡ハ縣廳土木課
- 一 一等里道ハ郡役所
- 一 二等以下里道ハ町村役場

○往來止注意ノ件

警乙第二五五號 (明治二十三年七月)

道路橋梁修繕等ニ際シ衆庶ノ往來車馬ノ通行ヲ止ムル儀ニ付テハ街路取締規則取扱手續竝ニ去ル二十年九月訓令乙第八百六十五號ノ次第モ有之候處今般別紙之通訓令相成候條自今一層事實ノ精定ヲ遂ケ其中備テ憲ラサル樣注意スヘキ

(別紙)
訓第四七二號(明治二十三年七月十六日內務大臣訓令)道路橋梁修築等ニ際シ衆庶ノ往來車馬ノ通行ヲ止ムル儀ハ公衆ノ不便ヲ感スル勢ナカラサル處ナルニ依リ右等通行止ヲ爲ス場合ニ於テハ事實ノ精定ヲ遂ケ工事上大ナル支障アルカ又

ハ通行ニ危險ノ虞アルモノヲ除ク外ハ可成一般ノ交通ノ便ヲ欲カサル樣注意セラレヘシ

右訓令ス

○道路取締注意ノ件

警乙四一五號 (明治二十五年八月)

道路取締ノ要旨タル往來交通ノ安全ヲ保護シテ其妨害或ハ危險之虞無カラシムルニ在リ而シテ其目的ヲ達スルニハ諸建設物或ハ汚穢物等總テ道路ニ關涉スル百般ノ觀察ヲ爲スニアラサレハ到底完全ナル效果ヲ得ル能ハサルモノナリ然ルニ近來往々道路ニ土砂瓦礫ヲ投棄シ或ハ下水浚ヒ揚ケノ淤泥等ヲ路上ニ布キ若クハ路傍ニ置ク等路面損傷ノ起因ヲ造ルモノ不尠且本年四月達第十四號ヲ以テ道路管守規程ヲ定メ沿道町村長チテ之レヲ掌理セシメラレ候得共是亦緩慢ノ弊アルヲ免カレス依之平素町村巡邏ノ責務アル市街駐在巡查チテ左ノ事項ヲ督責セシメ道路取締ノ實効ヲ期セラシムル、樣注意スヘキ

- 一 沿道ノ田畑等ヨリ道路ヘ土砂ヲ投棄セシメサル事
- 二 下水溝渠又ハ用水路浚渫ノ土泥ヲ路面ニ堆積セシメサル事
- 三 道路ヨリ蒞取タル雜草ハ之ヲ路面ニ投棄セシメサル事
- 四 道路管守規程第四條ニ記載スル事項ノ執行ヲ怠ル時ハ之ヲ町長村ニ通告スル事
- 五 町村長ニ於テ管守ノ執行周到ナラズト認ムルカ又ハ道路橋梁破壞危險ノ虞アル時ハ之ヲ警部長ニ報告スル事

○榜示請求方ノ件

警本訓示第一三三號 (明治二十六年七月)
道路改修工事等ニ依リ往來止メ又ハ牛馬諸車通行止榜示建設請求方ノ儀ニ付郡役所町村役場ヘハ訓令甲第二十號ヲ以テ土木監督署ヘハ内務部ヨリ同様ノ意味ニテ通牒相成候條自今即時申報シ其機ヲ失セサル様注意セラル可シ

○道路使用届方ノ件

警本訓示第二〇一號 (明治二十六年十月)
道路ニ公共ノ爲ノ井戸又ハ用惡水路ヲ新設變換又ハ修理廢除願許否ノ義ハ二十二年(十一月)縣令甲第百二十五號同甲第百二十六號ニ依リ國縣道ニ屬スル分ハ縣知事里道以下ハ郡長ニ委任セラレ居候處該工事ノ爲メ道路使用ニ關スル點ハ街路取締規則ニ依リ當然警察官署ノ主管トス然ルニ井戸又ハ用惡水路ヲ新設變換又ハ修理廢除セントスレハ勢ヒ道路使用ハ必然ノ結果トシテ認識セサル可ラサルハ勿論ナリ就テハ一事件ニ對シ再度許否スル謂ハレ無之付自今縣知事又ハ郡長ニ於テ許可シタル場合ハ單ニ警察官署ニ届出ルニ止メ別段願出ヲ要セサル義ト心得ラルヘシ

○通行止制札建設ニ關スル申報方ノ件

訓令已第九二號 (明治二十六年十一月)
自今往來又ハ牛馬諸車通行停止ノ榜示建設スルトキハ其都度左記ノ事項ヲ詳記シ圖面ヲ添ヘ第二師團參謀部及仙臺郵便電信局長ヘ宛其署長名ヲ以テ直ニ通報

スヘシ

- 一 往來止ノ榜示建設ノ期限及ヒ區域内ノ間數
- 一 國縣里道及其等級ノ區別
- 一 片側往來止又ハ假道假橋ヲ設ケタル場合ヘ其通行スヘキ道路ノ幅員及牛馬諸車交通差支ナキヤ否ヤノ區別
- 一 臨時破壞等ニ依リ道路橋梁等ノ傾斜ニ就テハ荷車人力車及荷馬車等交通ニ支障ナキヤ否ヤ

○郵便電信集配人往來止ノ場所通過ノ件

警本訓示第一三五號 (明治二十九年十二月)
道路往來止若クハ車止ノ場合ニ郵便ノ遞送及集配並ニ電報集配人ヲシテ他ノ迂路ヲ取ラシムルトキハ通信ノ遲延ヲ來スヘクニ付右等ノ場所ト雖トモ可成通過セシムル様取計フヘシ

○道路管守人ノ業務查察方ノ件

警本訓示第一四號 (明治三十一年二月)
警察官吏ハ道路管守人ノ業務懈怠ヲ查察シ直接注意ヲ與フヘシ其注意スヘキ事項大概左ノ如シ但注意ヲ與フルモ尙ホ業務ヲ怠ルトキハ其事實ノ所轄土木區監督員派出所ニ通知スヘシ

- 一 道路橋梁溝渠等ノ小破ハ怠リナク修繕スルヤ否
- 二 路面 凹凸ヲ生シ又ハ土石崩落其他ノ事故ニ依リ車馬通行ニ支障アルトキハ其凹凸ヲ平均シ又ハ障礙物ヲ取除クヤ否

- 三 路側ノ下水溝及暗渠樋管等ニ土芥其他ノ支障物流込流通悪キモノヲ浚渫スルヤ否
- 四 雨雪ノ爲メ路面ニ滲流チ生シタルトキハ道形ヲ崩サルル様切流スヤ否
- 五 積雪積雪又ハ吹寄ノ爲メ通行ニ支障アルトキハ速ニ切開クヤ否
- 六 道路ニ沿ヒタル用水路ニ過分ノ水ヲ引入又ハ道路ヨリ耕地其他ニ通スル小道ニ橋ヲ架セス下水溝ヲ埋メタルトキハ其持主又ハ關係人ニ指示シ適宜減水或ハ架橋ヲ求メタルヤ否
- 七 路面ニ土石瓦礫投棄シ又ハ薪材木稻藁肥草等ヲ堆積シアルトキハ其持主又ハ關係人ニ取除ヲ求タルヤ否
- 八 町村ニ於テ道路掃除ヲ執行スルトキハ實地ニ臨ミ其方法ヲ監視シ路面保護上不良ト認ムルモノアルトキハ執行者ニ注意ヲ求タルヤ否
- 九 暴風出水等ノ節ハ晝夜ニ拘ハラヌ巡視スルヤ否
- 十 毎月少クモ三回受持線路ヲ巡視スルヤ否
- 十一 左ノ事項ハ怠ナラズ土木監督員派出所ニ通知スルヤ否
 - (イ) 橋榜ノ柱脚橋臺等ハ巡視ノ際特ニ注意ヲ加テ破損ノ虞アルトキ
 - (ロ) 道路橋梁暗溝等ニ破損チ生シ又ハ竝木根椽風損雪折等アリテ容易ニ修繕シ難キトキ

第八項ノ實況

營業人力車取締規則ノ件

縣令第一〇九號 (明治二十年八月)

第一章 通則

- 第一條 人力車營業トハ自ラ人力車ヲ輓キ又ハ輓子ヲ曳テ之ヲ輓カシメ若クハ車ヲ賃シ營業スルモノヲ云フ
- 第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署又ハ分署へ願出免許證ヲ受クヘシ
- 第三條 營業ニ關スル願届ニハ總テ取締人加印シ所轄警察署又ハ分署へ差出ス可シ
- 第四條 營業者ハ輓子ノ就職前其族籍住所氏名年齢ヲ所轄警察署へ届出一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ
- 第五條 營業者自ラ輓子ノ業ヲサントスルトキハ輓子ノ例ニ從フヘシ
- 第六條 車體ハ毎年四月十月所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其新造改造又ハ買受讓受ナシタルトキハ定期ニ拘ラス使用前検査ヲ受クヘシ其検査證ナキモノハ無効トス
- 第七條 輓子ノ鑑札ハ毎年四月所轄警察署又ハ分署へ各自携帶シテ検査ヲ受クヘシ其検査證ナキモノハ無効トス
- 第八條 前二條定期外ト雖トモ臨時車體及輓子鑑札ノ検査ヲ行フコトアルヘシ
- 第九條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ
 - 一 轉居改氏名其他免許證車體検査證札面ニ異動チ生シタルトキ
 - 二 免許證車體検査證鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタルトキ

第十條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出免許證車体檢査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

一 組合外ニ轉居シタルトキ

二 廢業又ハ廢車シタルトキ

三 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ

四 轆子ヲ解備シ又ハ轆子ノ失踪逃亡若シクハ死亡シタルトキ

第十一條 免許證車体檢査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラズ

第十二條 車体檢査證ハ車ノ蹴込正面ニ釘付ス可シ

第十三條 檢査證アル車ト雖モ第二十條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認メタルトキハ其使用ヲ差止ムルコトアルヘシ

第十四條 (二十三年六月縣令甲第
四十六號ヲ以テ削除)

第十五條 (同上)

第十六條 (同上)

第十七條 (同上)

第十八條 (同上)

第十九條 (二十七年三月縣令
第三三號削除)

第二十條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 一人乗ハ橫幅内法二尺未満二人乗ハ二尺以上トス

二 車体ハ無地漆塗中張ハ革天鵝絨羅紗等ヲ用フヘシ

三 車体ニ同塗色ノ泥除キ備フヘシ

四 車体ノ背面中央ニ方一寸ノ楷書ヲ以テ組合及車体ノ番號ヲ判明ニ記ス可シ

五 ゴム引又ハ桐油製(綿布麻布)類ノ母衣及前掛ヲ備フヘシ 但晴天ニハ母衣ヲ取外シ置クコトヲ得

六 清潔ナル布圍及膝掛ヲ備フヘシ

七 組合及車体ノ番號ヲ記シタル細長提燈ヲ備ヘ且ツ蠟燭摺付木ヲ用意ス可シ

八 齒止銼ハ一輛ニ付二個以上ヲ用意スヘシ

第三章 轆子ノ資格及服裝

第廿一條 轆子ハ左ノ資格ヲ有スルモノニ限ルヘシ

一 年齡滿十八年以上ニシテ身體強壯ナルモノ

二 其土地ノ里程ヲ略知スルモノ

第廿二條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強盜強姦及幼者ヲ略取誘拐シタル罪若クハ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタルモノハ轆子タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノモノ亦同シ 但改悛ノ狀アリト認メタルトキハ特ニ免許スルコトアルヘシ

第廿三條 轆子ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 著服ハ無地ノ法被又ハ筒袖及股引半股引

三 冠物ハ帽子又ハ笠

三 雨具ハゴム引又ハ桐油製(木綿又ハ紙ノ類)

第四章 輓子就業制限

第廿四條 輓子ハ鑑札及營業人力車取締規則並ニ賃錢表ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見シテ見シコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第廿五條 頰冠リ其他不體裁ノ形粧ヲ爲スヘカラス

第廿六條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第廿七條 乗客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ濫ニ駐車スヘカラス

第廿八條 駐車場ノ外人力車ヲ置クヘカラス 但シ乗客用辨ノ爲メ往來ノ妨害トナラサル場所ニ駐車スルハ妨ケナシ

第廿九條 乗客ノ指定セサル宿泊店飲食店及其他ノ場所ニ引入ルヘカラス

第三十條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群集シタル場所ニ輓入ルヘカラス

第三十一條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十二條 車ヲ竝ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十三條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

三 貨車ニ對シテハ空車ニ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸ケ聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

五 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌水車神輿渡御其他葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十四條 往來雜沓又廻狭隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ

且街角ヲ過クルトキハ右ハ大廻ヲナシ左ハ小廻ヲ爲スヘシ

第三十五條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第三十六條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十七條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十八條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアリタルトキハ直ニ還付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查派出所ニ届出ツヘシ

第五章 車 賃

第三十九條 人力車ノ賃錢ハ組合ニ於テ定メ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四十條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十一條 流車停車場其他群集ノ場所ニ至ラントスルトキハ到着前其賃錢ヲ請求スルコトヲ得

第四十二條 乘客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトマハ最近ノ路程ニ依リ賃錢ヲ計算スヘシ

第六章 乘載制限

第四十三條 一人乘ニ二人二人乘ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス 但十年未滿ノ者ハ三人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十四條 左ニ記載シタルモノハ人力車ニ乘載スヘカラス

- 一 六種傳染病并癩癩病患者及乞食體ノ者
- 二 汚穢物其他車ヲ汚染又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品
- 三 車體外ニ張出スヘキ長大ノ品物

第七章 駐車場

第四十五條 駐車場ヲ分ケテ左ノ二種トス

- 一 公設駐車場(一般營業者ニ於テ駐車スヘキ者ヲ云フ)
- 二 私設駐車場(二人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スル者ヲ云フ)

第四十六條 公設駐車場ハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ定メ組合ニ於テ左ノ標木ヲ左右ニ建設シ其間數ヲ明記スヘシ



三寸角長六尺

第四十七條 私設駐車場ハ設置以前所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受ケ左ノ

標札ニ組合取締人ノ烙印ヲ受ケ之ヲ掲クヘシ

何郡(村)番地
氏名
私設人力車駐車場
外何名

組合烙印

第四十八條 客ノ乗用ニ應ジ難キ人力車ハ駐車場ニ置クヘカラス

第四十九條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ整列シ各車ノ間ニ距離ヲ取り出車ニ妨ケナキヲ要ス

第五十條 公設駐車場ニアル人力車ハ整列ノ順序若クハ圖取ヲ以テ出車スヘシ 但客ノ特ニ指示マタル場合ハ此限ニアラス

第五十一條 駐車場ハ日掃除ヲ爲シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第五十二條 客ヨリ求メアルトキハ正當ノ理由ナク出車ヲ拒ムヘカラス 但暴行者及看護者ナキ瘋癲人ハ此限リニアラス

第八章 營業組合

第五十三條 人力車營業者ハ警察署又ハ分署ノ所轄ナ一區域トシ組合ヲ設クヘシ

第五十四條 營業者少數ニシテ組合ヲ設クル不能トキハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受ケ最寄組合ニ加入スルコトヲ得 但其場合ニ於テハ合併セントスル組合取締人ノ加印ヲ要ス

第五十五條 組合ニ入ラサルモノハ人力車營業ヲ爲スコトヲ得ス
 第五十六條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ
 第五十七條 組合中ニハ取締一人ヲ置ク其取締人ハ組合營業者ノ中ヨリ公選シ
 所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ
 第五十八條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ
 一 人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
 二 私設駐車場ノ標札ニ烙印スル事
 三 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルキハ其旨ヲ記シ添申スル事
 四 營業者名簿ヲ製シ増減變更アル毎ニ之ヲ加除スル事
 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事
 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
 七 取締人ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事
 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項
 第五十九條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ
 第六十條 組合規約ニ掲クヘキ事項左ノ如シ
 一 組合ノ名稱及事務取扱所ノ位置
 二 取締人ノ選舉及任期ニ關スル事
 三 組合會議組織ノ事
 四 組合費用ノ賦課及收支ノ事
 五 組合ニ關スル公共事務取扱ノ事

六 輓子ノ備入及解備取扱ノ事
 七 違約者取扱ノ事
 右ノ外營業上必要ノ事項
 第六十一條 左ノ資格ニ適合スル者ニ非ラサレハ取締人タルコトヲ得ス
 一 年齢二十五年以上ニシテ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
 二 組合營業者ニシテ人力車五輛以上ヲ所持スル者
 三 營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ筆算ニ差支ナキモノ
 第六十二條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルモノ
 又ハ賭博犯懲罰ニ處セラレ滿期後六ヶ月ヲ經サルモノハ取締人タルコトヲ得
 ス其他ノ犯罪ト雖トモ監視中ノ者亦同シ
 第六十三條 所轄警察署又ハ分署ニ於テ取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルト
 キハ臨時改選セシムルコトアルヘシ
 第八章 罰 例
 第六十四條 第二條第四條第十一條ニ違背シタルモノハ二日以上三日以下ノ拘
 留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 第六十五條 第九條第二十九條第三十一條第四十四條第四十七條第五十二條ニ
 違背シタルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
 第六十六條 第六條第七條第十條第十二條第二十條第四項第五項第七項第八項
 第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第三十五
 條第四十條第四十三條ニ違背シタルモノハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第六十七條 第三十七條第五十一條ニ違背シテ制止ヲ背セス又ハ官署ノ督促ニ從ハサルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第六十八條 第三十條第三十二條第三十六條第三十八條ニ違背シタルモノハ刑法ノ刑ニ處セラルヘシ其他第三十一條ニ掲ケタル條項中ノ所爲ニシテ刑法ニ明文アルモノ亦同シ

附 則

- 一 從來ノ營業者ハ本則施行ノ日迄ニ第二條第四條ノ手續ニヨリ營業免許証及輓子鑑札ヲ受クヘシ
- 二 車體構造輓子服裝中第二十條第二項第四項第二十三條第一項第三項ハ明治二十一年三月三十一日マテ各本條ニ適スル改良ヲ猶豫ス

○營業人力車取締規則取扱手續ノ件

警甲第二二三號 (明治二十年九月)

第一條 規則第二條ニ依リ營業ヲ願出タルトキハ其事實ヲ取關不都合ナキモノハ第一號書式ノ免許證ヲ與ヘ規則第十四條ノ保證金ヲ徵収シ第五號書式ノ領收證ヲ下附スヘシ

第二條 規則第四條ニ依リ輓子ノ就業ヲ届出タルトキハ規則第二十一條第二十二條ノ適否ヲ取調ヘ不都合ナキモノハ第二號書式ノ鑑札ヲ與フヘシ

第三條 車體ヲ検査ヲ願出タルトキハ規則第二十條ノ各項ニ依リ精査ヲ遂ケ不都合ナキモノハ直チニ第三號書式ノ検査證ヲ與ヘ規則第十九條ノ手数料ヲ徵収スヘシ

第四條 規則第六條第七條ノ定期検査ハ各臺帳ニ照合シテ精密ノ検査ヲ爲シ但検査及鑑札ニ検査ノ年月日ヲ記入シ且ツ印章ヲ捺印シテ之ヲ返付スヘシ但検査ハ混雜セサル様出頭ノ順序ニ依リ施行スヘシ

第五條 免許證鑑札検査證ヲ與ヘ又ハ車體鑑札ノ検査ヲ爲シタルトキハ其旨臺帳ニ記載スヘシ

第六條 規則第六條第七條ニ依リ検査證又ハ鑑札ノ無効及第十八條ニ依リ營業免許ノ効ヲ失ヒタルモノアルトキハ各臺帳ニ事由ヲ詳記シ置クヘシ 但検査證鑑札免許證ハ返納セシムヘシ

第七條 規則第八條ノ臨時検査ハ成ルヘク出頭セシメス營業者ノ家宅ニ就キ検査シ若シ規則ニ違フモノアルトキハ一時検査證ヲ引揚ケ車體ノ使用ヲ中止スヘシ 但臨時検査ハ烙印スルノ限リニアラス

第八條 検査證及鑑札ハ各様式ニ從ヒ各署ニ於テ調製シ其費用ハ仕譯書ニ作リ本部ヘ別途請求スヘシ

第九條 規則第九條ニ依リ届出タルトキハ其事由ヲ取關ヘ審番號ヲ付シ更ニ免許證検査證又ハ鑑札ヲ與ヘ各臺帳ニ記載シ置クヘシ 但検査證鑑札ハ規則第十九條但書ノ手数料ヲ徵収スヘシ

第十條 規則第十條ニ依リ届出タルトキハ返納ノ事由ヲ臺帳ニ記載シ置クヘシ

第十一條 規則第十三條ニ於テ使用ヲ差止ムルコトヲ得ルト雖トモ實際危険ノ狀アルニアラサレハ成ルヘク説諭ヲ加ヒ速ニ修理セシムヘシ

第十二條 (二十三年六月警甲第六號ヲ以テ删除)

第十三條 (同上)

第十四條 (同上)

第十五條 規則第二十條第四項車體番號ハ警察署又ハ分署ニ於テ定メタル車體
檢査證ノ番號ヲ記セシムヘシ

第十六條 規則第二十一條ノ場合ニ於テハ本人ヲ出頭セシメ族籍住所氏名年齢
ヲ尋問シ疾病ノ有無及身体ノ強弱ヲ概檢シ且ツ土地ノ路程ヲ試問スヘシ

第十七條 規則第二十二條ノ場合ニ於テハ本人ノ性質行狀ヲ視察スルハ勿論規
則ニ掲クル前科ノ有無ヲ戸長役場ニ照會スヘシ

第十八條 規則第三十八條ニ依リ届出タルトキハ得遺失物取扱心得ニ照準シテ
處分スヘシ

第十九條 規則第三十九條ニ依リ貸錢額ヲ定メ届出タルトキハ直チニ本部ニ進
達スヘシ

第二十條 規則第四十六條ニ依リ公設駐車場ヲ届出タルトキハ通行繁閑及利害
ヲ考察シ其不都合ナキモノハ認可ヲ與ヘ標木ヲ建設セシムヘシ

第二十一條 規則第四十七條ノ私設駐車場ハ私有地内ニ設クルモノナレハ他ノ
妨害トナラサル限リハ直チニ之ヲ認可シ標札ヲ掲ケシムヘシ

第二十二條 (二十一年四月警甲第
〇號ヲ以テ削除)

第二十三條 規則第五十四條ノ場合ニ於テハ營業者ノ人員及其事由ヲ取調ヘ支
障ナキモノハ直チニ認可ヲ與フヘシ

第二十四條 組合名ハ警察署又ハ警察分署所在地ノ名稱ヲ付セシムヘシ

第二十五條 規則第五十六條ニ依リ認可ヲ請ヒタルトキハ規則第六十條ノ各項
ニ依リ調査ヲ遂ケ意見ヲ添付シ本部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十六條 規則第五十七條ニ依リ認可ヲ請ヒタルトキハ規則第六十一條第六
十二條ニ適スルヤ否ヤヲ調査シ不都合ナキモノハ直ニ認可スヘシ

第二十七條 規則第六十三條ニ依リ臨時改選ヲ命スルモノアルトキハ其事由ヲ
詳記シ本部長ノ指揮ヲ受クヘシ 但本條ノ場合ニ於テハ成ルヘク本人ノ始末
書ヲ添付スヘシ

第二十八條 規則第二條第九條第一項第十條第十項第二項第三項ノ願届ヲ受理
シタルトキハ速ニ所轄郡役所ニ通知スヘシ 但第九條第一項第十條第二項第
三項ノ場合ニシテ轆子ニ係ルモノハ此限ニテラス

第二十九條 規則第二條第四條ノ願届ヲ却下シタルトキハ其年月日氏名及理由
ヲ付シテ警部長ニ報告スヘシ

第三十條 (二十三年六月警甲
第六號ヲ以テ削除)

第三十一條 警察署分署ニ於テ前數條ノ願届ヲ許可若シクハ認可スルトキハ書
式ニ依リ朱書ノ指令ヲ與フヘシ

番號
書式
何年何月何日住所職業氏名
何何ノ義ニ付願

書面ノ趣 開府ク
認可ス

明治 年 月 日

何警察署又ハ分署
警部又ハ警部補 氏 名 印

第一號書式

厚雁皮紙 竪六寸四分 横四寸六分

表

福島縣何國何郡何町村字番地
士族(平民) 氏 名 跡

人力車營業免許證

年 月 日

裏

年 月 日

福 島 縣 檢 印

番 號

第二號書式

木質適宜 竪二寸五分 横一寸八分

表

福島縣何郡何町村字番地
(何某方屬)士族(平民) 氏 名 跡

人力車 鞍子 鑑札

年 月 日

署印烙印

裏

何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日

檢 章

第三號書式

木質適宜

竪四寸

横五寸五分

福島縣郡町村字番地
士族(平民)
何人乘 氏 名

署印烙印
檢章烙印
(警) 九經四寸

車體檢査證

明治何年何月何日
明治何年何月何日
明治何年何月何日
明治何年何月何日
明治何年何月何日
明治何年何月何日

○ ○ ○ ○ ○ ○

檢 章

第四號書式

(二十三年六月警甲)
第六號ヲ以テ別除

第五號書式

(同上)

營業者臺帳

業名	營業者姓名	族籍住所氏名 生年月日及後見 人ノアルモノ ハ其住所氏名
舊職業	家族及同居人ノ氏名	
雇人ノ數	免許證又ハ鑑札番號	
免許證又ハ鑑札番號	免許證又ハ鑑札下附	
書映再渡年月日	現今ノ住所移轉年月日	
舊住所	資本及其出所財產ノ概容	
賞	罰	
平素ノ品行	考備	

人力車々體檢査證臺帳

乘載定員	塗色	營業者姓名
檢査證第	主任印	檢査年月日
年月日	主任印	主任印

人力車輓子臺帳

考備	出生地	輓子年齡	現住地	氏名
	身材	眼	鼻	口
	特	徵		
	鑑札第	號	檢査	年月日
	年月日	主任之印		

○營業人力車輓子身分表ノ件

警乙第二一一號 (明治二十年九月)
 今般營業人力車取締規則施行相成候ニ付テハ輓子ノ行狀取締ノ爲メ事務取扱所
 ニ於テ別紙雛形ノ表ヲ開製シ營業者ニ於テ記入シ規則第二十四條ニヨリ取締規
 則及賃錢表ヲ所持スル輓子ニ携帶セシムヘシ但輓子ニシテ組合及營業者ヲ轉

換シタルトモ又携帶セシメ本文ニ準シ各欄ヘ追記セシムルモノトス

出生地	何縣何國何郡何町村字番地	氏名	何	誰
身	族	年	明治何年何月	生
材	籍	齡	何年何月	日
眼	口	特		
鼻				
口				
特				
營業者	住所	氏名		
就業				
年月日				
解備年				
事由摘要				
營業上ニ 關スル賞 罰ノ年月 日及ヒ其 事由摘要				

明治 年 月 日 何組合營業人力車取締事務所取扱所(印)

○宿屋取締規則ノ件

縣令甲第一一〇號 (明治二十年八月)

第一章 通 則

第一條 宿屋ヲ分チテ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスルモノハ住所身分氏名年齢及其種類ヲ記シ建

物坪敷間取増壁出入口等ヲ詳記シタル明細圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出免

許ヲ受クヘシ其建物坪敷等ヲ變更増減セントスルトキハ圖面ヲ以テ届出テ認

可ヲ受クヘシ

第三條 營業ニ關スル願届ニハ總テ取締人ノ加印ヲ受ケ所轄警察官署ニ差出ス

可シ

第四條 左ノ各項ニ觸ルル者ハ免許ヲ與ヘス 但第三條ニ觸ル、モノト雖モ改

換ノ狀アリト認メタルトキハ特ニ免許スルコトアルヘシ

一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二 白痴瘋癲者

三 強盜盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルモノ又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

四 公安ヲ害シ若クハ風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタル者

第五條 改氏名又ハ營業免許ノ指令書ヲ紛失シタル等ノコトアルトキハ五日以

内ニ所轄警察官署ヘ届出ツヘシ 但廢業シタルトキモ又同シ

第六條 營業者死亡シ其相續人ニ於テ引續キ營業セントスルトキハ其死亡ノ日

ヨリ三十日以内ニ所轄官署ヘ願出免許ヲ受クヘシ 但相續ナキ場合ト雖モ三

十日以内ハ假リニ營業人ヲ定メ遺族ニ於テ營業スルコトヲ得

第七條 宿屋營業者ハ種類ヲ明記シタル看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜間

標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ

第八條 宿引ヲ出シ客ヲ誘引スヘカラス

第九條 宿屋營業者ハ一戸内ニ於テ貸座敷ヲ營ムヲ許サス

第十條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其倚託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ

第十一條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ其室内ニ入ラシムヘカラス

第十二條 宿泊人疾病ニ罹リタルトキハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十三條 宿泊人變死傷若クハ八種傳染病ニ罹リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時所轄警察官署巡査派出所巡査駐在所又ハ巡行巡査ニ届出ヘシ

第十四條 宿泊料ノ抵當トシテ宿泊人ノ所有品ヲ押収スヘカラス若シ受領セントスルトキハ警察官吏ノ承認ヲ受クヘシ 但客ヨリ相當ノ保證人ヲ立テタルトキ受領スルハ此限リニ非ス

第十五條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十六條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室ニ掲出スヘシ

第十七條 宿屋營業者雇人ヲ雇入タルトキハ其住所身分氏名年齢及前住所ヲ記載シ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ其解雇シタルトキ亦同シ

第十八條 二 宿屋營業者公安ヲ害シ若クハ風俗ヲ害ルノ所爲アリ又ハ他人ニ名義ヲ假シ營業セシムルノ事實アリト認ムルモノアルトキハ營業ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十九條 三 雇人ニシテ公安ヲ害シ若クハ風俗ヲ害ルノ所爲アリト認ムルモノアルトキハ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條ノ四 營業上ニ就テハ家族雇人ノ所爲ト雖トモ營業者其責ニ任ス

第十八條 宿屋營業者ハ警察署又ハ分署ノ所轄ナシ區域トシ組合ヲ設クヘシ

第十九條 組合ニ於テハ規約ヲ定メ且ツ組合中ヨリ取締一人ヲ公選シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其組合ニ入ラサル者ハ宿屋營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 營業ニ關スル諸規則命令ヲ組合營業者ニ通知スル事

二 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨添申スル事

三 營業者名簿ヲ製シ増減異動アル毎ニ之ヲ加除スルコト

四 組合ニ關スル費用ノ取立仕拂及報告ニ關スル事

五 取締人ノ任舉ニ關スル事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事

第二十二條 組合規約ニ掲クヘキ事項左ノ如シ

一 組合ノ名稱及事務取扱所ノ位置

二 取締人ノ選舉及任期ニ關スル事

三 組合會議組織ノ事

四 組合費用ノ賦課及収支ノ事

五 備入ノ備入及解雇ノ事

六 違約者取扱ノ事

右ノ外營業上必要ノ事項

第二十三條 取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ臨時改選セムルコトアルヘシ

第二章 旅人宿

第二十四條 市街旅人宿ハ客室十五坪以上村落旅人宿ハ客室八坪以上アル家屋ニアラサレハ營業スルヲ許サス

第二十五條 客室ハ充分ニ光線ヲ取リ且空氣ヲ流通セムヘシ

第二十六條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入戸糊篋等又ハ櫃類ヲ設クヘシ

第二十七條 二階以上ノ客室十五坪以上アルモノハ梯子二個以上設クヘシ但梯子ノ幅ハ三尺以上タルヘシ

第二十八條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ヘサル所ニ設ケ尿管ヲ受容スヘキ部分ハ石敲キ陶器等ヲ以テ構造スヘシ但結構上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第二十九條 便所ハ日日清潔ニ掃除スヘシ

第三十條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス但同行者ハ此限ニアラス

第三十一條 客室ノ番號並ニ定員ハ其出入口ニ揭示スヘシ

第三十二條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スヘカラス

第三十三條 宿屋營業者ハ左ノ書式ニ依リ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎ニ

之ニ記入シ毎日午後十時迄ニ同十時以後ノ分ハ翌日午前十時迄ニ該人名簿ヲ以テ所轄警察官署又ハ巡査駐在所ニ届出ツヘシ但警察官署巡査駐在所々在
地外ニ於ケル營業者ハ隨時宿泊人名簿ニ巡回巡査ノ捺印ヲ受クヘシ

宿泊人名原簿

(書式)

到着月日	氏名	年齢	住所	身分職業	特	徴	出發月日

第三十三條ノ二 前條ノ帳簿ノ其使用ヲ終リタル日ヨリ滿一ケ年間保存ス可シ

記載例

一 官吏公吏ニシテ公用ヲ帶ビ宿泊シタル場合ハ本簿ノ項目ニ依ラス適宜ノ欄ニ官職名及官氏名ノミ記載スルモノトス

一 軍人若クハ學校生徒ニシテ隊伍旅行中宿泊シタルトキハ上官ノ官氏名ヲ記シ其他ハ外伺名ト記載スルモノトス

一 甲又ハ乙簿記載ノモノニシテ滞在スル場合ハ乙又ハ甲簿中到着月日ノ欄ニ滞在ト記スル外氏名ノミヲ記載スルモノトス

第三章 下宿屋

第三十四條 下宿屋トハ一ケ月ノ賄料座敷料等ヲ約定シ寄留セムルモノヲ云フ

第三十五條 下宿屋ハ客室六坪以上アル家屋ニアラサレハ營業ヲ許サス
 第三十六條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ト連印ノ上
 下宿人ノ住所氏名族籍職業年齡並ニ下宿ノ事由ヲ記載シ所轄警察署分署又ハ
 巡查駐在所ニ届出ツヘシ但警察署分署巡查駐在所ノアラサル町村ハ三日以
 内ニ本文ニ準シ届出ツヘシ(二十二年四月縣令甲第
 五十一號ヲ以テ改正)
 第三十七條 第二十五條第三十六條第二十七條第二十八條第二十九條ハ下宿屋
 ニモ亦之ヲ適用ス
 第三十八條 下宿營業者ハ下宿人ノ族籍氏名等ヲ記シタル左ノ木札ヲ店頭又ハ
 門戸ニ掲クヘシ

竪五寸

何府何國何郡何町何番地華士族(平民) 氏名
 幅二寸五分

第三十九條 下宿人他へ轉居シ又ハ五日以上外泊シテ其在所不明ナルトキハ三
 日以内ニ所轄警察署分署巡查駐在所ニ届出ツヘシ

第四章 木賃宿

第四十條 木賃宿ハ市驛外ニ限ルヘシ
 第四十一條 宿泊人滞在中外泊シタルトキハ其冒テ名簿ニ記シ置クヘシ
 第四十二條 宿泊人届出方ハ第三十三條ノ例ニ從フヘシ

第五章 罰則

第四十三條 第二條第八條第十四條第十五條第十七條ニ違背シタルモノハ一日
 以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 第四十四條 第十二條第十三條第三十二條第三十三條ノ二第三十六條ニ違背シ
 タル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
 第四十五條 第五條第七條第十一條第二十六條第二十七條第三十條第三十三條
 第三十八條第三十九條第四十一條第四十二條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾
 錢以下ノ科料ニ處ス
 第四十六條 第九條第二十五條第二十八條第二十九條第三十一條ニ違背シテ制
 止ヲ肯ンセス官署ノ督促ニ從ハサルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

一 本則ニ於テ市街ト稱スルハ街路取締規則第二條ヲ適用ス
 二 本則ニ該當スル現在ノ宿屋ニシテ引續營業セントスルモノハ本則施行ノ
 日マテニ第二條ニ依リ願出免許證ヲ受クヘシ
 三 現在ノ旅人宿ニシテ第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十
 八條ニ觸ルルモノノ市街ハ明治二十一年三月三十一日マテ村落ハ明治二十
 一年九月三十日マテ改造ヲ猶豫ス
 四 現在ノ下宿屋ニシテ第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第三十
 五條ニ觸ルルモノノ市街ハ明治二十一年三月三十一日マテ村落ハ明治二十
 一年九月三十日マテ改造ヲ猶豫ス

五 現在ノ木賃宿ハ第四十條制限ニ觸ルルモノト雖モ本則施行ノ日マテニ第
二條ニ依リ願出免許證ヲ受ケ當分ノ内引續營業スルコトヲ得

○宿屋取締規則取扱手續ノ件

警甲第二一四號 (明治二十年九月)

宿屋取締規則取扱手續

第一條 規則第二條ニ依リ營業ヲ願出タルトキハ規則第四條ノ各項ニ觸レナル
ヤ否ヤヲ調査シ且第二章以下建物構造法ノ適否ヲ臨檢シ其不都合ナキモノハ
文書式ニ依リ免許ノ指令ヲ與フヘシ其建物坪數等ヲ變更増減セントスル届出
アリタルトキハ圖面ニ就キ調査スヘシト雖モ時宜ニ依リ實査ヲ遂ケ認可スヘ
シ 租落成ノ上ハ可成臨場シテ圖面ニ照合檢査スヘシ

第二條 規則第二條ノ免許ヲ與ヘタルトキハ第一號様式臺帳ニ登記シ異動アル
毎ニ加除訂正スヘシ

第三條 規則第四條ノ場合ニ於テハ左項ニ依リ精査スヘシ

- 一 營業者タラントスルモノノ前科及性質素行
- 二 後見人ノ身元ハ總テ營業者ノ例ニ依ル
- 三 削除

第四條 規則第五條ニ依リ届出タル場合ニテ紛失改氏名ニ係ルモノハ更ニ免
許ノ指令ヲ與フヘシ

第五條 規則第六條ニ依リ引續キ營業ヲ願出タル場合ニ於テハ相續人ノ身元調
ハ前條ニ從ヒ調査ヲ遂ケ不都合ナキトキハ免許ノ指令ヲ與フヘシ

第六條 規則第八條ニ於テ客ヲ引誘スヘカラスト雖モ旅客ノ氏名ヲ指示シ其案
内ヲ爲ス等ノ場合ハ制止スルノ限リニアラス

第七條 規則第十三條ニ依リ届出タルトキハ直チニ其場へ出張シ成規ノ手續ニ
依リ處分スヘシ 但所有品ノ紛失ニ係ルモノハ一時出入ヲ止メ精査取調ヲ爲
スヘシト雖モ旅客ノ妨害トナラサル様注意スヘシ

第八條 規則第十四條ニ依リ承認ヲ申請シタルトキハ左ノ各項ヲ調査シ其不都
合ナキモノハ口頭ヲ以テ承認ヲ與フヘシ

一 應禁物又ハ贓品拾得品ニアラサルヤ否ヤ
二 所有者ノ諾否

第九條 規則第十七條雇人ノ届出アリタルトキハ第二號様式ノ雇人名簿ニ登記
シ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

雇人ノ素行及前科ヲ調査シ名簿中相當欄ニ記入スヘシ
第十條 規則第十九條ニ依リ認可ヲ請ヒタルトキハ調査ヲ遂ケ不都合ナキモノ
ハ直ニ認可スヘシ

第十一條 規則第二十二條ノ外尙ホ左ノ項目ヲ規約セシムヘシ

- 一 宿泊及晝食料ノ定額
- 二 月賄料及貸席料ノ定額
- 三 木賃料ノ定額
- 四 正當ノ理由ニ依リ宿泊ヲ拒絕スルトキハ最寄リ同業者ハ案内スル事
- 五 舉動不審ノ者ヲ警察官吏ニ報告スル事

第十二條 規則第二十三條ニ依リ臨時改選ヲ命スル者アルトキハ其事由ヲ詳記シ本部長ノ指揮ヲ受クヘシ 但本條ノ場合ニ於テハ可成本人ノ始末書ヲ添付スヘシ

第十三條 規則第二十四條客室ノ坪數ハ客ノ宿泊ニ供セサル室及床押入等ヲ除キ計算スヘシ

第十四條 規則第二十七條ニ定ムル階子ノ勾配ハ成ルヘク緩ニシテ且危險ノ虞アリト認メタルモノハ欄干ヲ設ケシムヘシ

第十五條 規則第二十八條但書ノ場合ハ其場所ノ如何ニ依リ石敲陶器等ヲ用ヒサルモノ之ニ均シキ物質ニシテ敢テ不潔ノ虞ナキト認メタルトキニ限り特ニ認可ヲ與フヘシ 但便所ハ井戸ヲ距ルコト三間以上ニ限ルヘシ

第十六條 規則第三十三條ノ宿泊人名簿(甲又ハ乙)ヲ届出タルトキハ主任者調査ノ上記載人名ノ未端上部ニ認印シ翌日同人名簿(乙又ハ甲)届出ノ際之ヲ下付シ毎次輪換授受スルモノトス

巡查駐在所ニ宿泊人名簿ノ届出アリタルトキハ在勤ノ巡查調査認印シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ 但同中ノ場合ハ認印ノ際其月日時ヲ記載スヘシ

第十七條 營業停止又ハ許可取消ノ必要アルヲ認メタルトキハ其事由ヲ詳具シ知事ニ稟申スヘシ

第十八條 規則第三十六條ノ届書ヲ受ケタルトキハ檢査ノ上保存スヘシ 但遠隔ノ地ヨリ差出ス届書ハ郵便ヲ以テスルモ妨ケナシ

第十九條 規則第三十七條ノ場合ハ手續第十三條第十四條ニ依リ取扱フヘシ

第二十條 規則第四十條ノ場合ハ如何ナル事由アリト雖モ新ニ營業又ハ讓受ケ營業ヲ許スヘカラス

第二十一條 規則第四十二條ノ場合ハ都府手續第十五條ニ據リ取扱フヘシ

第二十二條 温泉宿留船宿牛馬宿(人ヲ宿泊セ)ノ類モ亦本規則ニ包含スルモノナレハ前數條ノ手續ニ據リ取扱フヘシ

第二十三條 附則第二項ニ依リ引續キ營業スル宿屋ニシテ規則第四條ノ各項ニ觸ルルモノハ免許證ヲ附與スヘカラス

第二十四條 警察署分署ニ於テ前數條ノ願届ヲ許可若クハ認可スルトキハ文書式ニ依リ指令ヲ與フヘシ

第二十五條 削除

第一號第二號樣式畧ス

○宿泊人記載方注意ノ件

警本訓示第二一〇號 (明治二十六年十月)

地方稅中宿屋稅ハ宿屋取締規則第三十三條宿屋人名簿ノ人員ヲ標準トシ等級ヲ定メ營業ノ届出ヲ爲スヘキ成規ニ有之候處該規則發布ノ當時ニ比シ該稅ノ收入額年年減少ニ相傾キ現ニ二十五年モ豫算ニ對シ參百四拾餘圓ノ減少ヲ來シ候右ハ營業者ニ於テ宿泊人ノ記載方ヲ疎略ニスルヨリ斯ル結果ヲ來候哉モ難計候條平素視察ヲ加ヘ宿泊人記載漏等無之様注意セラルヘシ

○外國人投宿月報制定ノ件

保第五四八號 (明治三十二年七月二十二日)

(保安課長)

- 一 質屋取締條例施行細則(明治二十二年八月)
- 一 雜藥販賣取締規則(明治十八年十月一)
- 一 出火場取締規則(明治二十二年十二月)
- 本縣令ニシテ違警罪ノ罰例アル者
- 一 摺附木製造取締規則(明治十九年十二月)
- 一 陸運營業取締規則(明治二十年三月)
- 一 獸類屠殺場及獸肉販賣取締規則(明治二十六年二月)
- 一 貸座敷娼妓取締規則(明治二十二年四月)
- 一 演藝場遊觀場取締規則(明治二十六年十二月)
- 一 街路取締規則(明治二十年八月)
- 一 乘合馬車取締規則(明治二十五年十二月)
- 一 營業人力車取締規則(明治二十年八月)
- 一 宿屋取締規則(明治二十年八月)
- 一 凍水營業取締規則(明治二十七年三月)
- 一 銃砲取扱規則(明治二十五年十二月)
- 一 山野火入取締規則(明治二十一年四月)
- 一 湯屋營業取締規則(明治二十一年四月)
- 一 雇人受宿取締規則(明治二十一年五月)
- 一 獸畜死屍取締規則(明治二十一年六月)
- 一 畜犬取締規則(明治二十二年一月)

- 一 藥種商並製藥者取締規則(明治二十三年二月)
 - 一 格魯兒酸加溜賣買届出手續(明治二十二年十一月)
 - 一 船燈信號器取締規則(明治二十一年三月)
 - 一 寄進惠與ニ勸誘募集セントスル者届出規則(明治二十四年九月)
 - 一 營業稅雜種稅納人心得(明治二十四年三月)
 - 一 牛乳搾取及販賣取締規則改定(明治二十五年三月)
 - 一 生糸帶紙卷用規則(明治二十五年三月)
 - 一 市場規則(明治二十五年三月)
 - 一 紙幣ニ擬ハシキ印刷物賣買授受所持禁止(明治廿五年七月)
 - 一 種牡牛馬取締規則(明治二十三年十月)
 - 一 絹織物取締規則(明治二十六年五月)
 - 一 屠獸場及獸肉販賣取締規則(明治二十六年二月)
 - 一 產馬組合規則(明治二十七年三月)
 - 一 煙火取締規則(明治二十六年十一月)
 - 一 認可ヲ得サル發砲禁止(明治二十七年二月)
 - 一 河川取締規則(明治二十七年五月)
 - 一 街路取締規則中適用スル區域(明治二十年七月)
 - 一 電氣營業取締規則(明治二十七年六月)
 - 一 貸座敷娼妓賦金徵集規則(明治二十二年五月)
- 郵便脚夫違警罪ヲ犯シタル際ニ於ケル取扱方ノ件

警第三八號 (明治十五年十月)

郵便脚夫違警罪ヲ犯シ引致スル場合ニ於テハ其携帶ノ郵便物ハ瞬時速達ヲ要スル儀ニ付速ニ遞送配達可致様取扱フヘシ爲心得此旨相違候事

○違警罪目揭示方ノ件

警第四二號 (明治十五年十月)

其署揭示場へ本縣違警罪條目(見易カラシカ爲メ解シ難キハ傍訓ヲ加ヘ)揭示可致此旨相違候事

○榜示建設方ノ件

警乙第三三三號 (明治二十年十月)

縣令甲第百二十二號違警罪第二條第一項ノ儀ニ付別紙之通訓令相成候條榜示ヲ建設セントスルトキハ其場所及事由ヲ詳記シタル書面ニ榜示ノ文案ヲ添附シ上申シテ指揮ヲ受クヘシ

(縣)訓令乙第八八九號 (明治二十年十月十五日) (警察本部)

明治二十年(十月十三日)縣令甲第百二十二號違警罪第二條第一項ニ掲ケタル榜示ヲ警察上建設セントスルトキハ其場所及事由ヲ詳記シ榜示ノ文案ヲ取調ヘ縣名ヲ以テ之ヲ建設スル儀ト心得ヘシ

(縣)訓令乙第九〇〇號 (明治二十年十月十五日) (第一部)

明治二十年訓令甲第三三三號ヲ以テ縣令甲第百二十二號違警罪第二條第一項榜示建設方ノ儀ニ付郡役所戸長役場へ訓令ノ次第モ有之候條其部ニ於テ榜示ヲ建設

セントスルトキハ警察本部へ合議ノ上縣名ヲ以テ之ヲ建設スヘシ 但從來建設ノ分ト雖モ本文ニ準シ取扱フヘシ

(縣)訓令乙第九〇一號 (明治二十年十月十五日) (第二部)

明年二十年訓令甲第三百三三號ヲ以テ縣令甲第百二十二號違警罪第二條第一項榜示建設方ノ儀ニ付郡役所戸長役場へ訓令ノ次第モ有之候條其部ニ於テ榜示ヲ建設セントスルトキハ警察本部へ合議ノ上縣名ヲ以テ之ヲ建設スヘシ 但從來建設ノ分ト雖モ本文ニ準シ取扱フヘシ

(縣)訓令甲第三〇三號 (明治二十年十月十五日) (郡役所)

明治二十年(十月十三日)縣令甲第百二十二號違警罪第二條第一項ニ掲ケタル榜示ヲ建設セントスルトキハ其場所及事由ヲ詳記シタル書面ニ榜示ノ文案ヲ添付シ縣廳へ上申シテ指揮ヲ受ケ縣名ヲ以テ之ヲ建設スヘシ 但從來建設ノ分ト雖モ本文ニ準シ取扱フヘシ

○榜示犯禁者處分方ノ件

警乙第三三四號 (明治二十年十月)

明治二十年(十月十二日)縣令甲第百二十二號違警罪ヲ制定セラレ候處其第二條第一項ハ總テ縣廳ノ榜示ヲ指シタル儀ニシテ縣名ヲ以テ建設シタル禁制ヲ犯シタルヲ該條項ニ依リ處分スル義ニ付他ノ官署ヨリ榜示シタル禁條ニシテ特ニ罰例ナキモノハ說論ニ止ムヘシ 但本年九月二十九日警乙第二一八號違及街路取締規則第七條第十一項ニ依リ建設シタル榜示ヲ犯シタルモノハ刑法第四百二十九條第十項ニ照シテ處分スヘキモノトス

○違警罪即決手續ノ件

訓乙第七二七號 (明治二十二年七月)

第一條 警察官吏其職務ヲ行フニ當リ違警罪犯者ヲ認メタルトキハ先ツ其所爲ノ違警罪犯タルコトヲ告知シ被告人住所氏名年齢身分職業出生ノ地名前科ノ有無及ヒ犯罪ノ事實ヲ訊問シテ放還シ管轄署長又ハ代理官へ告發スヘシ
被告人犯罪ノ告知ニ服セス又ハ住所氏名分明ナラス又ハ逃走若クハ證據湮滅ノ恐レアル者等ハ直チニ引致スルコトヲ得

第二條 告發書ニハ左ノ事項ヲ明記スヘシ

- 一 被害人ノ住所氏名身分職業年齢出生ノ地名犯罪ノ日時場所
- 二 犯罪事實證據其他參考トナルベキ模様
- 三 違警罪前科ノ有無若シ前科アリタルトキハ犯罪ノ場所及言渡ヲ爲シタル官署年月日並罪名刑名

四 軍人軍屬ナルトキハ其所管及兵種官名

五 位記帶勳者ハ其種別及階級

第三條 左ノ場合ニ於テハ被告人ヲ呼出スコトナク缺席ノ儘言渡ヲナスヘシ

一 相當官吏ノ告發書ニ於テ事實明確證據充分ナルトキ

二 自首狀ヲ遞送シタルトキ

三 被告人ヲ呼出シタル日時ニ出頭セサルトキ

第四條 犯狀煩雜其他左ノ場合ニ於テハ被告人ヲ呼出シ本人又ハ代人ノ陳述ヲ聽キ直ニ言渡ヲナシ尋問調書ヲ必要ト認メタル事件ハ其調書ヲ作ルヘシ

一 引致告發シタルトキ

二 被害者ノ告訴アリタルトキ

三 告發書ニ於テ犯罪ノ事實及其他ノ事項分明ナラサルトキ

四 自首狀ヲ携帶出頭スルカ又ハ口頭ヲ以テ自服シタルトキ

五 (二十六年訓令己第八一號削除)

第五條 缺席ノ儘言渡ヲナシタル言渡書ノ謄本送達ハ警察署分署所在地ハ巡查

又ハ使丁其他ノ地方ハ巡查ヲシテ便宜送達スヘシ若シ本人及同居ノ親屬雇人

等アラサル時ハ隣佑ニ送達ヲ囑託セシムルコトヲ得 但巡查又ハ使丁若クハ

隣佑ニ囑託シテ送達シタルトキハ年月日時ヲ記載シタル領取書ヲ徴セシムヘシ

第六條 巡查言渡書ヲ送達スル場合ニ於テハ隣佑ニ囑託シタル時ハ其旨ヲ名刺

ニ記載シ本人ノ門戸入口等ニ貼付シ置キ成ルヘク本人ヲシテ自ラ受取ラシム

ルノ順序ヲ盡スヘシ

第七條 對審ノ上科料ノ言渡ヲ假納シ必要トセサル場合ト雖モ其金額ヲ携帶シ

即時假納ヲ申立ツル者ハ該金ヲ受領シ其金額ヲ携帶セサルモノハ期限ヲ俟テ

納完セシムヘシ 但假納ヲ必要ト認メタルトキハ即決例第九條ニ據ルヘシ

第八條 缺席ノ儘言渡ヲナシタル場合ニ於テ科料ノ假納金拘留ノ保證金ヲ必要

ト認メタル時ハ命令書ヲ作り言渡書ト共ニ送達シ該金ヲ徴收シ若シ之ヲ肯セ

サルトキハ直ニ引致セシムヘシ

第九條 科料ヲ拘留又ハ留置ニ換ヘ拘留ヲ留置ニ換ヘントスル時ハ命令書ヲ作

リ之。本人ニ罰金ニ執行シ保證金ヲ沒收シテ本刑ニ換ヘントスルトキハ其命令書ヲ本人又ハ住所ニ送達スヘシ。但本人ヲ出頭セシムルトキハ呼出狀ヲ以テスヘシト雖モ時宜ニ據リ直ニ引致スルコトヲ得

第十條 被告人他ノ管轄地内ニ在ルトキハ事實ノ取調、言渡書ノ送達、又ハ言渡ノ執行ヲ其所轄ノ警察官署ニ囑託スルコトヲ得(二十六年十月訓令 第八一號改正)

第十一條 (二十六年十月訓令 第八一號) 留置場ニ於テ執行スヘシ

第十二條 科料拘留ヲ留置ニ換ヘ又ハ拘留ノ刑ヲ執行セントスルトキハ其署ノ第十三條即決言渡ヲナシタルトキ其被告人同一區裁判所管轄内ニアル他ノ警察署又ハ分署部内ニ居住スルモノナルトキハ既決犯罪表ヲ作リ其署ニ送付スヘシ其送附ヲ受ケタル警察署又ハ分署ハ順次編綴スヘシ(二十二年七月號 第三五號改正)

第十四條 被告人ヲ呼出ストキハ郵便端書又ハ便宜ノ呼出狀ヲ用ユヘシ

第十五條 正式裁判請求ノ申立ヲ受ケタルトキハ送致書類ニ目錄ヲ添附シ規程ノ時間内ニ送付シ且一件書類ノ寫ヲ添ヘ其旨警部長ニ申報スヘシ

第十六條 科料ノ言渡確定ノ後十日ヲ經テ完納セザルトキハ被告人ヲ呼出シ又ハ時宜ニ依リ直ニ引致シ換刑處分ヲ爲スヘシ

第十七條 刑法第四百二十七條第十條及ヒ明治十九年内務省令第十九號第一條乃至第四條ノ違反者ニ即決言渡ヲナシタル時ハ其言渡確定ノ後被告人本籍地ノ市役所又ハ町村役場ニ通知スヘシ

地所條例ノ違反者ニ即決言渡ヲ爲シタルトキハ其言渡確定ノ後言渡書曆本ヲ

添へ所轄收税署ニ通知スヘシ

第十八條 此手續ニ於テ直ニ被告人ヲ引致スヘキコトヲ得セシムル條項ニ就テモ位記帶動者及軍人軍屬其他身分ニ據テ別段ノ規定アル者ハ其規程ニ從フヘシ

言渡書(例)

住所身分職業
被告人 氏 名
年 齡
右被告ニ對スル何何違反ノ事件審理スル處被告ハ明治年月日何處ニ於テ何何ニタル事實ハ相當官吏ノ告發(被害者ノ告訴)被告ハノ自供ニ依リ證據充分ナリトス(何何シタルモノト認定ス)依テ(刑法又ハ)本縣違警罪何條第何項(又ハ何何規則)ニ照シ金何圓錢ノ科料(又ハ拘留何日)ニ處ス。但此言渡ニ對シテハ三日以内ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得(缺席ノ時ハ言渡書ノ送達ヲ受ケタル時ヨリ五日)科料ノ完納ハ十日内

福島縣何警察署長(何分署長)
(官氏名代理)

年 月 日
命令書(例)
住所身分職業
官 氏 名 印

明治年月日當署ニ於テ科料金何圓錢(拘留何日)ノ言渡ヲ受ケ(限内完納セザル

ナ以テ刑法第三十條第二十七條ニ拘留何日ニ換フ(其金額ヲ假納セサルナ以テ
違警罪即決例第九條ニ依リ留置何日ニ換フ)(其刑期ニ相當スル保證金何圓錢ヲ
差出ササルナ以テ違警罪即決例第十條ニ依リ留置何日ニ換フ)コトヲ命ス

福島縣何警察署長(何分署長)

(官氏名代理)

官 氏 名 印

年 月 日

命令書(例)

住所身分職業

氏 名

明治年月日當署ニ於テ言渡シタル(科料金何圓錢違警罪即決例第九條ニ依リ假
納ヲ命ス)(拘留何日ニ相當スル保證金何圓違警罪即決例第十條ニ依リ即納ヲ命
ス)

福島縣何警察署長(何分署長)

(官氏名代理)

官 氏 名 印

年 月 日

命令書(例)

住所身分職業

氏 名

明治年月日當署ニ於テ拘留何日ノ言渡ヲ受ケ既ニ確定シタルヲ出頭シテ其執行
ヲ受ケサルニ依リ違警罪即決例第十一條ニ依リ明治年月日差出シタル保證金何

圓ヲ沒收ス

福島縣何警察署長(何分署長)

(官氏名代理)

官 氏 名 印

年 月 日

呼出狀(例)

住所身分職業

氏 名

右違警罪事件ニ付言渡(尋問)候條何日時當署ニ出頭スヘシ
(但言渡ノトキハ當日出頭セサルトキハ缺席ノ儘言渡スコトヲ附記スヘシ)

福島縣何警察署長(何分署長)

(官氏名代理)

官 氏 名 印

年 月 日

正式裁判ヲ請求シタルトキ送致書(例)

住所身分職業

氏 名

右違警罪何何ノ條項ヲ犯セルニ付何月何日即決例ニ依リ科料何圓錢(拘留何日)
言渡候處正式裁判ヲ請求候ニ付別紙目錄ノ關係書類及御送付候也

福島縣何警察署長(何分署長)

(官氏名代理)

官 氏 名 印

年 月 日

何違警罪裁判所

檢察官御中

(保證金不納ニ付留置シタルトキハ但書ニ其旨ヲ附記スヘシ)

目錄書(例)

目錄書

一何何 一個

一何何 一個

一何何 一葉

右之通

料
假納
保證
金領收證書(例)

住所身分職業

氏 名

一金何圓餘也○、署長又ハ代理官認印

右ハ(料)(拘留)ノ(假納)(保證)金トシテ正ニ領收ス

年 月 日

福島縣何警察署(何分署)印

○違警罪告發取扱方ノ件

警乙第四九二號 (明治二十三年十二月)

違警罪告發取扱上ノ件ニ付大分地方裁判所長代理判事多田吉甄ヨリ司法省刑事局長へ別紙甲號之通リ問合候處乙號ノ通回答及候旨本月二日司法省刑第二八六號ヲ以テ今般同局長ヨリ通牒有之候條其旨心得ヘシ

甲號 (明治二十三年十一月十九日司法省刑事局長宛大分地方裁判所長代理

問答)

刑事訴訟法第五十二條ニ依リ檢事ノ受タル告發ニシテ違警罪ナルトキハ即決例ニ據ル爲メ更ニ警察へ送致シ得ルヤ同第六十三條ニハ其裁判所へ起訴スヘシトアルカハ告發者ノ如何ニテ即決シ得ルヲ否トノ別ヲ來シ同犯罪ニシテ權衡ヲ得ス差掛タル件アリ直ク回答ヲ待ツ

乙號 (明治二十三年十一月二十四日司法省刑事局長回答)

明治二十三年十月十九日電信問合違警罪告發取扱ノ件ハ檢事告發ヲ受ケタルトキハ刑事訴訟法第六十二條及第六十三條ニ依リ取扱フヘキモノト考量ス

○違警罪已決犯罪表記入方ノ件

警乙第一六五號 (明治二十四年四月)

違警罪已決犯罪表中罪名ノ欄ニ拘留又ハ科料ト單記シ通知候向モ有之哉ニ相聞候處同欄ハ罪名ノ外刑期金額ヲモ併記スルノ主意ニ有之候條爲心得此旨通達ス

○違警罪摘要錄ノ件

訓令丁第一二號 (明治二十九年一月)

違警罪摘要錄左ノ通相定ム

簿冊ノ首端ニ記載例ヲ掲載スヘシ

他署ヨリ執行囑託ニ係ルモノハ口別ト記載スヘシ

(用紙半紙)

受月日		告發又ハ告訴人ノ姓名		所住ノ氏名		犯罪ノ場所及ノ月日時		犯罪ノ種類		適用ノ法律及ノ其條項		刑名及ノ金額		無罪免及ノ理由		即決及ノ月日		對審及ノ月日		再犯及ノ區別	
明治 年 月 日																					
主任官		被告人		本籍住		職業氏		名年齢		後渡行		分處ノ他		考							
										拘留		科刑		換日		月日		日		執行	

記載例

一 告訴告發アリタルトキハ其處分ノ如何ヲ間ハス總テ登錄スルモノトス

二 數人共犯ノ場合ハ一名毎ニ用紙ヲ異ニシ記載スルモノトス

- 三 數罪俱發ノ場合ハ同一ノ用紙中各欄毎ニ區別記入スルモノトス
- 四 番號ハ左ノ例ニ依リ記入スルモノトス
 - 一 數人共犯ノ場合ハ同一番號ヲ用ヒ第何號ノ一第何號ノ二ト記入ス
 - 二 數罪俱發ノ場合ハ二罪毎ニ其番號ヲ異ニシ自第何號至第何號ト記入ス
- 五 刑名及刑期金額又ハ無罪免訴等ノ欄ニハ尙ホ左ノ事項ヲモ記入スルモノトス
 - 一 無罪又ハ免訴ノトキハ其事由
 - 二 時効ノ成就シタル場合又ハ刑ノ期滿免除ヲ得タルトキハ其事實
- 六 言渡後ノ處分欄ニハ左ノ事項ヲ記入スルモノトス
 - 一 科料ヲ納入シタルトキハ納入月日ノ下ニ會計主任認印ヲ領收シ證スヘシ
 - 二 執行ヲ他署ニ囑託シタルトキハ何月何日執行方向署ニ囑託スルト記入スヘシ
 - 三 正式裁判ヲ請求シタルトキハ何月何日正式裁判ヲ請求シタルニ付何月何日一件書類ヲ何區裁判所檢事ニ交付スルト記入スヘシ
 - 四 假納金ヲ命シタルトキハ金圓納付又ハ留置等其額未ヲ記入シ其金圓納付ニ係ルトキハ會計主任認印スヘシ
 - 五 保證金ヲ命シタルトキ亦前項ニ同シ
 - 六 沒收ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其物品、數量等ヲ記入スヘシ
 - 七 他署ヨリ執行囑託ニ係ルトキモ亦記入シ得ヘキ限リ前各項ニ準シ記入ス

- 七 備考欄ニハ左ノ事項ヲ記入スルモノトス
 - 一 證人鑑定人通事ヲ要シタルトキハ其事實
 - 二 他署ヨリ執行囑託ニ係ルトキハ何月何日何署ヨリ執行囑託ト記入ス
 - 三 正式裁判ノ結果
 - 四 協判命令ノ後科料金ヲ納入シタルトキハ其事實
 - 五 引致シタルトキハ其事由
 - 六 以上各項ノ外必要ノ事項

○湯屋營業取締規則ノ件

縣令第三三號 (明治二十一年四月)

- 第一條 湯屋營業トハ洗湯、藥湯又ハ鑛泉中ノ固形物或ハ幾分ノ鑛泉ヲ混合シ又ハ藥物ヲ加ヘ若クハ海水ヲ汲取等總テ浴場ヲ開設シテ人ヲ入浴セシメ營業トスルモノヲ云フ
- 第二條 湯屋ヲ新設シ又ハ讓受ケ營業セントスルモノハ族籍住所氏名年齢及其種類ヲ記シタル書面ニ構造ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クハシ其構造ヲ變更増減セントスルトキハ圖面ヲ以テ届出認可ヲ受クヘシ但藥湯營業ヲ爲サントスル者ハ賣藥規則第二條又ハ第五條ニ依リ免許鑑札ヲ受ケ其寫ヲ本條ノ願書ニ添付スヘシ
- 第三條 湯屋ノ構造及備付品ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 湯室及浴場ハ男女ヲ區別シ双方ハ勿論屋外ヨリ見透カサ、ル様見隠ヲ設クル事
 - 二 脱衣場ハ男女ヲ區別シ衣類及携帶品ヲ入ルヘキ戸柵又ハ容器ヲ備フル事
 - 三 火焚場及天井裏(火焚場ノ天)ハ石、煉瓦石、漆喰塗又ハ不燃質物ヲ用ヒ堅牢ニ築造スル事
 - 四 灰溜場ハ地中ニ設ケ又ハ不燃質物ヲ用ヒ且ツ同質ノ蓋ヲ設クル事
 - 五 薪置場ハ火焚口ヨリ六尺以上ノ距離ヲ有スル事 但其間障壁アルモノハ本項ノ限リニアラス
 - 六 掛リ湯ヲ設ケ男女各十個以上ノ汲桶ヲ備フル事
 - 第四條 第二條ニ依リ免許又ハ認可ヲ得タル時ハ六十日以内ニ新造又ハ改造ニ着手シ落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出検査ヲ受クヘシ 但其検査ヲ受ケザル時ハ湯屋營業ヲ爲スコトヲ得ス
 - 第五條 前條ノ場合ニ於テ實地検査ノ上危険若クハ公害アリト認めタルトキハ其全部又ハ幾分ヲ改造セシムルコトアルヘシ
 - 第六條 改氏名又ハ營業免許ノ指令書ヲ紛失シタル等ノゴトアルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ 但廢業ヲタルトキモ亦同シ
 - 第七條 藥湯營業者ニシテ賣藥規則第四條第八條ニ依リ鑑札ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
 - 第八條 賣藥營業者ニシテ賣藥ヲ廢業シ若クハ發賣ヲ禁セラレタルトキハ更ニ免許ヲ得ルニアラサレハ藥湯營業ヲナスコトヲ得ス

第九條 營業時間ハ午前第四時ヨリ午後十二時迄トス 但烈風ノ節ハ時間ニ拘

ハラス停業スヘシ

第十條 洗湯ハ毎日交換シ不潔ノモノヲ撤置クヘカラス

第十一條 浴場ハ勿論其場ニ備フル器物ハ總テ清潔ニ掃除スヘシ

第十二條 火焚場及天井裏(火焚場ノ天)ハ毎月一回以上掃除スヘシ

第十三條 浴場火焚場及湯壺等ニ破損ヲ生シタルトキハ速ニ修理スヘシ

第十四條 浴場ニ於テ喧嘩又ハ不潔ノ所爲アラシムヘカラス

第十五條 削除

第十六條 藥湯ハ藥種、浴法、及効能ヲ浴客ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十七條 浴客ノ衣類及携帶品ハ紛失セサル様注意シ遺留品等アリテ持主分明

ナラサルモノハ該品相添ヘ所轄警察署分署又ハ派出所ニ届出ヘシ

第十八條 換易品アリテ換易者分明ナラサル時ハ被換者ト共ニ前條ニ準シ届出

ツヘシ

第十九條 第二條第四條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ

二十錢以上卅圓三十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十條 第六條第七條ニ違背シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 第九條第十條第十一條第十二條第十三條ニ違背シテ制止ヲ背セス

又ハ督促ニ從ハサル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第二十二條 第十七條ニ違背シタルモノハ刑法ノ刑ニ處セラルヘシ其他第十二

條第十三條ニ掲ケタル條項中ノ所爲ニシテ刑法ニ明文アルモノ又同シ

附 則

一 本則第三條第二項第三項第四項第五項第六項ハ街路取締規則第一條ニ掲ケ

タル市街ノ外當分ノ内實施セス

二 現在ノ營業者ニシテ本則第三條第二項以下ニ觸ル、モノハ本則施行ノ日迄

ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ得テ明治二十一年十二月三十一日迄新

造又ハ改造ヲ猶豫ス

三 現在ノ營業者ハ本則施行ノ日迄ニ第二條ノ手續ニ準シ從前免許ノ證左ヲ添

ヘ所轄警察署又ハ分署ニ届出免許證ヲ受クヘシ

○射的場設置願ノ件

縣令第五六號 (明治三十年六月)

射的場ヲ設置セントスルモノハ其名稱、位置、圖面、構造仕法、近傍地圖及射

的ニ關スル規程ヲ詳記、所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ 但

從前ノ設置ニ係ルモノハ本令ニ依リ更ニ願出ヘシ

○射的場設置願ニ係ル精査事項ノ件

警本訓示第五二號 (明治三十年六月)

本年本縣令第五十六號ニ依リ射的場設置ヲ願出テタルトキハ左ノ事項ヲ精査シ

意見ヲ付シ進達スヘシ

精査スヘキ事項

一 頭書中軍用銃射的免許銃射的ノ區別アルヤ否

一 規程書ハ左ノ事項ヲ具備セルヤ否

- 一 射的場一切之責任者ニ關スルコト
 - 二 彈藥ノ裝填及照準、發射ノ監視及銃器ノ檢査ニ關スルコト
 - 三 發射ニ熟達セサル者ノ射的距離(百メートル)以內ニ限ルニ關スルコト
 - 四 陪射者及癩癩白痴者ト認ムル者ノ入場禁止ニ關スルコト
 - 五 發射時限(日出ヨリ日没マデニ限)ニ關スルコト
 - 六 射的開會ノ日時ヲ所轄警察官署ニ届出ニ關スルコト
- 一 射的場ノ構造ハ明治十七年警保局長通牒射的場取締標準第六項以下ニ大概準據マアルヤ否
- 一 設置場所借地ナルトキハ地主ノ連書又ハ承諾書若シ官地ナルトキハ其許可書ノ寫添付シアルヤ否
- (訓示第五二號參照)
- 明治十七年九月十九日警保局長通牒射的場取締標準
- (第一ヨリ第五マテ略之)
- 第六 射的場ノ構造ハ的阜ノ後ロ千五百メートル、兩側五百メートルノ空地ヲ設ケ置クヘシ若シ其餘地ナキ時ハ覆道又ハ射場前十五メートルノ所ヨリ的阜前二十五メートルノ間ニ於テ十メートル毎ニ射門建設スヘシ但天然ノ丘阜ニ據テ的阜ヲ築キ背後左右人家及道路遠隔ノ場所ハ此限リニアラス
- 第七 的阜ノ構造ハ第一圖ノ如クスヘシト雖トモ標的ニ個以上ヲ用フルモノハ其ニ個毎ニ的阜幅二十四尺ヲ伸長スルモノトス但免許銃射的ニ用フル的阜ハ其他ノ狀況ニ依リ縱横各三尺乃至六尺ヲ減縮スルコトヲ得

- 第八 的阜ノ四面傾斜高度ハ概ネ四十五度ヲ法トス尤土性殊ニ粘膠質ナルモノハ側面ノ傾斜ヲ四十四度乃至四十三度ニ減縮スルコトヲ得
 - 第九 的阜築造用ノ土性脆軟質ナルトキハ其中眞ニ土俵ヲ積ミ若クハ亂杭ヲ立列シテ崩壞ヲ防クヘシ
 - 第十 射門ノ構造ハ第二圖ノ如ク長サ一尺五寸ノ木材ヲ累積シ衝擊毀壞ヲ防ク爲メ釘又ハ鐵ノ類ヲ以テ所貫鐵スヘシ
 - 第十一 標的ニ個以上ヲ用フル射門ハ第三圖ノ如ク其ニ個毎ニ之ヲ連設スヘシ(附圖ハ略之 但明治二十六年警保局長編纂警察法規ニ詳ナリ)
- 森林法中取扱手續ノ件
- 警本訓示第八號 (明治三十一年一月)
- 第一 森林法第三十一條ノ記號又ハ印章ヲ同法施行細則第十條ニ依リ届出タルトキハ該届書ニ添附シタル記號印章ト同一ノモノヲ差出サシメ之ヲ添ヘ所管小林區署ニ通知ス可シ
 - 第二 同條第二項ノ處分ヲ爲マタルトキハ其事實ヲ警部長ニ申報スヘシ
 - 第三 森林法第三十三條ノ出願及ヒ第三十六條中犯罪ニアラサル事故ノ申告アリタルトキハ國有林以外ノ森林ニ係ルモノヲ主トシテ處理スヘシ 但國有林ニ係ルモノニシテ出願又ハ申告ヲ受タルトキハ便宜森林官吏ニ移牒ス可シ
- 官林盜伐ノ竹木處分方ノ件
- 警乙第二三八號 (明治二十四年五月)

官林盜伐事件ニ付現在ニル竹木處分ノ儀ハ固ヨリ其事件ノ裁判確定スルニアラサレハ處分ハ能ハサルハ勿論之儀ニ候得共自今被告之誰タルヲ知ルト否トニ拘ハラヌ明治二十三年二月令達甲第八號達ニ照據セス管轄小林區署又ハ派出所長ヘ假下渡等ノ處分ヲ爲スコトヲ得

○官林盜伐事件通報方ノ件

警本訓示第九號 (明治二十七年一月)

官林盜伐事件ニシテ大林區署ニ於テ被害者之位置ニ立ツ場合ニアツテハ加害者ニ對シ刑事ニ附帶シ損害賠償ノ私訴ヲ提起スル趣ヲ以テ通知方大林區署長照會ノ次第モ有之候條自今官林ニ關スル犯罪事件ヲ檢事ヘ送致ノ節ハ同時ニ所轄小林區署ヘ通知セラルヘシ

○消防組施行細則ノ件

縣令第四十三號 (明治三十一年四月)

明治二十七年(五月)縣令第四十八號消防組規則施行細則左ノ通改正ス

消防組施行細則

第二章 組織

第一條 消防組ノ新設、分合及其廢止ハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第二條 町村長ニ於テ消防組ノ設置又ハ變更ヲ必要ト認メタルトキハ町村會ノ決議ヲ具シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經由シ知事ニ申請スヘシ

第三條 前條ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ具備シタル書面ヲ添付スヘシ

一 設置スヘキ町村ノ戶數及其組織區域

二 組員ノ總數及其配當

三 設備器具ノ名稱、員數、建物ノ種類並其場所

四 給與品ノ種類

五 諸手當金額

第四條 消防組ノ名稱ハ其所在ノ町村名ヲ附スヘシ 但部ノ名稱ハ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第五條 消防組ハ左ノ人員ヲ以テ編成ス 但部ヲ分置シタルトキハ各部ニ部長一人ヲ置キ小頭ヲ以テ之ニ充ツ

一 組 頭 一人

二 小 頭 消防手十人乃至三十人毎ニ一人

三 消防手 組ニ於テハ三十人以上部ニ於テハ二十五人以上トス

第二章 命 免

第六條 組頭ハ警部長、小頭ハ警察署長又ハ警察分署長之ヲ命免ス

組頭、小頭ハ消防手ノ中ヨリ撰拔スヘシ

第七條 消防手ハ其土地ニ在住シ年滿十八年以上ニシテ一定ノ職業ヲ有シ身體強壯、品行方正ナルモノヲ撰拔スヘシ

左ニ掲グルモノハ消防手ト爲スコトヲ得ス

一 公權褫奪若クハ停止中ノ者

二 禁治産中ノ者
 三 懲戒處分ニ依リ消防手ノ職務ヲ免セラレ滿一ケ年ヲ經過セサル者
 第八條 警察署長又ハ警察分署長ハ必要ニ依リ小頭消防手ニ啣筒係、齋口係又ハ信號其他ノ擔當者ヲ命スヘシ

第九條 消防組員疾病其他ノ事故ニ依リ辭職セントスルトキハ組頭ハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經由シ警部長ニ小頭ハ組頭、消防手ハ小頭、組頭ヲ經由シ警察署長又ハ警察分署長ニ願出ヘシ
 組頭ハ部下ノ願屈ニ副書スヘシ

第三章 簿冊及器具、被服

第十條 消防組ニハ左ノ簿冊ヲ備置クヘシ

- 一 組員名簿
- 二 組員ノ住所、氏名、年齢、役名、係名、及命免年月日等記載ス
- 三 器具建物臺帳
- 四 器具ノ名稱、員數、新調年月日、建物ノ名稱、位置、建設年月日等ヲ記載ス
- 五 被服臺帳
- 六 被服ノ品目、箇數、給與年月日、保存期限等ヲ記載ス
- 七 行動錄
- 八 組員ノ行動其他記録ヲ要スル事項ヲ記載ス

第十一條 消防組若クハ部ニハ左ノ器具ヲ設備スヘシ 但刺又及麻繩ハ之ヲ備

ヘサルモ妨ナシ
 一 啣筒又ハ龍吐水ノ類 二 水桶類 三 梯子 四 齋口 五 刺又 六 繩又ハ旗
 七 喇叭 八 提灯 九 麻繩
 十 地ノ狀況ニ依リ前各項各號ノ外必要ナル器具ヲ設備スルコトヲ得
 水災警防ノ事務ヲ兼テシムル必要アル消防組若クハ部ニハ水防ニ要スル器具ヲ設備スヘシ
 第十二條 消防器具ヲ使用シタルトキハ勿論期限ヲ定メ洗滌拭淨其他ノ手入ヲ爲スヘシ
 第十三條 消防組ニハ巡查駐在所其他便宜ノ場所ニ器具備置場及火見梯子（警鐘其他ノ信號器付）ヲ設置スヘシ
 前項建物ノ位置ハ警察署長又ハ警察分署長之ヲ指定スヘシ
 第十四條 消防器具ヲ毀損シ失シタルトキ又ハ器具備置場其他ノ破損アリタルトキハ組頭ニ於テ所轄警察署長又ハ警察分署長及町村長ニ報告スヘシ
 第十五條 繩、旗及提灯ノ種類並徽章ヲ定ムルコト左ノ如シ

繩、旗及提灯徽章表

繩		組		部		組		頭		小		頭		消防手	
馬繩	同	馬繩	同	馬繩	同	馬繩	同	馬繩	同	馬繩	同	馬繩	同	馬繩	同
一寸五分赤線三條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線三條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線三條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線三條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線三條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線三條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線三條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線三條	一寸五分赤線一條
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條	一寸五分赤線一條

旗		提灯		馬		提灯		細長		提灯	
寸法	文字	線	組	線	組	線	組	線	組	線	組
一尺七寸 二尺七寸	組名及部名	一尺七寸 二尺七寸	組名及部名	五分赤線三條 但黑線三條	同	五分赤線三條 但黑線三條	同	五分赤線一條 但黑線一條	五分赤線一條 但黑線一條	五分赤線一條 但黑線一條	五分赤線一條 但黑線一條
一尺七寸 二尺七寸	組名及部名	一尺七寸 二尺七寸	組名及部名	五分赤線三條 但黑線三條	同	五分赤線三條 但黑線三條	同	五分赤線一條 但黑線一條	五分赤線一條 但黑線一條	五分赤線一條 但黑線一條	五分赤線一條 但黑線一條

第十六條 消防組員ニハ左ノ被服ヲ給與スヘシ 但其保存期限ハ當該町村之ヲ定ムヘシ
 當該町村ハ知事ノ認可ヲ受テ被服ノ種類ヲ増減スルコトヲ得
 一頭巾 壹個 二法被 壹枚

三股引 壹脚 四三尺帶 壹筋
 五足袋 壹足

第十七條 被服ハ消防組員各自ニ保存ノ義務アルモノトス
 第十八條 消防組員ノ服章ヲ定ムルコト左ノ如シ 但組頭ハ所轄警察署長又ハ警察分署長ノ認可ヲ受テ第十六條ノ被服ノ種類及此服章ニ依ラサル便宜ノ服裝ヲ爲スコトヲ得

消防組員服章表

種目	役	名	組	頭	小頭	頭	消防手
巾	巾	赤線	一寸五分線一條	一寸五分線一條	一寸五分線一條	一寸五分線一條	一寸五分線一條
法被	襟章	白字	一寸五分線一條	一寸五分線一條	一寸五分線一條	一寸五分線一條	一寸五分線一條
股引	腰章	白線	一寸五分線二條	一寸五分線二條	一寸五分線二條	一寸五分線二條	一寸五分線二條

第十九條 町村長ハ消防器具、建物及被服ノ設備若クハ修理ノ責ニ任シ且備品消耗品ヲ處辨スヘシ

第四章 信號

第二十條 水火災ノ信號ハ火見梯子ニ於テ警鐘其他ヲ打ツモノトス
 火災ノ信號ハ左ノ區別ニ依ル

死傷手當ハ左ノ區別ニ依リ職務ノ爲メニ死傷シタルモノニ之ヲ支給ス 但傷
病者ニシテ就業ニ能ハサルコト二日以上ニ及フトキハ生計ノ狀況ニ依リ療治
料ノ外食料ヲ支給スルコトヲ得

- 一 傷 療 治 料
- 二 癩 疾 扶 助 料
- 三 死 亡 弔 祭 料
- 四 遺 族 扶 助 料

死傷手當ノ給與金額ハ其都度知事ノ指揮ヲ受ケ所轄警察署長又ハ警察分署長
之考定ム

第三十條 町村長ニ於テ諸手當ノ給與ヲ變更スルノ必要ヲ認メタルトキハ町村
會ノ決議ヲ具シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經由シ知事ニ申請スヘシ

第七章 規 律

第三十一條 消防組員ハ左ノ規律ヲ遵守スヘシ

- 一 警察官、町村長、組頭、小頭ノ指揮命令ニ服従スルコト
- 二 出方ノ信號アルトキハ速ニ之ニ應ズルヲ得ヘキ準備アルコト
- 三 水火災警防ノ爲メニアラスシテ警察官ノ指揮ヲ待タズ集合セサルコト
- 四 警察官ノ指揮ナク建造物ヲ破壊セサルコト
- 五 他人ニ對シ粗暴ノ舉動、強迫ケ間敷所爲ナキコト
- 六 警察官ノ許可ヲ得ズシテ金員、物品、飲食物ヲ受納シ又ハ消防組ノ名義
ヲ以テ金員、物品ヲ贈與シ寄附金ヲ募集シ及義務ヲ約束セサルコト
- 七 災害現場ニ於テ飲酒セサルコト
- 八 互ニ相排擠シ其他組員ノ親和ヲ害スル行動ナキコト

九 被服其他ノ物品ハ叮嚀ニ保存シ職務ノ外使用セサルコト

第八章 賞 與 及 懲 戒

第三十二條 消防組員ニシテ其職務上拔群ノ功績又ハ勤勞アルモノニハ左ノ區
別ニ依リ賞與ス

- 一 賞 詞
- 二 金 圓

賞與金額ハ三圓以下トス

第三十三條 消防組員ノ懲戒ハ左ノ規定ニ據ル

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其職ヲ免ス
- 二 本則第三十一條ニ違背シ又ハ職務怠慢ノ行爲アリタルトキハ情狀ノ輕重
ニ依リ免職又ハ一年以内ノ停職又ハ三ヶ月以内ノ停給若クハ譴責ニ處ス
- 第三十四條 組頭、小頭ノ懲戒ハ警部長、消防手ノ懲戒ハ警察署長又ハ警察分
署長之ヲ行フ

附 則

一 本則ハ從來設置セル消防組ノ組織、器具、建物及被服、手當等ニ變更ヲ及
ホサス

消防組規則施行細則取扱手續ノ件

警本訓示第五二號 (明治三十一年五月)

明治二十七年(七月)訓示第一四九號消防組規則施行細則取扱手續左ノ通改正ス
消防組規則施行細則取扱手續

第一條 消防組ノ設置又ハ變更ノ必要ヲ認メタルトキハ町村長ニ移牒シ町村會ノ決議ヲ具シ知事ニ上申スヘシ

前項ノ上申書ニハ細則第三條ノ各自項ヲ具備シタル書面ヲ添付スヘシ

第二條 細則第二條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ具シ速ニ進達スヘシ

第三條 消防組若クハ部ヲ廢止スルノ必要ヲ認メタルトキハ其理由ヲ具シ知事ニ上申スヘシ

第四條 組頭ニ欲員ヲ生シタルトキハ任務ニ堪ユル材幹アリト認ムルモノヲ撰拔シ左ノ事項ヲ取調ヘ警部長ニ上申スヘシ

一 履 歷

二 資 産

三 性質素行及年齡

第五條 小頭以下命免ノ辭令ハ左ノ例ニ依ル

一 小頭ハ第一號書式

二 消防手ハ第二號書式

三 部長ハ第三號書式

消防手ニ對スル辭令ハ便宜組頭ヲシテ傳達セムルコトヲ得

第六條 組頭ノ辭職願ヲ受理シタルトキハ理由ヲ取調ヘ進達スヘシ

第七條 消防組員ノ命免ハ所屬町村長ニ通知スヘシ

第八條 警察署又ハ警察分署ニハ左ノ帳簿ヲ備付スヘシ

一 組員名簿

(第四書式)

二 賞罰臺帳

(第五書式)

三 器具建物臺帳

(第六書式)

第九條 消防組ニ備置スヘキ組員名簿ハ第四號書式、器具建物臺帳ハ第六號書式、被服臺帳ハ第七號書式ニ準據セムヘシ 但器具建物臺帳ニ竈口、細長提灯等ニシテ豫メ組員ニ交付シ置クモノハ便宜之ヲ記載シタル帳簿ヲ添附セシムヘシ

第十條 從來設備セル消防器具ノ種類及員數等ニ増減變更ノ必要ヲ認メタルトキハ町村長ニ移牒シ町村會ノ決議ヲ具シ知事ニ上申スヘシ

第十一條 細則第十二條ニ依ル消防器具ノ手入ハ一月一回以上トシ其期日ヲ定メシムヘシ

第十二條 細則第十三條ニ依リ器具備置場及火見梯子ノ位置ヲ指定シタルトキハ所轄町村長ニ通知スヘシ

第十三條 細則第十八條ニ依リ服章ニ依ラサル服裝ノ認可ヲ申請シタルトキハ消防上便利ニシテ且見苦シカラサルモノニ限リ認可スヘシ

第十四條 細則第二十三條ニ依リ應援區域ノ認可ヲ申請シタルトキハ舊慣及必要ノ程度ヲ斟酌シ認可スヘシ

第十五條 削除

第十六條 水火災警防、演習其他勤務ニ服シタル人員ハ其都度所屬町村長ニ通知スヘシ 但手當ヲ給與セサル消防組ハ此限リニアラス

第十七條 削除

第十八條 演習ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ行フ

- 一 進退、集散、運動ノ方法
- 二 器具ノ裝置及運用ノ方法

第十九條 演習ハ成ルヘク組員ノ業務ヲ妨ケサル様便宜ノ期日ヲ選ヒ之ヲ行フ

點檢又ハ演習ヲ行ハントスルトキハ七日前ニ組名、期日及場所ヲ警部長ニ申報スヘシ

第二十條 演習等ノ爲メ消防組ヲ召集スルトキハ其都度所屬町村長ニ通知スヘシ

第二十一條 演習及點檢ノ狀況及其成績ハ其都度警部長ニ申報スヘシ 但災時ニ於ケル點檢ハ此限ニアラス

第二十二條 削除

第二十三條 月手當、出場手當、巡邏手當ノ變更ヲ必要ト認メタルトキハ町村長ニ移牒シ町村會ノ決議ヲ具シ知事ニ上申スヘシ

從來給與セル手當ヲ廢シ若クハ新ニ手當ヲ給與スルノ必要ト認メタルトキ亦同シ

第二十四條 細則第二十九條ニ依リ死傷手當給與金額ノ指揮申請書ニハ左ノ事項ヲ具備スルヲ要ス

- 一 死傷顛末

二 給與金額及其内詳

三 醫師ノ診斷書又ハ檢案書並ニ診察料、手術料、藥價等ニ關スル領收證

四 食料ヲ給スルトキハ其生計ノ狀況

五 給與金額ニ對スル町村長ノ意見

第二十五條 死傷手當ノ給與額ハ概テ左ノ標準ニ依リ調査スヘシ

- 一 傷療治料ハ診察料、手術料並藥價等ノ實費
- 二 廢疾扶助料ハ十圓以上百圓以下
- 三 死亡弔祭料ハ十圓以上二十圓以下
- 四 遺族扶助料ハ五十圓以上百圓以下
- 五 食料ハ一日ニ付一回ノ出場手當額又ハ三十錢以下

第二十六條 細則第十條第六項ノ許可ヲ申請シタルトキハ其事實ヲ取調ヘ弊害ナシト認ムルモノニ限り許可スヘシ

前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ其事實ヲ具シ警部長ニ申報スヘシ

第二十七條 細則第三十二條ノ功績又ハ勤勞アルモノヲ認メタルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ上申スヘシ

- 一 功績又ハ勤勞ノ事蹟
- 二 賞罰ノ有無
- 三 罹災者トノ關係
- 四 平素ノ勤惰其他參考トナルヘキ事實

金員賞與アリタルトキハ辭令ノ添本ヲ添ヘ所屬町村長ニ通牒スヘシ

第二十八條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ其實ヲ具シ知事ニ上申スベシ

第二十九條 組頭、小頭懲戒ニ付スヘキ怠慢又ハ行爲アリタルトキハ平素ノ勤惰其他處分上參考トナルヘキ事實ヲ具シ警部長ニ上申スベシ 但上申書ニハ成ルヘク本人ノ手續書ヲ添付スベシ

消防手ヲ懲戒ニ付スルトキハ本人ノ手續書又ハ組頭、小頭ノ上申書ヲ徵シ事實取調、第八號書式ニ依リ相當處分スベシ 但此場合ニ於テハ事實ヲ具シ警部長ニ申報スベシ

第三十條 消防組員ニシテ停職又ハ停給ニ處シタルトキハ所屬町村長ニ知通スベシ

但手當ヲ給與セザルモノノ停職ニ係ハルトキハ此限リニアラス

第三十一條 組頭交迭ノ場合ニ於テハ目錄ヲ作り現品ト照合シ引渡シ爲サシムベシ

引繼結了シタルトキハ新舊組頭連署ノ上報告セシムベシ

前項ノ報告アリタルトキハ報告書ヲ添付シ所屬町村長ニ通知スベシ

第一號

何組消防手(小頭)

氏名

用紙中奉

式書 (依願小頭ヲ免ス)

年月日

何警察(分)署

書四切

用紙奉書又ハ鳥子

(何組消防手)

氏名

察凡七寸二分

横凡二寸七分

第二號書式

表裏面

何消防手ヲ命ス

(依願職務ヲ免ス「職務ヲ免ス」)

(第何部附屬)

署印

第三號書式

用紙奉書

何消防組第何部長ヲ命ス(解ク)

何組小頭

氏名

察凡七寸二分

横凡二寸七分

何警察(分)署長
官 氏 名 印

年 月 日

(免職ノ辭令ハ第二號書式ニ依ル)

○消防事務處辨方ノ件

訓令第三一號 (明治二十七年五月)

町村長ハ所轄警察署長又ハ警察分署長ノ通牒ニ依リ消防組ニ關スル左ノ事項ヲ處辨スヘシ

- 一 家屋並火ノ見梯子ノ建築修繕ニ關スル事
- 二 消防器具ノ新調又ハ修繕ニ關スル事
- 三 被服其他諸手當ノ給與ニ關スル事
- 四 備品、消耗品ニ關スル事

○消防組ニ關シ町村長要求ノ件

訓令甲第三二號 (明治二十七年五月)

町村長ハ左ノ事項ヲ所轄警察官署ニ要求スルコトヲ得

- 一 水火災警戒ノ爲メ必要ト認メタルトキハ消防組員ヲテ巡邏セシムルコト
- 二 水火災ノ狀況ニ依リ他ノ消防組ノ應援又ハ消防區域外ニ出場セシムルコト

○私設消防組不許可ノ件

訓令丁第一二九號 (明治二十七年七月)

今般消防組規則ニ依リ組織シタル消防組ノ外私設消防組ノ設置ヲ許サス。但一私人若シクハ一私立會社ニシテ自衛ノ爲メ消防器具ヲ設備スルハ消防組ノ設置ヲ以テ論スル限リニ非ス

○隣保交互夜警ノ件

訓令丁第一三〇號 (明治二十七年七月)

水火災警防ノ爲メ消防組員ヲテ巡邏セシムルハ消防組規則施行細則ノ規定スル處ナリト雖モ町村ノ舊慣ニ依リ人民ニ於テ隣保交互夜警スル如キハ施行細則ノ規定ノ範圍外ト心得ヘシ

○唧筒龍吐水保存方ノ件

警本訓示第四〇號 (明治二十九年二月)

唧筒龍吐水ノ類ハ左ノ方法ニ依リ消防組員ヲテ保存セシメ苟モ腐蝕破損ヲ來シ其効力ヲ減殺シ使用期限ヲ短縮スル等ノ事無之様注意スヘシ

- 一 唧筒又ハ龍吐水ノ類ハ適當ノ覆ヲ設ケルコト
 - 二 凡ソ一ヶ月一回機關ノ塵埃ヲ拭淨シ其他諸般ノ手入ヲ爲ス方法ヲ設ケ機關及附屬品等ノ損傷ヲ防クコト
 - 三 使用ノ後ハ機關ノ拭淨水管ノ洗滌乾燥等ニ注意セシムルコト
- 唧筒龍吐水拭淨手當給與方ノ件

伊達警察署伺 (明治二十九年二月)

本月十八日警察報第千三百三十九號訓示第四〇四號ヲ以テ唧筒龍吐水等ノ拭淨方ノ儀ニ付御訓示相成候處右ハ即チ消防組員カ各自ノ營業時間ヲ費ス義ニ付テハ拭淨ニ從事セル日ハ出場ニ準シ手當金給與ノ義取計可然哉仰御指揮候也 (警部長指令)

本年二月二十四日上申消防組員手當給與ノ件 唧筒龍吐水ノ類等拭淨ニ從事セシメタルトキハ消防組規則施行ノ細則第三十二條ニ依リ出場手當ヲ給與スヘキ義ト心得ヘシ 但手當給與指定ノ消防組ニ限ル

○消防組頭及小頭處刑上申方ノ件

保第六七五號 (明治二十九年四月)

消防組組頭又ハ小頭ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ宣罰ノ義上申相成候際ハ該裁判ノ確定シタルヤ否ヤヲ精査シ該裁判ノ確定シタル後上申相成候致度此段及通牒候也

○消防上ノ設備及訓練ニ關スル件

訓示第八四號 (明治二十二年十一月二十九日)

近來各地ニ火災頻リニ有之候處其害ヤ獨リ罹災者ノ不幸ニ止マラズ施テ町村ノ消長ニモ至大ノ關係ヲ及スヘキヲ以テ之レカ豫防上ニ付テハ充分注意ヲ加フヘキハ勿論ナリト雖トモ從來大火ニ至リタル原因中ニ消防方法ノ不充分ナルコト

モ其一ニアルハク又電燈電話線等ニ對スル消防上ノ取扱慣熟セサル爲メ要急ノ場合ニ却テ防火ノ手邊ヲ來シ火勢ヲ益々猛烈ニ至ラシメ若クハ電線ニ觸レ死傷者ヲ出ス等ノ例モ亦尠ナシトモ依テ此際消防組員ニ對シ後記ノ通り消防上ノ設備及訓練方ヲ督勵シ一般巡查ニハ可成時々消防ニ關スル演習ヲ爲サシメ出火アルニ方リ事機ヲ失スルカ如キコト之レナキ様篤ク注意スヘシ

後記

- 一 消防器具ハ時々點檢ヲ行ヒ虛飾ニ流レヌ務メテ實用ニ適セシムル事
- 二 消防組員ハ組頭小頭消防手等ノ分擔ヲ明ニシ規律ヲ嚴ニシ秩然タル節制ノ下ニ進退動作セシムル事
- 三 消防組員ハ時々演習ヲ行ヒ專ラ技術的ニ養成スル事
- 四 消防組員ニハ消防器具ノ取扱及唧筒吸送水管ノ接合等ヲ熟知セシメ置取扱粗漏ノ爲メ漏水ノ結果水壓ヲ減殺スル如キコトナカラシムル事
- 五 電燈線ト電信電話線ト混架セアル場所ハ組頭小頭ヲシテ其布設線路ノ系統位置ヲ記シタル圖面又ハ臺帳ノ類ヲ携帯セシメ猶非常ノ場合ニ於ケル電燈電火ノ原因送電絶電其他危險防止ニ關スル取扱上ノ要義ヲ消防組員ニ熟知セシメ置ク事

○警視廳消防署ニテ消防器具購入方ノ

依頼謝絶ニ關スル件

保第一四七號 (明治三十三年二月十四日)

(保安課長)

從來市町村消防用腕用唧筒ヲ東京市内製造人ヨリ購入ノ節其製造上ノ監督及成績試驗等ヲ警視廳消防署ヘ依頼ノ向有之候處該製造事業モ追々進歩シタルヲ以テ最早經驗アル工場ヲハ製造人ヘ寄托候ヘハ同署ノ監督及試驗ヲ要セサルヘク殊ニ同署モ近來事務繁多ニシテ監督上差支ナシル場合モ可有之ニ付自今腕用唧筒ニ對シテハ其依頼ニ應セサル旨同署ヨリ通牒ノ次第モ有之候條今後右依頼方申出候場合ニハ本書ニ依リ御取扱相成度爲御心得此段及通牒候也

○出火場取締規則ノ件

縣令第一三七號 (明治二十二年十二月)

- 第一條 凡テ出火アルトキハ其場所ノ二丁方位ヲ防火線ト定メ左ニ掲クル者ノ外濫リニ線内ニ立入ル可カラス。但線内ニアリタル車馬等ヲ線外ニ出ストキハ貨物ノ載否ニ拘ラス通行得ヘント雖モ鎮火後ニアラサレハ再ヒ線内ニ入ルヲ許サス
- 一 線内ニ家屋ヲ有スルカ又ハ居住スルモノ
- 二 同上ノ親屬知人ニシテ救護ヲ爲サントスルモノ
- 三 線内ノ官署又ハ町村役場ニ奉職スルモノ
- 四 公務ヲ帶フルモノ
- 五 醫師及産婆
- 六 消防夫
- 七 線内ノ社寺學校病院會社等ニ勤務スルモノ

八 左官職ニシテ其職業ヲ證明スルモノ

九 消防ニ助力セントスルモノ

第二條 前條第一項及第三項乃至第八項ニ相當スルモノヲ除クノ外線内ニ於テ警察官吏ノ命令ヲ受ケ退場セサルモノハ直ニ消防ニ從事セシムヘシ

第三條 消防夫ノ通路並ニ其器械又ハ家財ヲ運搬スルトキハ其進路ヲ妨障スヘカラス

第四條 消防ニ供スル水ヲ運搬スル爲メ必要ノ場合ニハ防火線外ト雖モ一般ノ通行ヲ遮斷スルコトアルヘシ

第五條 私有ノ井戸泉水及其他ノ用水ヲ消防ノ爲メ需用セントスルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第六條 線外ニシテ出火場ニ接續スル處ノ住居者ハ成ルルク門戸ニ點燈シ尙ホ戶外ニ水ヲ盛リタル桶樽等ヲ出シ自他ノ用ニ供スヘシ

第七條 本則第二條ニ依リ消防ニ從事スヘキ命令ヲ受ケ之ヲ肯セサル者ハ刑法第四百二十六條第二項ニ照シ處分スヘシ

○警察部消防組規則ノ件

應達第七五號 (明治二十六年十二月)

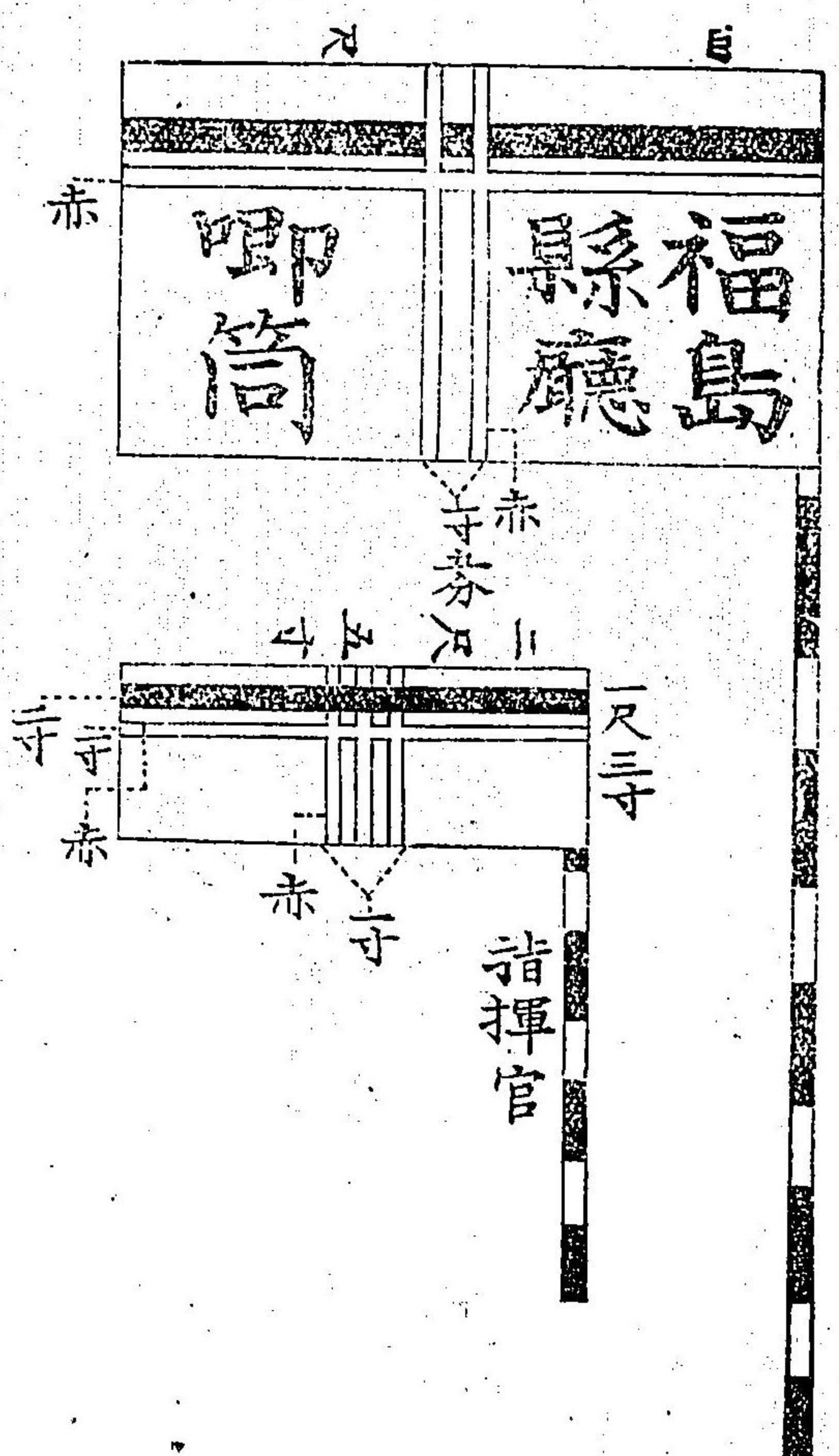
第一條 本廳及福島市街ニアル地方經濟中ノ屋舎火災防禦ノ爲メ警察部ニ唧筒消防組ヲ組織シ左ノ職員ヲ置ク。但組頭及消防夫ニハ年手當金ヲ給與ス。

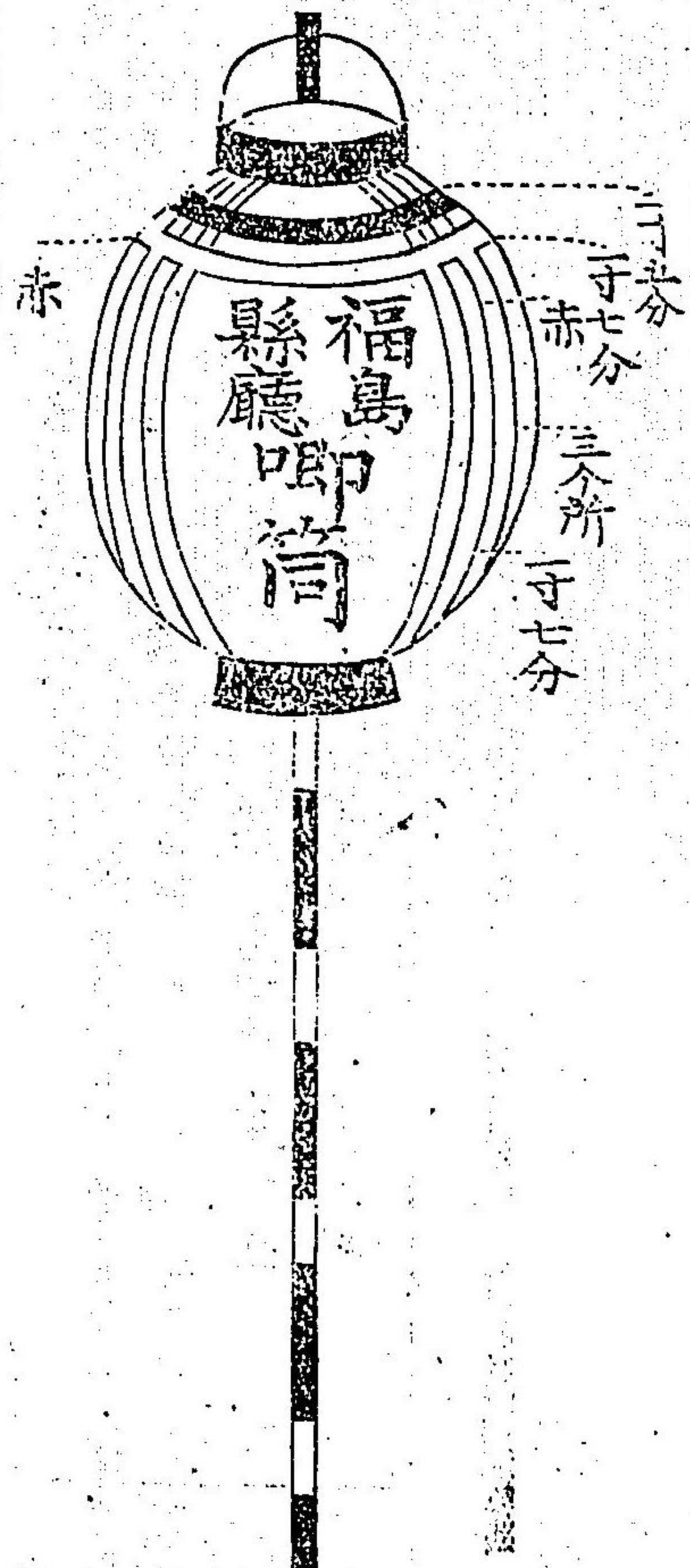
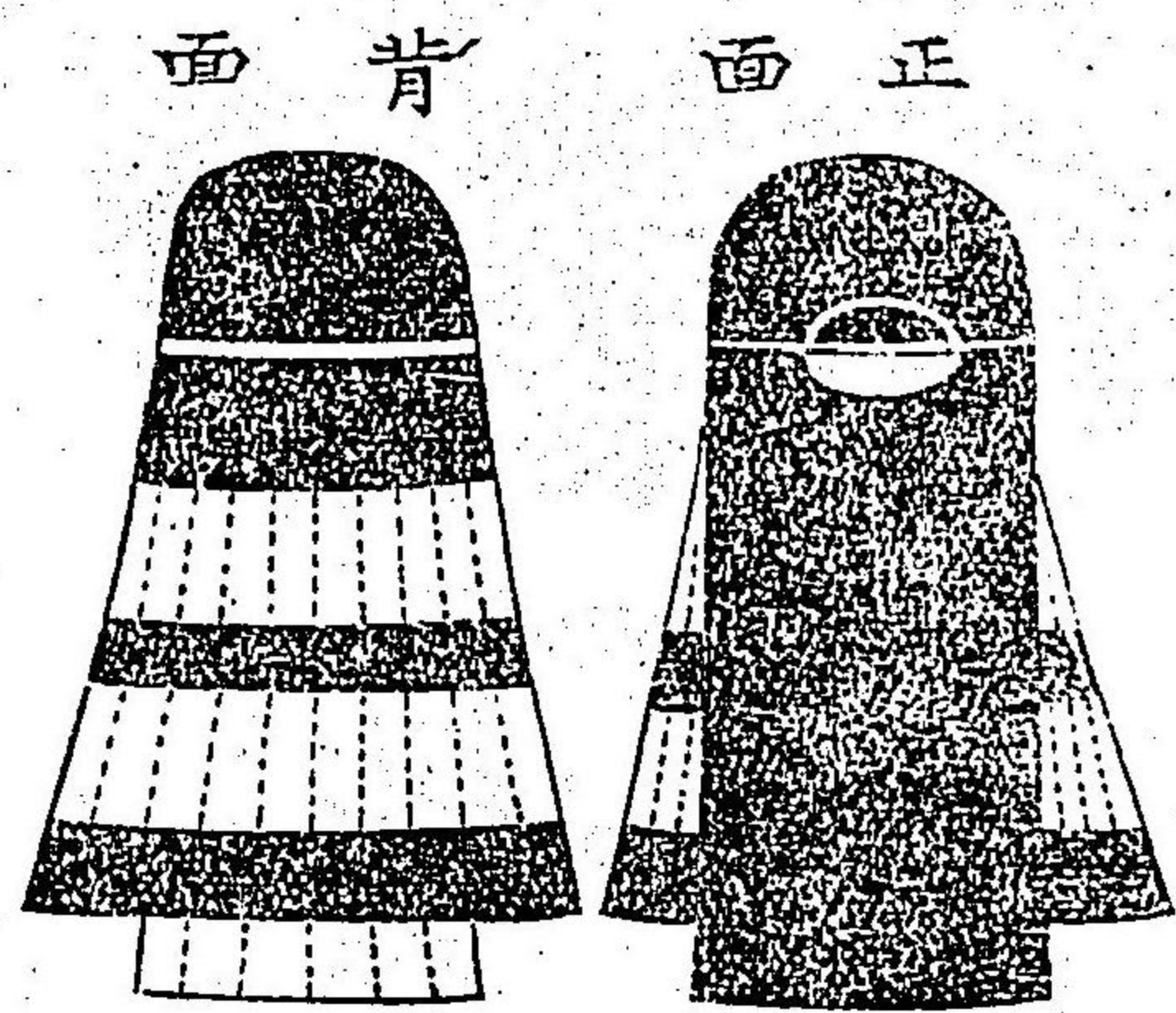
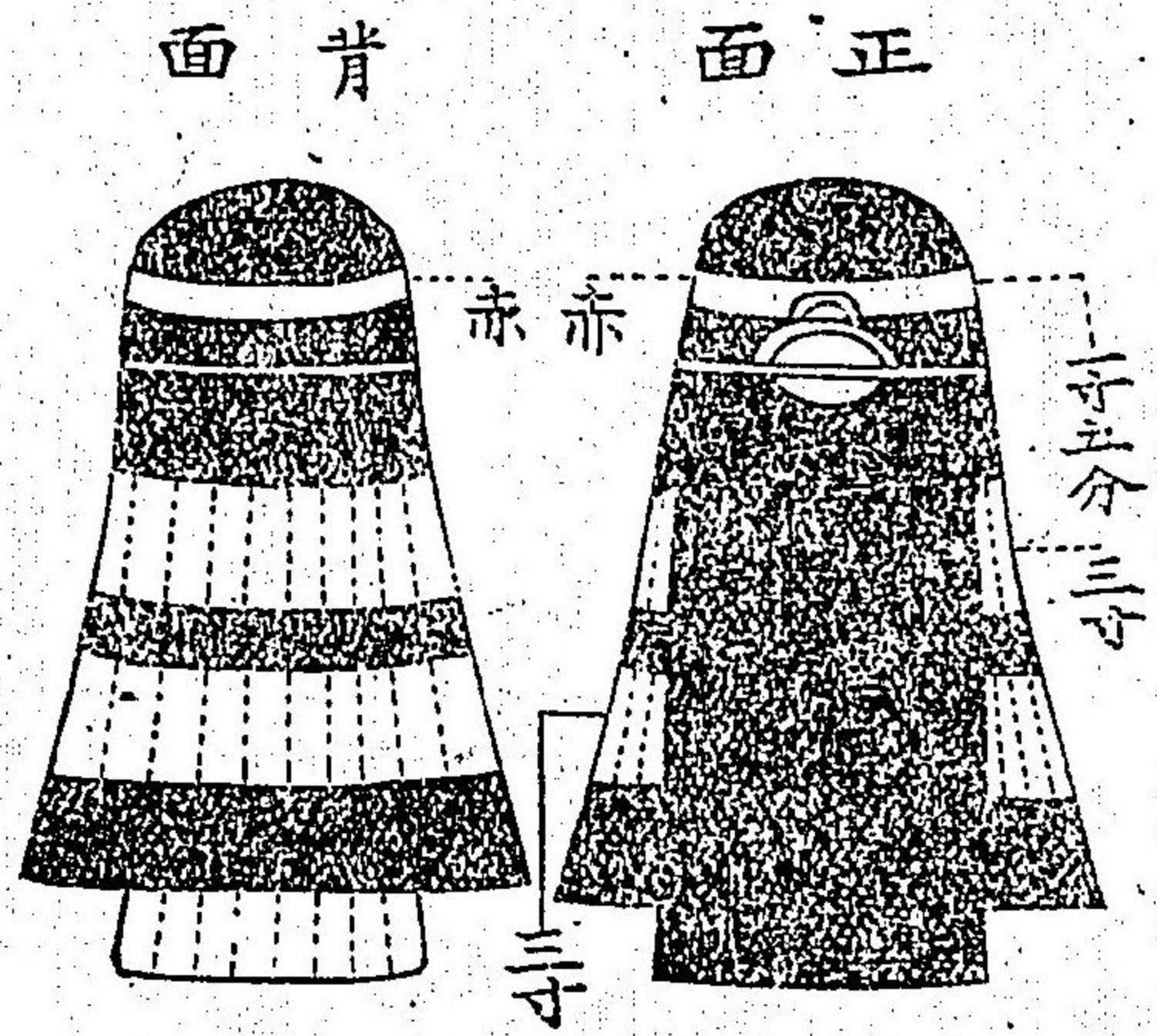
- 一 指揮官 一名 保安課長ヲ以テ之ニ充ツ

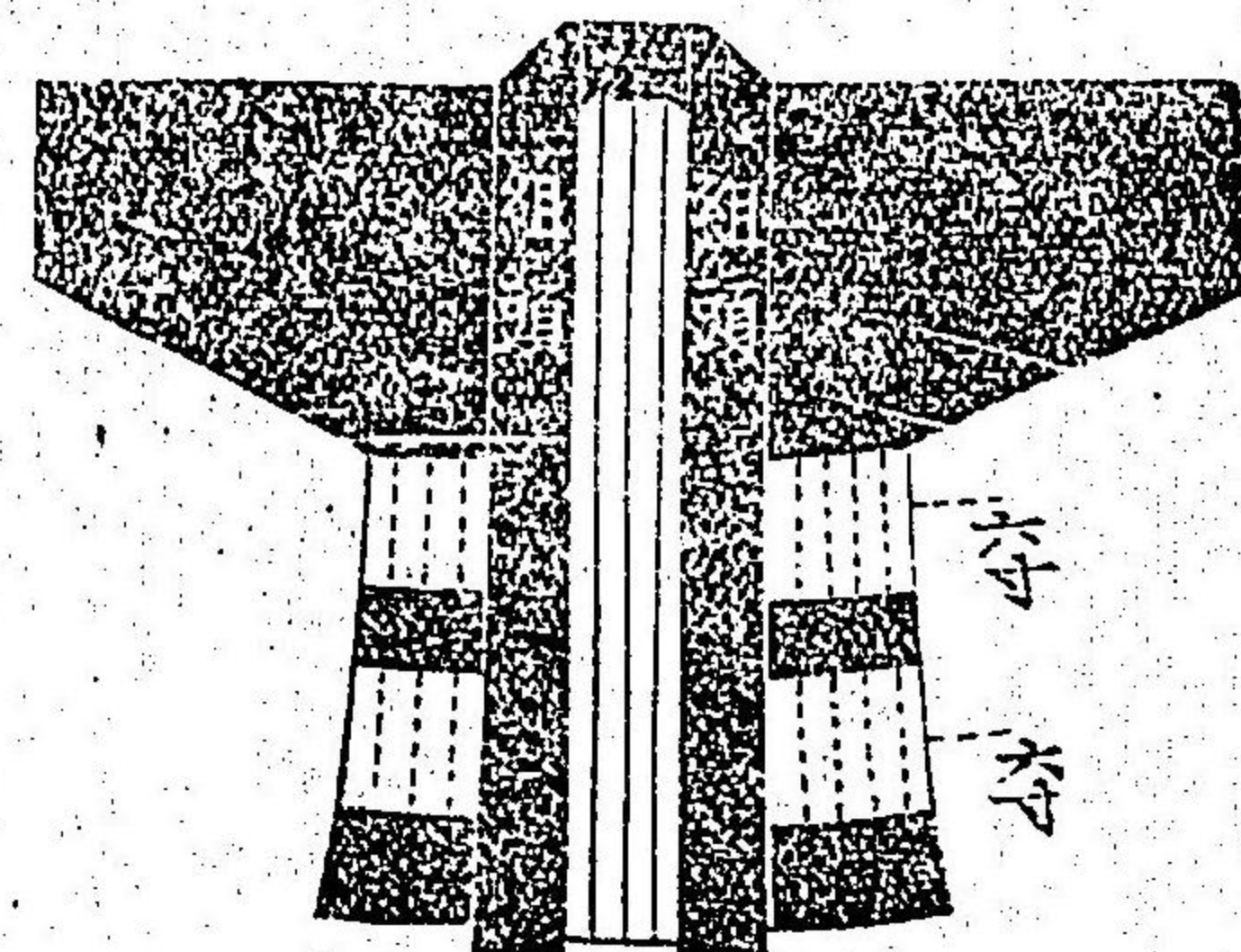
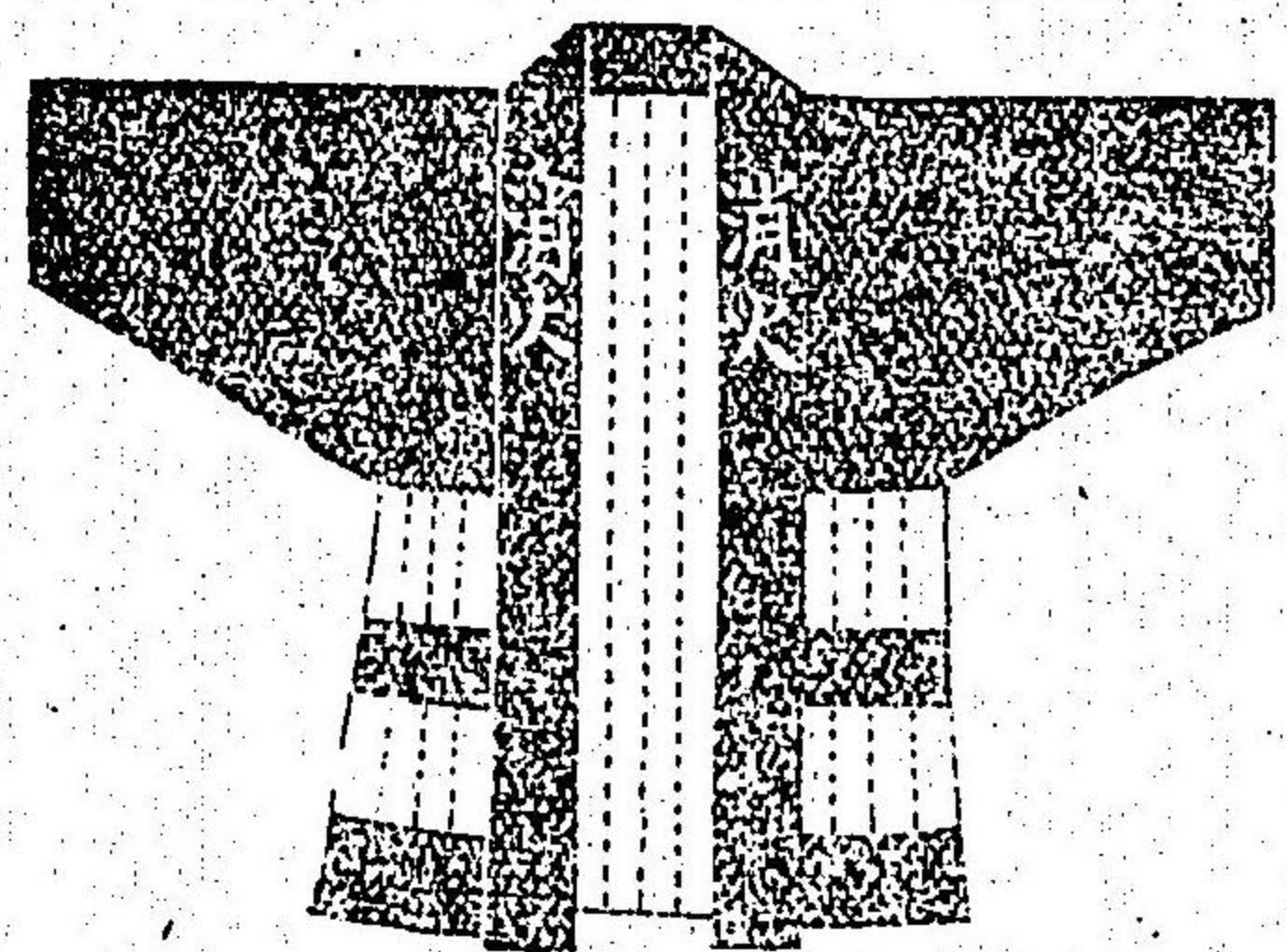
- 一 副官 一名 保安課警部ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 消防組頭 一名 消防夫ヨリ選用ス
 - 一 消防夫 若干名 本廳所在地居住者ニシテ滿二十年以上四十年以下ノ強壯者ヲ以テ之ニ選用ス
- 第二條 消防組ハ本廳及福島町ニ火災アルトキハ速ニ警察部ニ驅付クヘシ
- 第三條 唧筒ノ運轉使用ハ總テ指揮官ノ命令ニ從フ指揮官不在ノトキハ上席副官代理スヘシ
- 第四條 第一條ニ掲クル外福島町中ニ火災アルトキハ之ニ適用ス
- 第五條 前項ノ場合ニ於テハ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第六條 消防ニ從事スヘシ
- 第七條 消防組頭以下ハ鎮火ト認ムルモ其指揮官ノ命令アルニアラサレハ退場スヘカラス
- 第八條 消防組頭ハ火災ノ際消防夫ニ於テ病氣其他ノ事故ノ爲メ出場セサルモノアルトキハ其人名ヲ指揮官ニ申出ツヘシ
- 第九條 唧筒及附属品ハ警察部保安課ニ於テ之ヲ保管スヘシ
- 第十條 消防組頭及消防夫ハ毎年三回警察部ニ於テ消防ノ演習ヲ爲スヘシ
- 第十條 消防組ノ被服器具ハ之ヲ貸與ス其服制及器具ノ徽章ハ別圖ニ據ルモノトス

消防組年手當額豫算表

名	稱	金	額
組頭	金	參圓	六拾錢
消防夫	金	壹圓	八拾錢







○陸軍兵失蹤者捜査方ノ件

警本訓示第五六號 (明治三十一年五月)
明治二十九年以前ノ徵兵及陸軍豫備兵後備兵等ノ失蹤者ニ對スル捜査ニ關シ其筋訓令ノ次第モ有之候條同失蹤者ニ對シ隨時捜査ヲ加ヘ發見シタルトキハ相當取扱其旨深カニ申報スヘシ 但捜査ノ便ニ供スル爲メ警察署ヘハ其筋調査ニ係ル失蹤者名簿ヲ配付候ニ付警察分署ニ於テ必要ナルトキハ本屬署ニ就キ参照スヘシ

○移民渡航願書所轄警察官署ヲ經由方ノ件

縣令第六五號 (明治三十一年八月)
明治二十九年(五月)外務省令第三號移民保護法施行細則第二條ニ依ル渡航願書(渡航願ト同時ニ同一ノ書面ヲ以テ旅券ノ下付ヲ願出ル者ハ明治十一年外務省布達第一號海外旅券規則ニ依リ町村長ノ與書ヲ得ルヲ要ス)ハ移民原籍地ノ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

○移民渡航願ニ關スル調査事項ノ件

警本訓示第七七號 (明治三十一年八月)
本年(八月)縣令第六十五號ニ依リ渡航願書ヲ提出シタル者アリタルトキ左ノ事項ヲ取調ヘ意見ヲ具シ縣廳ニ進達スヘシ
一 願書ハ移民保護法施行細則第二條ノ事項具備スルヤ否
一 兵籍上ノ關係

一 從來ノ生業

- 一 再渡航者ナルヤ否
- 一 目的トスル業務ニ從事スルニ適當ナル人物ナルヤ否
- 一 前科又ハ犯罪ノ有無
- 一 性行其他參考トナルヘキ事項

○御肖像取締方ノ件

訓示第二號 (明治三十一年一月)
御肖像取扱ニ關シ令般内務大臣ヨリ諭告ヲ發セラレタルニ付テハ明治二十五年十二月警乙第六八八號通達ハ自然消滅候條自今右諭告ニ基キ嚴重注意取締セラレヘシ

○犯罪摘要録ノ件

訓令丁第八八號 (明治三十一年三月)
犯罪摘要録別紙ノ通り相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス 但簿冊ノ首端ニ記載例ヲ掲ケ置クヘシ

受理	主任官
犯罪發覺	被告人
犯罪姓名	族籍住

逮捕年月日時	及場所	第 犯年月 日時場所 及其要領	前 科	留 置	送 致 又 ハ 釋 放	證 據 物 件 及 其 處 分 方	裁 判 結 果	備考	所 身 分	職 業 氏 名	年 齡	被 害 者 住 所 及 名 氏
									備 考			
犯罪摘要錄												
福 島 縣												

- 記載例
- 一 犯罪ノ何タルヲ問ハス裁判所ニ送致スルモノハ悉ク本簿冊ニ登録スルモノトス
 - 一 受理ノ欄ニハ明治何年何月何日ト記入スヘシ
 - 一 犯罪發覺ノ欄ニハ巡査何某告發又ハ何某告訴ト記入スヘシ
 - 一 罪名犯况ノ欄ニハ窃盜ナレハ窃盜準現行又ハ非現行ト記入スヘシ

- 一 逮捕年月日時及場所ノ欄ニハ明治何年何月何日何時何處ニ於テ逮捕ト記入スヘシ
- 一 犯罪年月日時場所及要領ノ欄ニハ窃盜ナレハ明治何年何月何日何時何町村某方土藏チ棒刀ニテ切破リテ忍入リ衣類何点チ窃取スト記入スヘシ
- 一 前科ノ欄ニハ窃盜ナレハ窃盜何犯ト記入スヘシ
- 一 留置ノ欄ニハ明治何年何月何日何時ト記入スヘシ
- 一 送致又ハ釋放ノ欄ニハ明治何年何月何日何時何裁判所ニ送致又ハ明治何年何月何日何時釋放ト記入スヘシ 但非現行犯ニシテ承諾同行ヲ要スルモノハ送致チ承諾同行ニ改ムヘシ
- 一 證據物件及其處分方ノ欄ニハ衣類ナレハ衣類何点(假下)又ハ棒刀ナレハ棒刀一(送致)ト記入スヘシ
- 一 裁判結果欄ニハ重禁錮ナレハ重禁錮何月監視何月ト記入スヘシ
- 一 主任官ノ欄ニハ警部何某ト記入スヘシ
- 一 備考ノ欄ニハ各欄記外ニ必要ト認ムヘキ事項ヲ掲載スヘシ
- 一 被告人又ハ被害者多數ニシテ其欄内ニ記入シ難キ場合ニハ別紙ヲ用ヒ其番號ハ何號ノ内ト記入スヘシ

○犯罪受附簿廢止ノ件

訓示第二七號 (明治三十二年三月)
 明治二十二年(十二月)警乙第三一四號違ハ來ル四月一日ヨリ廢止ス

(訓示第二七號參照)

明治二十二年十二月警乙第三二四號違ハ犯罪受附簿ナリ

○電氣事業願届警察署經由方ノ件

縣令第二八號 (明治二十二年四月)

自今電氣事業ニ關スル願書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

○電氣事業ニ關スル災害報告方ノ件

訓示第七九號 (明治二十二年十一月一日)

爾今電氣事業ヨリ多大ノ災害ヲ惹越タル場合ニハ直チニ事實調査ノ上其概要

ヲ即報スヘシ

○遺失物法同施行細則取扱手續ノ件

訓令第一三三號 (明治三十一年四月)

遺失物法及同施行細則取扱手續左ノ通り相定ム 但明治十九年(五月)第一五號

得遺失物及置捨物取扱心得ハ本手續施行ノトキヨリ廢止ス

遺失物法同施行細則取扱手續

第一條 他人ノ遺失タル物件ヲ拾得差出タルトキハ別紙第一號様式ノ領置

簿ニ登記シ受領證ヲ交付スヘシ

第二條 拾得物ヲ領置タルトキハ別紙第二號様式ノ木札ヲ付シ一定ノ場所ニ

保管スヘシ 但シ木札ノ番號ハ領置簿ノ番號ヲ用ユヘシ

第三條 巡查駐在所ニ拾得物ヲ差出タルトキハ別紙第三號様式ノ假受領證ヲ

交付シ物件及關係書類ハ便宜所屬警察官署ニ送付スヘシ

第三條 拾得者豫メ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免カル、旨申告

スルトキハ警察官署ニ於テハ別紙第一號様式領置簿中巡查駐在所ニ於テハ別

紙第三號様式假受領證中相當欄内ニ住所氏名ヲ自署捺印セムヘシ 但自署

又ハ捺印シ能ハサルトキハ其旨ヲ附記シ當該署之レニ捺印スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ受領證又ハ假受領證ヲ交付スルニ及ハス

第五條 甲署所轄内ニ於テ遺失ノ物件ヲ拾得シ之レヲ乙署ニ差出タルトキハ

其旨乙署ヨリ甲署ニ通報シ物件ハ乙署ニ於テ取扱フヘシ

第六條 拾得物ヲ遺失者又ハ所有者ニ返還スルカ若クハ拾得者ニ下附スルトキ

ハ別紙第一號様式領置簿中相當欄内ニ住所氏名ヲ自署捺印セムタル後受領

證ヲ引換交付スヘシ 但自署又ハ捺印シ能ハサルトキハ其旨ヲ附記シ當該署

之レニ捺印スヘシ

第七條 遺失物法第十三條第二項ニ該當スヘキ埋藏物ヲ發見差出タルトキハ其

發見人ノ住所氏名發見地名及物件ノ形狀等ヲ詳記シ知事ニ報告スヘシ

第八條 拾得物國庫ニ歸屬シタルトキハ其品名員數及見積價格ヲ詳記シ知事ノ

指揮ヲ受ケ處分スヘシ

第九條 拾得ノ金員ヲ領置シタルトキハ一種類(例ハ兌換何何紙幣何枚何銀

行何何紙幣何枚何圓(錢)(金)(銀)(銅)貨何枚ト記スルカ如シ)

毎ニ其員數ヲ別紙第一號様式ノ領置簿ニ登記スヘシ

第十條 拾得金ヲ領置スルカ又ハ保管上拾得物ヲ賣却シタルトキハ其金員ヲ縣

第 一 號
拾得物領置證
印
右正ニ領置候也
明治年月日
警察(分)署長
警部氏名印

(裏面)
一 表裏ノ物品ハ(通商ノ)
公告ヲ爲シタル後一年
内ニ遺失者又ハ所有者
知レサルトキハ拾得者
ニ下付又依テ拾得者
期間後二年内ニ此證書
ヲ持テ物品ヲ取戻ル
ルニ前項ノ期間内ニ受取
ラザルトキハ國庫ノ所有
ニ歸屬ス
三 遺失者又ハ所有者判明
シ物品ヲ返還セザルト
キハ拾得物ノ價格百分
ノ五ヨリ少カラズ二十
ノ五ヨリ多クテ其證書
ヲ請求スルコトヲ得
但物品ヲ返還シタル
後一月ヲ過クハ時ハ
之ヲ請求スルコトヲ
得ズ
四 拾得物滅失又ハ毀損ノ
虞アルトキ又ハ保管上
不相當ノ手數及費用ヲ
要スルトキハ賣却シ其
代金ヲ拾得物トシテ
保管ス
但賣却費用ハ其代金
ヨリ控除ス
五 拾得者ハ拾得物ニ關ス
ル一切ノ權利ヲ拋棄シ
茲ヲ免レシメタルハ
キハ其旨申告スル
ニ

證
右物品下付和成リ正ニ受領候也
明治年月日 遺失者(所有者又ハ拾得者)氏名印
住所

表書ノ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免カル、コトヲ申告致
候也
住 所
明治 年 月 日 拾得者 氏 名 印

第二號樣式
明治 年 第 號
拾得者 氏 名
二寸五分
第三號樣式 (表面)

第 號
取 扱 人
巡 査 氏 名 印
割 印

第 號

拾得物假受領證

明治 年 月 日

住 所
拾得者 氏 名

右拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免カル、コトヲ申告致候也

明治 年 月 日

住 所
拾得者 氏 名 印

割印

第 號

拾得物假受領證

右當駐在所ニ差出シタルニ依リ假ニ此證書ヲ付與シ他日本領證書ト交換スベキモノ也

明治 年 月 日

駐在所
巡查 氏 名 印

(裏面)

一此證書ハ巡查駐在所ニ於テ假ニ付與スルモノナルヲ以テ所轄警察署ニ持參シ本領證書ト引換ヲ請フヘシ 但郵便ヲ以テ交換ヲ請フモ苦カラス

表書ノ物品明治 年 月 日 時頃

ニ於テ拾得シタル旨ヲ以テ現品差出候ニ付假受領證ヲ付與致候也

明治 年 月 日

駐在所在勤
巡查 氏 名 印

警察(分)署

御 中

拾得者 住 氏 所 名

右明治 年 月 日頃

ニ於テ拾得

○石槨土器等發掘ノ際ニ於ケル届出方ノ件

縣甲第一三七號 (明治三十三年十二月)

上世以來御陵墓所在未定ノ分即今其筋ニテ取調中ニ有之就テハ古墳ト相見候地ハ人民私有地タリトモ猥ニ發掘致聞敷若シ自然風雨等ノ爲メ石槨土器等露出シ又ハ開墾中不圖古墳ニ堀リ當リ候様ノ次第有之候ハハ口碑流傳ノ有無ニ拘ハラス凡テ詳細ナル總圖面ヲ製シ地名並ニ近傍ノ字等サモ取調可申出此旨布達候事

○遺失物法施行細則中解釋方ノ件

訓示第二〇號 (明治三十二年四月)

明治三十二年內務省令第四號遺失物法施行細則第一條中貴重ノ物件トアルハ價格五圓以上ノモノタルハ勿論縱令價格ノ評定スヘカラサルモノト雖モ特ニ尊重

スヘキ性質ヲ有スル物件ヲ云ヒ又同則第三條中高價ノ物件トアルハ大凡其價格拾五圓以上ノモノヲ指ス義ニ有之候條此旨心得ラルヘシ

○遺失葉煙草處分方ノ件

訓示第二九號 (明治三十二年四月)

遺失ニ係ル葉煙草ハ其所有者知レサルトキハ法定期間後總テ葉煙草ノ儘拾得者ニ交付シ若シ官沒セララルヘキモノナルトキハ官沒ノ上無償ニテ葉煙草專賣所ニ引渡スヘキコトニ大藏省ト協議決定候旨警保局長ヨリ通牒有之候條此旨心得ヘ

○拾錢未滿ノ拾得物全給方廢止ノ件

訓示第三四號 (明治三十二年四月)

明治二十年(一月)警乙第八號ヲ廢止ス

○拾得物中貴重物件報告方ノ件

保第三三六號 (明治三十二年五月)

遺失物法施行細則第一條ニ依リ拾得物ニシテ官報又ハ新聞紙ニ掲載スヘキ貴重ノ物件ト認ムルモノアルトキハ當部ヨリ印刷局又ハ新聞社ニ掲載方申入レヘク候條物件ノ名稱等詳細御報告相成度依命此段及通牒候也

○遺失物取扱方ノ件

訓示第四五號 (明治三十二年六月)

本年三月法律第八十七號遺失物法施行以前舊法ニ依リテ保管中ノ拾得物ニ對ス

ル新法第十四條ノ期間起算方ハ左ノ通心得ヘシ

一 遺失物拾得ノ時期舊法ノ時代ニアルモ所有權取得ノ時期新法施行後ニア
ルモノハ新法第十四條ニヨリ所有權喪失ノ期間ハ其取得ノ日ヨリ起算ス

二 遺失物拾得及所有權取得ノ時期舊法ノ時代ニアリタルモノハ新法第十四
條ノ期間ハ新法施行ノ日ヨリ起算ス

○船車建築物其他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ
於テ拾得シタル遺失物處分方ノ件

保第四二七號 (明治三十三年五月十二日) (保安課長)

遺失物法第十六條ニ依リ官廳ニ屬スル船車建築物其他公衆ノ通行ヲ禁シタル構
内ニ於テ拾得シタル物件ニシテ國庫ノ所有ニ歸スル場合ハ其拾得届ヲ受ケタル
警察官署ニ於テ現金ハ直ニ收入シ物品ハ賣却ノ上收入シ特別會計ニ屬スル官廳
カ拾得者タル場合ハ現金物品トモ其官廳ニ引繼クコトニ協議濟ノ趣其筋ヨリ通
知有之候條御了知可相成依命此段及通牒候也

○遺失物口頭届様式制定ノ件

訓示第四三號 (明治三十三年十二月二十七日) (警部 長)

口頭ヲ以テ物件ヲ遺失シタル旨届出アリタルトキハ別紙様式ニ依リ届書ヲ作製
スヘシ 但明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

(用紙半紙半切)

遺失ノ 場所	所氏名	届人住
	遺失ノ 場 所	遺失 日 時
失 品	目 目	取 扱 人
	届 出	日 時
警察署長 殿		

凡 例

- 一 届人住所氏名ヲ記シタル下ニハ必ラス捺印セシムヘシ
- 一 品目ハ品質、數量、模様、形状、新古ノ別等ヲ明記スヘシ
- 一 遺失ノ場所判明ナラサルトキハ何地ヨリ何地ニ至ル間ト記スヘシ
- 一 遺失日時判明ナラサルトキハ何年何月日時頃又ハ何年何月日時ヨリ何時迄
ノ間ト記スヘシ

- 一 届出日時ハ取扱人が届出ヲ受ケタル年月日時ヲ記スヘシ
- 一 取扱人ハ本届書ヲ作製スル者ノ詰所及官氏名ヲ記シ捺印スヘシ
- 一 品目多數ニシテ用紙欄内ニ記入シ難キ場合ハ適宜別紙ヲ添付シ之レニ記入シ届人ナシテ毎葉ニ契印セシムヘシ
- 一 別紙ヲ添付スル場合ハ其別紙タルコトヲ判別シ易カラシムル爲メ本紙ニ何々別紙ノ通リト記シ別紙ニハ別紙品目ト題記スヘシ

○藝妓取締規則ノ件

縣令第三五號 (明治三十二年五月)

藝妓取締規則左之通り相定メ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

藝妓取締規則

- 第一條 藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ族籍、住所、職業、氏名、年齢及藝名ヲ記シ所轄警察官署ニ願出テ免許證ヲ受クヘシ
- 第二條 休業、廢業又ハ族籍、住所、氏名、藝名ニ異動アルカ若クハ營業所ヲ移轉シタルトキハ五日以内ニ免許證ヲ添(休業ノ場合ヲ除ク)所轄警察官署ニ届出スヘシ
- 免許證ヲ亡失毀損シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出テ書換又ハ再渡ヲ受クヘシ
- 第三條 藝妓ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ客ヲ自宅ニ宿泊セシメ又ハ招キニ應ジタル他家ニ宿泊スヘカラス

第四條 宿泊ヲ要スル旅行ヲ爲サントスルトキハ前以テ其事由行先地及日數ヲ詳記シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第五條 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アルカ又ハ刑法第四百二十五條第十項ノ處罰ヲ受ケ向ホ改悛ノ情ナキ者ハ營業ヲ停止シ又ハ營業免許ヲ取消スコトアルヘシ

第六條 本則第一條第二條第三條第四條ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第七條 從來ノ營業者ニシテ尙ホ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ明治三十二年六月三十日迄ニ本則第一條ニ依リ届出テ認可ヲ受クヘシ其手續ヲ爲サル者ハ營業ノ効ヲ失フモノトス

○藝妓取締規則取扱手續ノ件

訓示第三六號 (明治三十二年五月)

第一條 藝妓營業ヲ願出タルトキハ規則第一條ニ照査シ尙ホ左ノ事項ニ牴觸セサルトキハ第一號書式ノ免許證ヲ下付スヘシ

一 營業停止中廢業シ新ニ願出タル者

二 風俗ヲ紊ルヘキ虞アル者又ハ刑法第四百二十五條第十項ノ處罰ヲ受ケ尙ホ改悛ノ情ナキモノ

三 他人ノ名義ヲ以テ願出タル者

第二條 營業ヲ許可シタルトキハ第二號書式ノ營業者ノ名簿ニ登記シ異動アル

毎ニ加除訂正スヘシ

第三條 規則第二條ノ異動等届出タルトキハ其事實ヲ調査シ免許證ノ書換又ハ再渡ヲ爲スヘシ

所轄外ニ轉住届出タルトキハ直チニ其返納ニ係ル免許證ヲ添付シ其族籍住所氏名年齢及許可ノ年月日ヲ轉住地警察官署ニ通報スヘシ

前項通報ヲ受ケタル警察官署ニ在テハ第二條ノ營業者名簿ニ登記シ免許證ヲ書換ヘ下付スヘシ

第四條 營業ヲ許可セザルトキハ其事由ヲ詳具シ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條 營業停止又ハ許可取消ノ必要アルヲ認メタルトキハ其事由ヲ詳具シ知事ニ稟申スヘシ

第一號書式 堅二寸五分

署印

第 號

藝妓營業免許證

族籍住所

氏名

年齢

福島縣

縣印

第二號書式

許可	明治	年	月	日
轉居	明治	年	月	日

改姓名	明治	年	月	日	廢業	明治	年	月	日
許可	明治	年	月	日	轉居	明治	年	月	日
改姓名	明治	年	月	日	廢業	明治	年	月	日
許可	明治	年	月	日	轉居	明治	年	月	日
改姓名	明治	年	月	日	廢業	明治	年	月	日
許可	明治	年	月	日	轉居	明治	年	月	日

○藝妓營業者名簿廢止ノ件

訓示第三八號 (明治三十二年五月)

明治二十九年(十一月)訓示第一二六號ハ本年六月三十日限り廢止ス

(訓示第三八號參照)

明治二十九年十一月訓示第一一六號ハ藝妓營業者名簿ナリ

○藝妓取締規則中取扱方ノ件

保第三五五號 (明治三十二年五月)

今般縣令第三十五號ヲ以テ藝妓取締規則發令相成候處同則附則第八條ニ依リ從來ノ營業者ニ認可ヲ與フル場合ニハ其認可證ト共ニ免許證ヲモ下付スヘキ旨趣ニ有之候條此段及通牒候也

○料理屋飲食店藝妓屋及待合茶屋規則ノ件

縣令第三六號 (明治三十二年五月)

料理屋、飲食店、藝妓屋及待合茶屋取締規則左ノ通り相定メ明治三十二年七月ヨリ施行ス

料理屋飲食店藝妓屋及待合茶屋規則

- 第一條 料理屋、飲食店、藝妓屋及待合茶屋ノ業ヲ營メントスル者ハ族籍、住所、職業、氏名、年齢、屋號及營業所ヲ記シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ 但客席ヲ設ケザル料理屋飲食店ハ此限リニアラス
- 第二條 休業廢業又ハ族籍住所氏名ニ異動アルカ若クハ營業所ヲ移轉シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第三條 營業者雇人ヲ雇入レタルトキハ其族籍氏名年齢及前住所ヲ記載シ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ其解雇ノ時亦同シ
- 第四條 營業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ來客ヲ宿泊セシムヘカラス 但所轄警察官署ノ認可ヲ得テ宿泊セシムルハ此限リニアラス
- 第五條 雇人ニシテ公安ヲ害シ若クハ風俗ヲ紊ルノ所爲アリト認ムルモノアルトキハ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

- 第六條 營業者公安若クハ風俗ヲ害シ又ハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムルトキハ營業ヲ停止シ又ハ營業許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第七條 本則第一條第二條第三條第四條ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第八條 從來ノ營業者ニシテ尙ホ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ明治三十二年六月三十日迄ニ本則第一條ニ依リ認可ヲ受クヘシ其手續ヲ爲サル者ハ營業ノ効ヲ失フモノトス

○湯屋營業取締規則取扱手續ノ件

警乙第五二號 (明治二十一年四月)

- 第一條 規則ニ依リ營業ヲ願出タルトキハ其事實ヲ取調且ツ規則第三條構造ノ適否ヲ檢査シ不都合ナキモノハ文書式ニ依リ免許ノ指令ヲ與フヘシ其構造ヲ變更増減セントスル届出アルトキハ實査ヲ遂ケ認可スヘシ 但藥湯營業ニ係ハルモノハ賣藥規則第二條又ハ第五條ニ定メアル免許鑑札ノ寫ヲ調査スヘシ
- 第二條 免許ヲ與ヘタルトキハ第二號書式ノ臺帳ニ記載シ増減變更アル毎ニ加除スヘシ
- 第三條 規則第三條ノ構造ハ毎月一回檢査スヘシ但營業者ノ妨ケアラサル様注意スヘシ
- 第四條 規則第四條ニ依リ檢査ヲ届出タルトキハ直チニ臨檢調査ヲ遂ケ規則第

三條ノ制限ニ觸レタルモノハ改造セシムヘシ
 第五條 規則第六條ニ依リ届出タル場合ニシテ紛失氏名等ニ係ルモノハ更ニ免許ノ指令ヲ與フヘシ
 第六條 規則第七條ニ依リ届出タルトキハ其事實ヲ調査スヘシ
 第七條 規則第十七條第十八條ニ依リ届出タルトキハ遺失物取扱心得ニ依リ取扱フヘシ
 第八條 規則第二條ニ依リ免許ヲ與ヘ又ハ第六條ニ依リ廢業ヲ届出タルトキハ所轄郡役所ニ通知スヘシ

第二號書式 臺帳

許可	轉居	改姓名	廢業	許可	轉居	改姓名	廢業	許可	轉居	改姓名	廢業
明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

○山野火入取締規則ノ件

縣令甲第三八號 (明治二十一年四月)

第一條 山野ノ火入トハ茅場秣場等肥饒ノ爲メ山野ノ枯草ヲ燒クモノヲ云フ
 第二條 山野ノ火入ヲ爲サントスル者ハ左ノ各項ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ

一 火入期日

一 個所限地目段別字番號

一 四至ノ境界ヲ詳記シタル實地圖面

第三條 官有地ニ於テ柴草刈採ノ許可ヲ得タルモノ其地ニ火入ヲ爲サントスル時ハ第二條ノ手續ニ準シ届出認可ヲ受クヘシ

第四條 第二條第三條ノ認可ヲ受ケタルモノニシテ山野ノ森林原野又ハ家屋ニ接續シタル場所ニ火入ヲ爲サントスルトキハ四至ノ境界ニ防火線ヲ設ケ且ツ其森林原野又ハ家屋ノ所有者ヘ火入期日五日以前ニ其旨ヲ報告スヘシ 但官林巡邏ノ設ケアル官林接續ノ地ニ係ルトキハ本條ニ準シ官林巡邏ニ報告スヘシ

第五條 防火 ハ幅三間以上トシ都テ柴草ヲ刈採リ落葉並ニ塵芥ヲ除去シ又ハ土堤ヲ作リ或ハ堀溝等ノ設ケヲナスヘシ 但道路豁谷等ニシテ本條ノ防火線

備考欄内ニハ事實參考トナルヘキモノヲ摘記スヘシ

○森林火入報告方ノ件

保第一五三六號 (明治三十一年十月)

客月二十六日浪江警察分署ヨリ山火入取締規則取扱手續第五條ニ依リ報告スヘキ火入表ハ森林火入ヲ除キ報告スヘキモノナルヤ否ノ照會ニ付森林ト原野トニ論ナク皆署ニ於テ火入ヲ許可シタルモノニ對シテハ山野火入取締規則取扱手續第五條ニ依リ報告相成度旨ヲ以テ及回答置候條爲念此段及通牒候也

○雇人受宿營業取締規則ノ件

縣令甲第四九號 (明治二十一年五月)

- 第一條 雇人請宿トハ雇主又ハ雇人タラントスルモノ、依頼ニ應シ口入レテナシ營業トスル者ヲ云フ
- 第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察官署ニ願出免許證ヲ受クヘシ
- 第三條 左ノ各項ニ觸ルルモノハ免許ヲ與ヘス 但第三項ニ觸ル、モノト雖モ改悛ノ狀アリト認メタルトキハ特ニ免許スルコトアジヘシ
 - 一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者
 - 二 白痴瘋癲者
 - 三 強盜竊略取誘拐及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルモノ又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者
 - 四 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタルモノ

第四條 改氏名遺失毀損等免許證ニ異動キ生シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヘ届出免許證ノ書換又ハ再渡ヲ受クヘシ 但シ廢業シタルトキモ亦本條ニ準シ免許證ヲ添ヘ届出ツヘシ

第五條 請宿營業者ハ業名及住所氏名ヲ記載シタル看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

第六條 請宿營業者ハ一戸内ニ於テ貸座敷及ヒ宿屋ヲ營ムヲ許サス

第七條 雇人タラントスルモノニシテ身元分明ナラサルトキハ口入ヲ爲スヘカラス

第八條 雇人タラントスルモノニ限リ一時宿泊セシムルコトヲ得

第九條 請宿營業者ハ左ノ書式ノ宿泊人名簿ヲ調製シ前條宿泊人發着毎ニ記入シ二十四時間以内ニ該人名簿ヲ所轄警察官署又ハ巡查駐在所ニ届出ア檢印ヲ受クヘシ 但シ警察官署巡查駐在所々在在以外ニ於ケル營業者ハ臨時宿泊人名簿ニ巡回巡查ノ檢印ヲ受クヘシ

届出月日	届出日	着族	籍任	所職業氏名	年	特	徵	行先地	出日	發時

第十條 宿泊料ノ代價トシテ雇人タラントスル者ノ所有品ヲ押収スヘカラス若シ受領セントスルトキハ警察署又ハ分署若クハ在勤所ニ届出認可ヲ受クヘシ 但相當ノ保證人アルトキ受領スルハ此限リニアラス

第十一條 雇人クラントスルモノサシテ狼狽若クハ懲博ニ類スル所爲チナサ
シメ又ハ口入ニ託シテ人ヲ宿泊セシムヘカラス

第十二條 請宿營業者ハ雇人又ハ雇主ヲ欺キ雇人ヲシテ他人ノ家宅ニ轉換セシ
ム又ハ種々ノ名義ヲ以テ金錢ヲ乞フヘカラス

第十三條 請宿營業者ニ於テ雇主ニ雇入ヲ周旋セントスル場合ニ其雇人ノ性質
ヲ告知スルトキハ眞實ヲ旨トスヘシ

第十四條 請宿營業者ハ雇人身元ノ保證及給金額又ハ期限内解雇ノ場合ニ於テ
其給金ハ日割ヲ以テスル等總テ結約ノ事項ヲ記載シタル證書ヲ雇主ニ差出ス
ヘシ若シ其營業者ニシテ廢業スルト雖モ口入シタル雇人約定期限中ハ保證ノ
責ニ任スルモノトス

第十五條 前條ノ結約整ヒタル上口入料ハ雇主雇人双方ヨリ半額宛テ請求スヘ
シ若シ雇人不適當ニシテ期限内交換スル場合ハ最初受領シタル口入料ノ外雇
主ヨリ請求スルコトヲ得ス

第十六條 請宿營業者ハ左ノ書式ノ雇人口入名簿ヲ調製シ結約整フ毎ニ記入シ
毎月一回該名簿ニ巡回調査ノ捺印ヲ受クヘシ

第十七條 第九條第十六條ノ帳簿ハ其使用ヲ終リタル日ヨリ前者ハ滿一年
後者ハ滿三年間保存スヘシ

雇人ノ族籍
住所氏名年齢
雇人口入月日雇人雇ハレ期限雇人ノ給金雇主ノ族籍住所氏名

第十七條 請宿營業者ハ警察官署ノ所轄チ一區域トシ組合ヲ設クヘシ 但營業
者少數ニシテ組合ヲ設クル能ハサルトキハ其事由ヲ詳記シ合併セントスル組
合取締人加印ノ上所轄警察官署ヘ届出認可ヲ受クヘシ

第十八條 組合ニ於テハ規約ヲ定メ且ツ組合中ヨリ取締一人ヲ公選シ所轄警察
官署ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 營業上ニ關スル願届ニハ取締人ノ加印ヲ受クヘシ

第二十條 請宿營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其組合ニ入ラサルモノ
ハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 營業ニ關スル諸規則命令ヲ組合營業者ニ通知スル事

二 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨添申スル事

三 營業者名簿ヲ製シ増減變更アル毎ニ之ヲ加除スル事

四 組合ニ關スル費用ヲ取立及ヒ之ヲ支拂フ事

五 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事

六 取締人任期ニ關スル事
右ノ外規約ヲ以テ定ムル事
第三十二條 組合規約ニ掲クヘキ事項左ノ如シ

一 組合ノ名稱及事務取扱所ノ位置

- 二 取締人ノ選舉及任期ニ關スル事
- 三 組合會議組織ノ事
- 四 組合費用ノ賦課及收支ノ事
- 五 雇人口入取扱ノ事
- 六 雇人口入料定額ノ事
- 七 雇人宿泊料定額ノ事
- 八 違約者取扱ノ事
- 九 舉動不審ノ者ヲ警察官吏ニ報告スル事
- 右ノ外營業上必要ノ事項
- 第二十三條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ組合取締人タルコトヲ得ス
 - 一 年齡滿二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
 - 二 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ算筆ニ差支ナキ者
- 第二十四條 取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ臨時改選セシムルコトアルヘシ
- 第二十五條 第二條第七條第十條第十一條第十二條ニ違背シタル者一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十六條 第九條第十六條第十六條ノ二ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
- 第二十七條 第四條第五條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

一 從來ノ營業者ハ本則施行ノ日迄ニ第二條ノ手續ニ從ヒ所轄警察官署ニ願出免許證ヲ受クヘシ其願出中ハ引續キ營業スルコトヲ得

○雇人受宿營業取締規則取扱手續ノ件

警乙第七八號 (明治二十一年五月)

- 第一條 規則第二條ニ依リ營業ヲ願出タルトキハ規則第三條ノ各項ニ觸レサルヤ否ヤヲ調査シ不都合ナキモノハ第一號書式ノ免許書ヲ附與スヘシ
- 第二條 前條ニ依リ免許證ヲ附與シタルトキハ臺帳ニ記載シ且増減變更アル毎ニ其旨ヲ記載シ置クヘシ
- 第三條 規則第三條ノ場合ニ於テハ左ノ各項ニ依リ精査スヘシ
 - 一 營業者タラントスルモノ、前科性質及素行
 - 二 後見人ノ身元ハ總テ營業者ノ例ニ依ル
 - 三 削除
- 第四條 規則第九條ニ依リ届出タルトキハ直チニ調査シ記載人名未端上部ニ認印ノ上下附スヘシ 但回中ニ係ル場合ハ認印ノ際其月日時ヲ記載スヘシ
- 第五條 規則第十條ニ依リ届出タルトキハ左ノ各項ヲ調査シ其不都合ナキモノハ口頭ヲ以テ認可スヘシ
 - 一 禁制物盜難物又ハ遺失物ニアラサルヤ否
 - 二 所有者ノ籍否

第六條 規則第十六條ノ帳簿ハ毎月一回檢査ナ行ヒ本手續第四ニ準シ認印スヘシ

第七條 規則第十七條但書ニ依リ届出タルトキハ營業者ノ人員及其事由ヲ取調メ支障ナキモノハ直チニ認可シ合併シタル場合ハ所轄警察署又ハ分署ニ通知スヘシ

第八條 規則第十八條ニ依リ認可ヲ請ヒタルトキハ調査ヲ遂ケ不都合ヲ生キモノハ直チニ認可スヘシ(第二十六年九月訓示 第一七七號改正)

第九條 規則第二十四條ニ依リ臨時改選ヲ命スル者アルトキハ事由ヲ詳記シ本部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十條 削除

第二號書式

福島縣何國郡何町村字番地
士(平民) 氏名 年 齡

雇人請宿營業免許証

裏 年 月 日
福 島 縣 印

番 號

許可	明治	年	月	日
轉居	明治	年	月	日
改姓名	明治	年	月	日
廢業	明治	年	月	日

○電信柱等妨害者注意方ノ件

警乙第三七號 (明治二十二年二月)

電信柱木條線ニ紙鷲ヲ懸ケ若クハ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ又ハ柱木及測量標木ニ獸畜ヲ繫キ若クハ貼紙シ戲書シ又ハ柱木ヲ記號及測量標木ヲ毀棄汚穢等ノ所爲アルモノハ電信條例ニ依リ處分セラルヘキ者ニ候處近來電信線路沿道ニ於テ漫リニ紙鷲ヲ飛シ其系ヲ柱木條線等ニ纏繞スル者有之哉ノ趣ニテ今般其筋ヨリ照會之次第有之候條右取締向キ厚注意スヘシ

○海軍軍法會議管轄ノ件

警乙第六六號 (明治二十二年二月)
海軍軍法會議管轄ノ義ニ付司法大臣ヨリ別紙之通訓令相成候條其旨心得ヘシ

(別紙)

司法省刑内第一八九號 明治二十二年三月十七日 (總府廳(東京府) 裁判所(東京府) 裁判所(東京府) 裁判所(東京府))

明治二十二年三月十五日ヨリ改正海軍治罪法實施候處東京軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ハ同會開延マテ改正海軍治罪法第二十五條ニ依リ横須賀鎮守府軍法會議ニ於テ處分候條從前ノ通り取計フヘシ

○出版物發賣頒布禁止取締方ノ件

警乙第一二二號 (明治二十二年五月)

出版條例ニヨリ通常出版物ニ係ル發賣頒布ノ禁止ハ其都度官報ニ掲載可相成筈ニ付別ニ不相違候條右ハ官報ニヨリ取締候様致スヘシ

○瀛車災害豫防注意方ノ件

縣告諭第二號 (明治二十二年九月)

鐵道瀛車進行ノ際ハ危險ノ恐ルヘキモノナルヲ以テ各其災害ヲ避クヘキハ勿論ナリト雖モ各從來地方ノ實況ヲ見ルニ瀛車進行ノ際線路ヲ通過シ或ハ線路ニ接近シテ進行ヲ傍觀シ或ハ小兒ノ線路内ニ遊戯ヲ爲シ爲メニ機關車ニ觸レ死傷シタル者往々有之石ハ必竟瀛車ノ危險ヲ意トナラス不時ノ災害ニ罹ルモノナレハ各自深ク注意ヲ加ヘ右危害ヲ避ケ各生命ヲ保全セサル可カラズ殊ニ小兒ノ如キハ瀛車ノ危險ヲ辨知セサルヲ以テ機關車進行ヲ來ルモ之レヲ退カズ爲メニ死傷スル者多シトス此等ハ其父兄ナル者ニ於テ厚ク注意シ平素遊戯ヲ爲スニ於テモ鐵道線路内ニ致レコトヲ嚴禁シ不慮ノ災害ニ罹ラサル様諭示セ置クヘシ

○鐵道線路又ハ列車ニ加害者取締方ノ件

警本訓示第三〇號 (明治二十八年三月)

鐵道線路若クハ列車ニ對シテ危害ヲ加フルモノ往々有之ニ對スレ取締方ハ其時々及訓示置候ニ付テハ爾來周到嚴密ナル取締ヲ加ヘ居候義ハ勿論ニ候處未タ其跡ヲ絶ツニ至ラサルハ遺憾ナシトス殊ニ軍隊輸送ノ際ニ於テ右等ノ義有之候テハ其關係ノ及ホス處容易ナラサル次第ニ候條此際鐵道線路若クハ列車ニ對シテ危害ヲ加ヘ又ハ線路沿ノ電信線ヲ切斷スルモノ無ク様一層嚴密ノ取締ヲ爲シ萬一此等ノ加害者有之候時ハ時機ヲ失セス關係ノ警察官署ニ通報スル等搜查方遺漏ナカラシメ且ツ其狀況即時申報スヘシ

○瀛車妨害者取締方ノ件

警本訓示第一四二號 (明治二十八年八月)

瀛車妨害者取締方ノ儀ニ付テハ屢々及訓示置候處爾來嚴密警戒ヲ加フルノ結果近來妨害者ノ跡ヲ絶チシハ實ニ幸ニ屬ス然ルニ地方ニ依リ往々列車ノ進行ニ妨害ヲ與フルモノ有之趣ヲ以テ取締方其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條此際一層警戒ヲ周到ニシ禍害ヲ未然ニ防カサル様注意ス可シ

○瀛車脫線報告ニ關スル注意方ノ件

保第一二七五號 (明治三十年九月)

官私設鐵道線ニ於テ車輛脫線車輛衝突、線路故障其他危險ナル運轉上ノ事項報告方客月三十日訓示第七七號ヲ以テ訓示相成候處右ハ縣廳ヨリ詳細其筋ニ報告

スル材料ニ供セラルル儀ニ候條前記ノ事件相生ノ候ハ、實地ニ臨ミ篤ト事實ヲ調査シ精密御報告相成度此段及通牒候也

○鐵道線路並列車危害取締方ノ件

保第七六二號 (明治二十三年八月二十五日) (保安課長)

瀛軍妨害者取締方ノ義ニ付テハ是迄數次訓示ノ次第モ有之候處近來尙又線路若クハ列車ニ對シ種々ノ危害ヲ來スヘキ妨害ノ所業ヲ爲ス者増加ノ傾向有之相當御注意中トハ存候得共右ハ其關係ノ及ホス處容易ナラサル義ニ候間爾後一層該訓示ヲ服膺セラレ嚴重御取締相成度依命此段及通牒候也

○海軍軍人軍屬犯罪者送致方ノ件

警乙第二七三號 (明治二十二年十一月)

海軍軍人軍屬犯罪者送致方ノ義ニ付今般司法大臣ヨリ別紙寫ノ通訓令相成候條其旨心得ヘシ

(別紙)

司法省刑甲第四三三號 明治二十二年十一月七日 (裁判所 警視廳 北海道廳 府縣(東京府)憲兵司令部)

海軍軍屬ノ犯罪者ヲ逮捕シタル時ハ從來橫須賀鎮守府軍法會議ヘ致送シタル處明治二十二年七月東京吳佐世保ノ各地ニ軍法會議開設後モ仍ホ橫須賀ヘ向テ送致シ來リ候モノ有之趣自今海軍軍法會議ノ管轄ニ屬スル犯罪者ヲ逮捕シ或ハ其自首ヲ受ケタル時ハ其最近ノ軍法會議若クハ被告人ノ所屬長ニ送致スヘキノ儀ト心得ヘシ 但シ海軍諸官ヨリ逮捕ヲ囑託シタル者ハ其囑託シタル諸官ニ送致

スル義ト心得ヘシ

○殘忍ナル觀物興行禁止ノ件

縣令甲第一二九號 (明治二十二年十一月)

神佛祭典ニ際シ諸觀物興行ヲ爲ス者ノ中ニハ禽獸蛇蝎類ノ動物ヲ生存ノ儘斷截斷斷シ其他殘忍ナル所業ヲ演シ衆庶ノ觀覽ニ供スルモノニ往往有之哉ニ聞ヘ右ハ一般風俗上最モ忌ムヘク厭フヘキモノニ有之候條自今右演技ハ都テ之ヲ禁止ス

○殘忍ナル觀物興行審察方ノ件

警乙第二八五號 (明治二十二年十一月)

今般縣令甲第一二九號ヲ以テ神佛祭典ノ際諸興行中禽獸蛇蝎類ノ動物ヲ生活ノ儘斷截シ若クハ斷斷シ其他殘忍ナル所業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スル演技ヲ禁止セラレ候處右ハ一般ノ風俗維持ノ主旨ニ出テタルモノニ有之候ニ就テハ自今右ノ演技興行ヲ届出フタルトキハ認可ヲ與ヘサルハ勿論ナリト雖モ實際ノ所業ニシテ未タ殘忍ト認ムヘカラサル場合ニ於テハ宜ク事業ヲ審查シテ其幾分ノ取締ヲ爲シ許否上寬嚴ノ度ヲ誤ラサル様深ク注意スヘシ

○軍人軍屬犯罪者送致方ノ件

警乙第一五號 (明治二十三年一月)

軍人軍屬犯罪者逮捕之節送付方ノ義ニ付第一師團法官部主事ヨリ左ノ通照會有之候條其旨心得ヘシ 議第十號 (第一師團法官部主事照會)

各縣下ニ於テ軍人軍屬之犯罪者逮捕候節往々常部或ハ軍法會議理事ニ宛交付有之候處陸軍檢察官ノ職ヲ帶ルモノハ陸軍治罪法第三十一條同條第三十二條ニ明示有之通りニシテ當所ニ於テハ檢察權ヲ有スルモノニ無之ヨリ其順序履行スル爲ノ手數ヲ要シ事務上不都合不少候間自今右ノ場合ニハ必ズ陸軍治罪法第四十三條ニ依リ措高相成候様豫メ御管下警察署へ御諭達相成度此段及御照會候也
追テ當所理事ノ令狀ニ對シ逮捕相成タル分ハ直ニ御交付有之當ニ候爲念此段申進候也

() 地租條例違犯者處分方ノ件

警乙第一三九號 (治治二十三年四月)

地租條例違犯者取扱方之義ニ付大藏省主稅局長ヨリ左ノ通り通牒有之候條其旨心得ヘシ

地第七三五號 (明治二十三年四月十一日大藏省主稅局長通牒)

地租條例第二十六條及第二十七條ノ罪質ハ即時犯ナルカ將テ繼續犯ナルヤニ付テハ往々疑義ヲ免レス候ニ付司法省刑事局長へ及照會候處別紙寫之通大審院決議ノ趣回答有之候間御心得迄ニ及御送付候也

司法省刑事局長第五八號 (明治二十三年三月二十五日司法省刑事局長回答)

明治二十三年三月十五日付テ以テ地租條例第二十六條第二十七條違犯者取扱方ノ義ニ付御照會之趣了承右ハ實際ノ取扱ハ總テ大審院ノ意見ニ依リ義ニ付同院へ及協議候處同院ニ於テ別紙之通決議候條右様御承知相成度此段及回答候也

(別紙)

地租條例第十一條ニ違犯シ同條例改正第二十六條ニ依リ處斷スヘキモノ及ヒ同條例改正第十六條第一項ニ違背シ第二十七條ニ依リ處斷スヘキモノハ即時犯ナリトス

○ラツカロツク取締方ノ件

警乙第二七九號 (明治二十三年八月)

新發明火藥「ラツカロツク」取締方ニ付警視廳伺ニ對シ指令相成候旨別紙之通り通知有之候條此旨心得ヘシ

追テ部下ニ免許商人有之警察署ニ於テハ取扱之際注意ヲ加ヘ候様傳達シ置ク

(別紙)

視甲第一六三號ノ内 (明治二十三年八月二日內務書記官通牒)

米國紐育レントロツク「パウダー」商會ニ於テ發賣ニ係ル「ラツカロツク」取扱方ノ義ニ付左記ノ通り警視廳へ指令相成候條此旨及御通牒候也

米國製ラツカロツク取扱方ノ義ニ付請訓

(明治二十二年十一月三十日警視廳總監請訓)

米國紐育レントロツク「パウダー」商會ニ於テ發賣ニ係ル「ラツカロツク」貯藏及運搬取扱方ノ義火藥類賣買營業者高田慎藏ヨリ別紙ノ通牒出ニ付該品試驗候處發

火ノ強力及元素ハ別對甲乙號成績ノ通りニシテ「ダイナマイト」ヨリモ一層猛烈ノモノニ有之且ツ物體ハ固形体ト流動体トニツニ成立チ居ルモノニシテ之ヲ分離スルトキハ危險ノ虞ナキカ如シト雖モ若シ事疎虞ニ失シニ体相合スレハ忽チ恐ルヘキ爆發ヲ爲シモノナレハ之レカ運搬ナ自由ニ放任スルトキハ不測ノ禍害ヲ來タス哉モ難計仍テ買賣ハ勿論貯藏運搬上ニ於テモ頗フル注意ヲ要スヘキ儀モ有之候ニ付火藥取締規則ニ據リ可然ト思考候得共新發明ニ係ルモノニ付キ此段請訓候也

指令 (内務大臣)

客年十一月三十日付一第五四六號請訓ヲツカロツク取扱方ノ件渾テ火藥取締規則ニ據ルヘキ義ト心得ヘシ

○警部代理ノ件

警乙第四三六號 (明治二十三年十一月)

別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答有之候條此旨心得ヘシ (甲號)

(警)警第三〇三九號 (明治二十三年十月廿九日司法省刑事局長宛本縣知事問合) 來ル十一月一日ヲ以テ實施可相成刑事訴訟法中司法警察官ニ於テ爲スコトヲ得ルキ場合ニ在テ實際不得止トキハ明治十四年司法省丙第十三號達ニ基キ巡查チシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦儀トハ考量候得共差掛候次第有之疑義相生候條至急御意見致承知度此度及御問合候也

追テ右代理不相成義ニモ候得ハ各署共多クハ警部一名ヲ配置致置候儀ニ付實際如何爲取扱可然哉併テ御見込御示ニ相成度候 (乙號)

司法省文第三六九號 (明治二十三年十月三十一日司法省文書課長回答) 本月二十九日付警第三〇三九號御問合之趣了承右ハ御意見ノ通致思料候此段及御回答候也

追テ主管ノ件ニ付小官ヨリ及御回答候也

○私訴申立ノ件

警乙第八號 (明治二十四年一月)

私訴申立ノ義ニ付納富檢事正ヨリ別紙ノ通り通牒有之候條其旨心得ヘシ (別紙)

檢甲第一〇號 (明治二十四年一月八日福島地方裁判所檢事正通牒) 從來檢事並警察官等ニ宛テタル告訴狀ニ併セテ私訴ノ申立ヲ爲ス旨ヲ付記シタルモノ住々有之タル處右ハ私訴ヲ提起シタルモノト看做シ難キニ付自今告訴ト共ニ私訴ヲ爲スモノハ別ニ地方裁判所長ニ宛テタル私訴狀ヲ作リ之ニ假住所届ヲ添ヘ告訴狀ト共ニ差出スヘク儀ニ候條御心得迄申進候尙各警察官へ貴官ヨリ至急御通達方御取計有之度候也

○逮捕狀取消警察報ニ記載方ノ件

警乙第八號 (明治二十四年二月)

檢事ノ發シタル逮捕狀ニシテ其取消スヘキモノアルトキハ其旨檢事ヨリ直チニ
通達相成來候處自今右場合ニ於テハ當部ニ其通知ヲ受ケ當部ニ於テハ警察報ヲ
以テ之ヲ通達スヘキ様協議致候條各署ハ右通達ニ依リ其令狀ハ之ヲ發シタル檢
事ヘ返却スヘシ

◎乗合馬車取締規則ノ件

縣令第八二號 (明治二十五年十二月)

- 第一條 乗合馬車營業トハ馬車ニ客ヲ乗セ取者馬下ヲ附シ營業スルヲ云フ
- 第二條 前條ノ營業ヲナサントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受ク
ヘシ但軌道ヲ用フルモノハ布設ノ許可ヲ得タル書面ノ寫並ニ線路圖面會社
ニ係ルモノハ其社則テ添フヘシ
- 第三條 營業者ハ車體馬匹ノ使用以前所轄警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受ケ各別ニ
其檢査證ヲ受クヘシ
其新造又ハ改造シ若クハ買受ケ讓受ケテ爲シタルトキモ亦同シ
- 第四條 營業者ハ取者馬丁ノ就業以前其族籍住所氏名年齢ヲ所轄警察署又ハ分
署ヘ届出一人毎ニ鑑札ヲ受クヘシ
- 第五條 營業者自ラ取者又ハ馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ總テ取者馬丁ノ例
ニ從フヘシ
- 第六條 車體及馬匹ハ毎年四月十月所轄警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受クヘシ
- 第七條 取者馬丁ノ鑑札ハ毎年四月所轄警察署又ハ分署ヘ各自携帶シテ檢査ヲ

受クヘシ

- 第八條 前二條定期外ニ於テ臨時ニ檢査ヲ行フコトアルヘシ
- 第九條 轉居改氏名又ハ車馬檢査證及ヒ取者馬丁ノ鑑札面ニ異動ヲ生シ若クハ
失却毀損シタルトキハ七日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出書換又ハ再渡ヲ
受クヘシ
- 第十條 左ノ場合ニ於テハ速カニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出車馬檢査證又ハ取
者馬丁ノ鑑札ヲ返納スヘシ
一 廢業又ハ車馬ヲ賣渡シ讓渡シ若クハ其使用ヲ廢シタルトキ
二 取者馬丁ヲ解雇シ又ハ取者馬丁ノ失踪逃走若クハ死亡シタルトキ
- 第十二條 車馬檢査證又ハ取者馬丁ノ鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス
- 第十三條 馬車ヲ運轉スルニハ取者馬丁ヲ缺クヘカラス
- 第十三條 乘客ノ員數ハ車體馬力ニ應ジ之ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認
可ヲ受クヘシ
- 第十四條 馬匹檢査證ハ馬匹ノ頸輪ニ結著シ車體檢査證ハ車體内部ノ見易キ所
ニ釘付スヘシ
- 第十五條 檢査證アル車馬ト雖モ第十六條第十七條ノ制限ニ適セス又ハ車體器
具ノ破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルトキ認メタルトキハ其使
用ヲ差止ムルコトアルヘシ
- 第十六條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フ
一 車體ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘシ

二 車體ハ無地漆塗又ハ「ペンキ」塗ニシテ其屋根ハ木製ノモノトス
 三 客座ハ清潔適當ノ裝置ヲ爲シ一人ノ座席ハ幅壹尺貳寸ヲ下ルヘカラス
 四 清潔ナル日覆及雨覆ヲ備フヘシ
 五 車輪ニハ泥除ヲ設クヘシ
 六 車體面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘシ
 但提灯ヲ用フルモ妨ケナシ
 七 運轉器心棒索條力革手綱及其他ノ器具ハ堅牢強靱ノモノヲ用フヘシ
 八 齒止銼ハ一輛ニ付八個以上ヲ用意スヘシ
 第十九條 馬匹ハ五才以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ
 第二十條 馬匹ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者且馭者ハ馬術ニ熟達スル者ニ限ルヘシ
 第二十一條 馭者馬丁ハ鑑札ヲ携帶シ尙馭者ハ乗合馬車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ視見ヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ
 第二十二條 馭者馬丁ハ頰冠リ其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス
 第二十三條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス但馭者避ク可カラサル事故アルトキハ馬丁チ「マ」馬車ヲ管守ヲ爲サシムヘシ
 第二十四條 乘客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十五條 乘客中傳染病ニ罹リタルモノアルトキハ速ニ警察官吏ニ報告スヘシ
 第二十六條 馭者臺ニ客ヲ乗載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲナサスヘシ
 物品ヲ載スヘカラス
 第二十七條 他人ニ馬ヲ馭セシムヘカラス
 第二十八條 行人ニ對シ強ヒテ乗車ヲ勸ムヘカラス
 第二十九條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫リニ疾驅スヘカラス
 第三十條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フ
 一 馬車道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ
 二 馬車及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ
 三 警車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
 四 前車徐行シ後車疾驅セントスルトキハ後車ヨリ喇叭ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避テ後車ハ右ヲ通過スヘシ
 五 郵便用消防用ニ供スル馬車及漕水車神輿渡御其他葬儀等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ
 第三十一條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ尙喇叭ノ合圖ヲ爲シ且馬丁チ「マ」前行セシムヘシ街角ニ於テハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ
 第三十二條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘシ